

資料3

新潟県中学校教育研究会

令和4年度 指定研究2年次

授業情報誌 Class と授業後のまとめ

指定2年次の研究原稿に授業後のまとめ2ページ追加

新潟県中学校教育研究会
授業情報誌
Class・深い学びにいたる授業
第7号 2022年10月
ISSN 2169-8111

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第7号 2022
ISSN 2169-8111

指定研究の授業情報誌

- 教科・領域の指定研究による「深い学びにいたる授業」の授業を紹介
- 単元・題材で目指す「深い学びの姿」・「深い学びにいたるポイント」を紹介
- 研究会の公開授業を含めた単元・題材全体の様子を紹介

国語

「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を目指して

中教審は、「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を実現するための視点として、主体的・対話的で深い学びを示しています。

国語科では、これまで培ってきた学び合う授業をいかしつつ深い学びが成立する授業を目指します。そのために、深い学びの姿を明確にし、そこに至る過程で学びの質を重視した授業改善を行います。



県中教研 国語部 全体部長
上越市立三和中学校

校長 西條 正人

○単元構想シートに明記！授業改善に向けた「学習者」の視点を

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の中で全てが完結されるものではないので、単元や時間のまとまりを見通した授業改善を行うことが重要です。つまり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材などのまとまりをいかにバランスよく考えるかにつながるとも言えます。

今回導入した単元構想シートに、深い学びでの「学習者（生徒）の姿」を明記したことは、授業改善に向けた大きな一歩と言えます。ただ、「学習者」の視点の裏には必ず「授業者」の視点（どのように教えるか）が存在していることを忘れずに、授業改善を進めていくことを肝に銘じていく必要があります。

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ○知識を相互に関連付けて、より深く理解する ○情報を精査して考えを形成する ○問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ○資質・能力を焦点化する →付けたい力を明確にする ○単元や各授業の目標を把握する ○ねらいや達成した子どもの姿を具体化する ○教材の価値を把握する ○単元及び各時間の計画を立てる ○目標の達成状況を把握する

国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究（H29年度～R3年度）より

○深い学びの姿の実現に向けた実践ポイント

「深い学び」の実現について、新潟県立教育センターは、主体的・対話的で深い学び実践ハンドブックの中で、「深い学び」実践ポイントとして次の内容を明示しています。国語部では、「学習者」の姿を明確にするとと

もに、「授業者」の視点を意識してきました。その中で、以下に示した実践ポイントを組み入れながら、授業改善につながる授業デザイン（指導案に明示）を行いました。

◇育成する資質・能力の明確化

- ・単元で育成したい資質・能力は何かを明確にもつ。
- ・育成したい資質・能力を体現している生徒の姿を具体化する。

◇学ぶ意欲を引き出す課題の工夫

- ・生徒の疑問をもとにした「問い」を作成する。
- ・「解決したい」「知りたい」という思いをもてるよう課題の内容や提示の仕方を工夫する。

◇4つの「場」を生かした単元構成の工夫

- ・見通しをもつ「場」 → 課題解決に向けたつながりのある学習過程や、身に付けさせたい資質・能力を生徒と共有する。
- ・考えを伝えあう「場」 → 考えを交流させることで、自分の考えを違う視点から捉え直したり、考えの更新や再構成を図れるようにする。
- ・活用・発揮する「場」 → 身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習活動を設定し、学びに目的意識をもたせ、更なる定着を図る。
- ・振り返りの「場」 → 学んだことの意義を実感させ、学びに向かう力・人間性等の育成につなげる。

「主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック（新潟県立教育センター）」より抜粋



特に、“課題の工夫” “伝え合う場”の充実による授業デザイン

つながりのある学習の実現には、思考して問い続ける必要があります。また、生徒が「解決したい」「知りたい」という思いがもてるような課題や提示の仕方を工夫することが求められます。そして、学びを深めるためには、可視化した考えを伝えあう（交流する）場が必要となってきます。特に、考えを伝えあう

場では、自分の考えを違う視点から捉え直すことが大切です。交流の視点として、自己評価の他に他者からの評価を取り入れ、学びの価値付けにつなげていきます。教師の意図的な価値付けが、新たな視点の気づきを促すと考えます。

国語 重点目標

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。

- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

国語 <上越地区・柏崎市刈羽郡中教研>

「走れメロス」

研究主題：根拠を示しながら作品に対する新たな見方・
考え方をもつ生徒の育成

開催日：11月30日（水）

会場校：柏崎市立第二中学校

公開：1学級

授業者：2年 赤沼 祐子

指導者：上越教育大学 教授 佐藤 多佳子 様



研究推進責任者
柏崎市立鏡が沖中学校
大島 彩弥香



会場校教科担当者
柏崎市立第二中学校
赤沼 祐子

こんな深い学びの姿を目指します

私たちは、国語科指導の核となる「論理的な思考」を「根拠と意見のつながりを適切に判断する力」と捉えました。文学教材の学習においては、根拠となる表現を具体的に示しながら、自分なりの作品解釈を作り上げることを学習ゴールとします。また、自他の考えを表現する活動を通して自分の判断を客観的に確認したり問い直したりして、生徒が作品に対して新たな価値付けをする姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

批評的な視点

言葉に着目し、意味を問い直したり、比較したりする読みの姿勢をもつことで、文脈の中での言葉の意味を捉えたり、作者の意図を読み取ったりすることができる。

【例】：「大人になれなかった弟たちに……」
（国語1 光村）

「あんなに美しい顔」（P99L10）
筆者は母の顔を「美しい」と表現しているが、他の言葉と比べるとどういった印象の違いがあるか。なぜ筆者は「美しい」という言葉にしたのだろうか。

ポイント2

問い立て

生徒の疑問を生かし、生徒自ら解決したい「問い」を設定することで主体的な学習を促し、課題意識をもたせる。

ポイント3

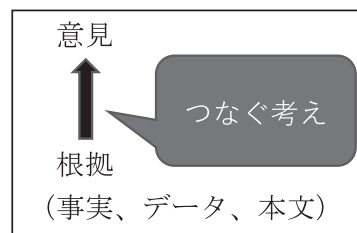
学びの視覚化

気づきや疑問点を言語化することで1時間の授業を通して学んだことを認知し、それを積み重ねていくことで、考えの更新や深化につなげる。

単元(題材)の様子

●本単元に入る前に、別の教材を用いて学習方法を理解する

- ・『思考のレッスン 根拠の吟味』で、説得力を高めるためには意見と根拠をつなぐ考えが重要であることを確認します。
- ・『盆土産』で問いの立て方や問いの探求方法をつかみます。



①② 初読後、探求する「問い」を決める

登場人物の言動や本文の言葉に注目しながら、「問い」を考えます。答えがすぐに分かったり、本文から読解できなかつたりする「問い」を話し合いながら省いていきます。最終的に残った探求できそうな「問い」の中から、生徒一人一人が探求したい「問い」を決めます。

ポイント1

ポイント2

③④ 個人や生徒同士で「問い」の答えを探求する

まず、本文を根拠に個人で「問い」の答えを考えます。本文をどのように解釈したのか(根拠と意見のつながり)を明確に考えます。同じ「問い」を探求している生徒や違う「問い」を探求している生徒同士で話し合いながら答えを探求します。研究会では、答えの探求場面を公開する予定です。

研究会



⑤⑥ ミライシードを用いて、発表を行う

探求した「問い」と答えをミライシードのカードに簡潔にまとめ、本文の解釈は口頭で発表します。同じ「問い」の答えを比較、検討し、本文の解釈を深めます。



●毎時間、学習した内容を自己評価シートに記入する

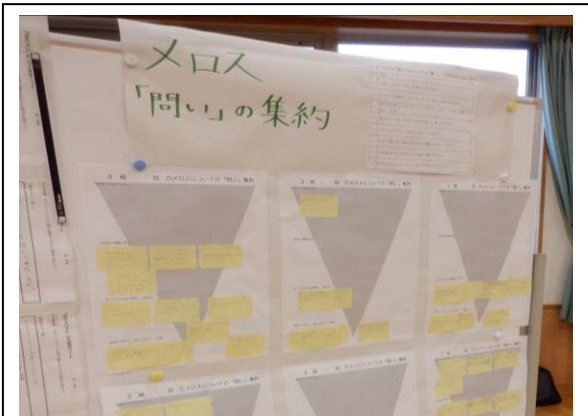
「わかったこと」、「考えたこと」を記入することで、1時間の学習内容を整理します。単元の終末では、単元の振り返りを記入し、自身の考えの変容を確認したり、新しく生まれた考えに気づけたりするようにします。

ポイント3

授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

学習課題に迫る「問い立て」



単元の目標として提示した「メロスが走る理由を語ろう」に迫るために解決したい「問い」を立てました。「それだから、走るのだ。～ついてこい！フィロストラトス。」（光村図書「国語2」P208L19～P209L1）の部分に注目して、「メロスに聞いてみたいこと」を挙げ、その中から各自が探究する「問い」を決めました。

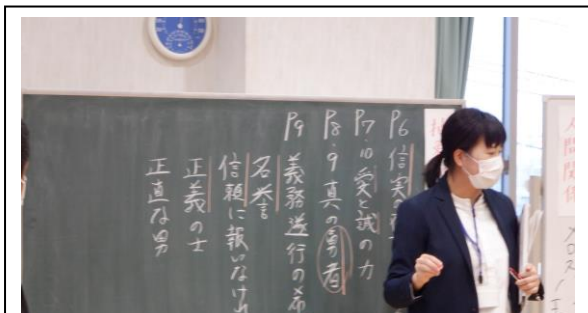
■本時■

「読みの視点」の提示



「問い」の探究にあたって、注目する表現を確認しました。

- ① 言動からわかる人柄
- ② 人物関係
- ③ 抽象的な概念を表す言葉



③の「抽象的な概念を表す言葉」は、「正義、正直、信実、愛、名誉」などを指します。これらの言葉の文脈の中での意味を、人物像や登場人物同士の関係性とからめて自分なりに意味づけることを促しました。

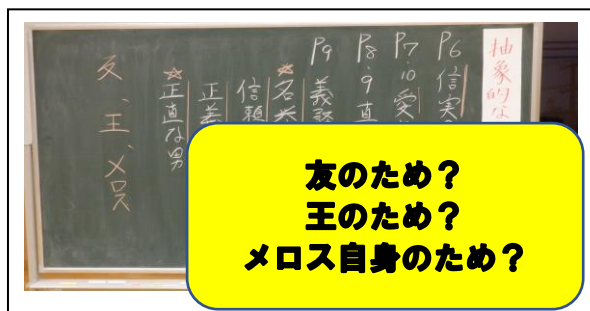
探究活動



生徒が「自分で学びをコントロールする」学習調整力を養うための手立てとして探究方法を生徒が選択できるようにしました。

- ・人数（1人、ペア、複数）
- ・相手（同じ問い、違う問い）

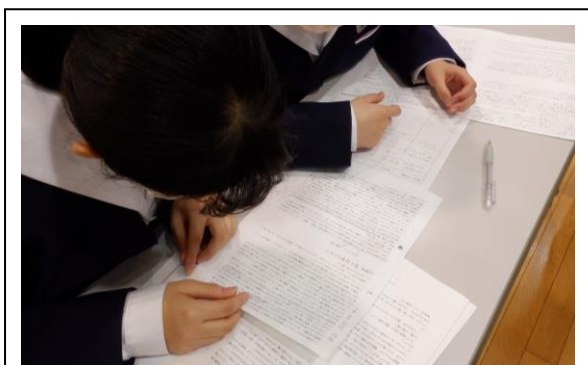
読みの「ズレ」を共有する



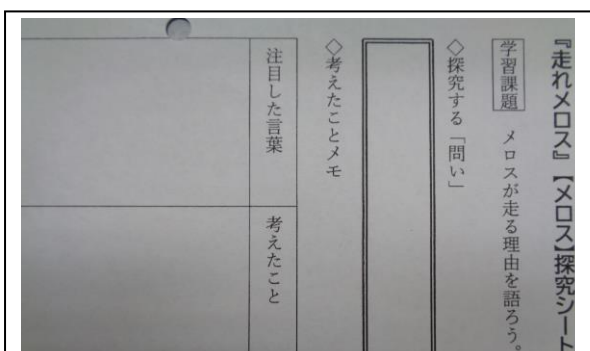
15分ほど探究活動を行ったあとで、「中間報告」の時間を設けました。数名の生徒を指名し、ここまでの時間で読み取ったこと、考えたことを紹介してもらいました。

同じ「問い」でも注目している表現や読み取りが違うことを確認したことで、生徒に気づき生まれ、考えを深めるきっかけとなりました。

学びの視覚化



教科書全文が一覧できるワークシートを用意し、注目した言葉や考えの根拠とした表現に自由に印などを付けられるようにしました。生徒はつねにそれを手元におき、「ここに～」など、教科書本文を根拠として対話をしていました。



教科書本文の表現（根拠）と、そこから考えたことを表にして書くワークシートを用意しました。これによって「根拠」→「つながり考え」→「意見（「問い」の答え）」という論理的な思考の流れを生徒自身が視覚的に捉えることができました。

成果

生徒の疑問をもとに「問い立て」をしたこと、また探究方法を生徒自身が選択できるようにしたことで、生徒主体の学習活動となり、学習意欲を大いに高めることができました。「知りたい」「話したい」「聞きたい」という気持ちをもって生徒が授業に臨み、それを行動に表している様子を見て取ることができたと感じています。

課題

教科書本文を根拠としてメロスが走る理由を語ることができたので、研究主題である「根拠を示しながら、作品に対する新たな見方・考え方をもち生徒の育成」は達成できました。一方で、根拠を複数箇所あげ、それらを結び付けて論じることで、意見をより確かなものにする、もう一段階上のレベルを目指したいという思いが生まれました。

国語 <中越地区・長岡市・三島郡中教研>

「『故郷』からのメッセージ」

研究主題：言葉に着目し、対話を深めながら
読みを創り上げる生徒

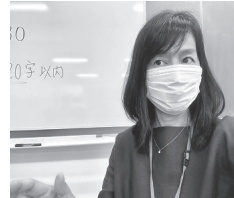
開催日：11月15日（火）

会場校：長岡市立川口中学校

公開：1学級

授業者：3年 長谷川 総子

指導者：長岡市立与板中学校 校長 小池 進輔 様



研究推進責任者
長岡市立西中学校

小嶋 祐子



会場校教科担当者
長岡市立川口中学校

長谷川 総子

こんな深い学びの姿を目指します

イメージや表現の一部から「読めたつもり」になるのではなく、学習課題を追究する中で文章全体と細部に目を向け、構成や描写などの表現を根拠に、読みを深める姿を目指します。また、自他の読みのずれから問い直しが生まれる対話を通して、解釈を広げたり深めたりしながら自分の読みを創り上げていく姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

ずれ(対立や多様性)が生まれる学習課題を設定する

対立や多様性が生まれる学習課題を設定します。自他の読みのずれが顕在化することで、生徒の課題追究の意欲が高まり、対話や読みが深まります。

ポイント2

全体にも細部にも目が向く「全文シート」を活用する

全文シートにラインを引いたり書き込みをしたりしながら学習課題を追究します。文章全体を俯瞰しながら細部にも目を向けることで、文脈の中での言葉の意味、言葉と言葉との結びつきをとらえ、「深い読み」を創り上げることができます。また、自他の考えを可視化することができるため、対話が空中戦になりません。

ポイント3

教師のコーディネートで対話や読みを深める

対話の場面が互いの考えの発表会に終始してしまうことが少なくありません。そこでの教師の重要な役割は、単なる司会でもタイムキーパーでもなく、「深い読み」に向けての臨機応変なコーディネートです。

- 1 考えをき(聞・聴・訊)きとる、つぶやきを拾う
- 2 考えを受け止める
- 3 考えの理由・根拠を問う(訊く)
- 4 全体に投げかける
- 5 ずれを顕在化・共有させ、論点を焦点化する
- 6 対話や思考を可視化するために、ICTを活用したり構造的、対比的に板書したりする
- 7 とぼける、肩入れする
- 8 揺さぶる、切り返す、問い返す
- 9 補助発問・補助教材を提示する
- 10 方向性を示唆、指示・助言する
- 11 間を取ったり待ったりする
- 12 教室での立ち位置を考慮する

単元(題材)の様子

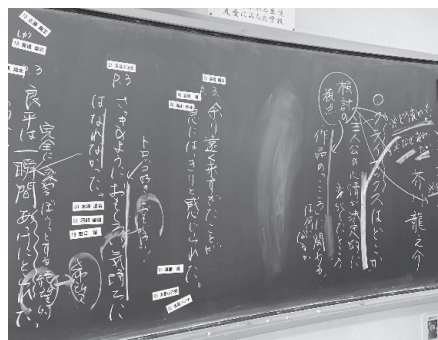
①② 『故郷』を通読します。作品のメッセージについて考え、「『故郷』から受け取ったメッセージ」として書きます。考えを交流させ、メッセージを読み深めようという目的意識を高めます。全文シートを用いて、情景描写や比喩などにも着目しながら、登場人物とその関係、主人公の帰郷中の出来事を読んでいきます。



③④ 作品のメッセージに迫るために、学習課題「クライマックスはどこか」について全文シートを活用しながら考え、自分の意見を持ちます。

大きく「だんな様!…」と「思うに希望とは～それが道になるのだ」の二つに分かれることが予想されますが、ずれが顕在化することで、生徒は「友だちの考えの理由を聞きたい」「自分の考えの理由を伝えたい」「どこが本当のクライマックスなのか」「本文を読み返したい」「もっと読み込みたい」などの意欲を高めます。

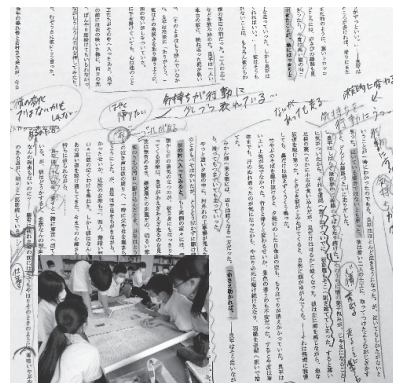
ポイント1



⑤(①～⑥) 全文シートに書き込みながら、自分の読みを創ります。展開の仕方など文章全体を俯瞰するとともに、細部の表現にも目を向け、自分の「クライマックスはここだ!」を支える根拠を明確にしていきます。

書き込んだ全文シートをもとに、同じ考えをもつ生徒同士で意見を交流します。根拠を示しながら筋道を立てて伝え合い、対話を深めます。そして、根拠や書き込みが増えた全文シートを使って、自分の読みをさらに練り上げます。

ポイント2



研究会

⑥ 本時は「クライマックスはどこか」についての考えを対話を通して深め、確かにしていく授業を予定しています。

前時の小グループでの意見交流を原動力に、全体で話し合います。「クライマックスと作品のメッセージとの関係」という観点を持ちながら、自他の考えを比較・検討し、自分の読みを問い直しながら創り上げます。

「なぜ〇〇の部分(場面)が必要なの? 要らないんじゃない!」「本当に?」などと揺さぶることで、本文に立ち返る姿を引き出すことができます。

「そこで何が(どう)変わったの? なぜ変わったの?」「～とすると、メッセージは?」などと問いかけることで、話し合いを焦点化することができます。

ポイント3



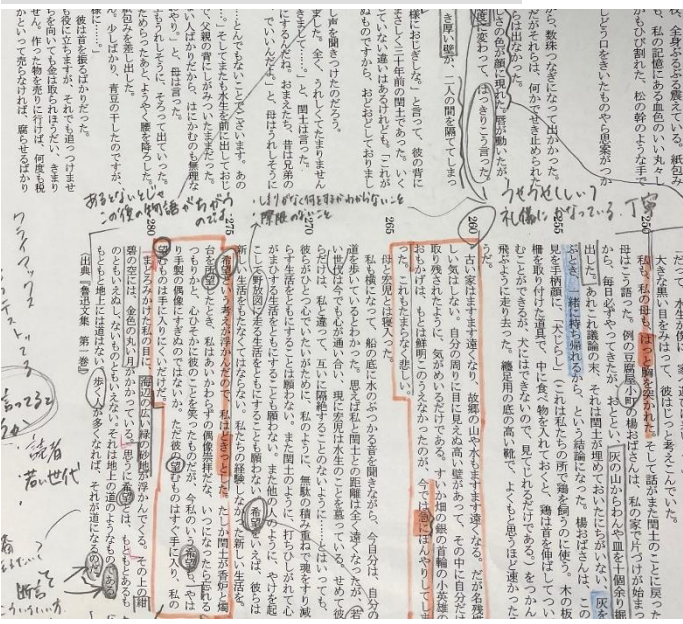
⑦ 作品から受け取ったメッセージについて、どう表現すれば友だちに伝えられるか、言葉にこだわりながら、再度自分の考えをまとめ、交流させます。

最後に、読みの深まりを自覚できるよう、①で書いたものと比較しながら単元全体を通しての学習の振り返りを記述します。

授業の様子・学びの姿の紹介

■前時まで■

全文シートで読みを創る



これまで、全文シートにラインを引いたり書き込みをしたりしながら、登場人物の置かれた状況や変化、心情などについて言葉（叙述）を手掛かりに読み取ってきました。「クライマックスはどこか」という学習課題に対して、生徒は主人公の心情の振れ幅の大きさに着目して文章を読み込みました。「感激」→「身震いしたらしかった」という叙述から大きな変化が読み取れる場面や、「希望」という言葉が初めて出てくる場面などをクライマックスではないかと考え、矢印や自分の読みを書き込んでいました。

■前時■

自分の考えを確かにし、異なる考えを聞きたいという思いを高める

「クライマックスはどこか」という学習課題に対して、同じところをクライマックスだと考えた者同士で、全文シートをもとに根拠を示しながら話し合いました。「同じ立場の人の考えを聞き、自分では思いつかなかった新たな根拠を見つけることができた」「なぜそこが根拠になるのかの理由も同じ人がいて安心した」など、自分の考えを確かにしたり、「次の時間に他の人の意見を聞くのが楽しみだ」と、次時の意見交流への意欲を高めたりする姿が見られました。

■本時■

教師のコーディネートで全体での意見交流をして、読みを深める



「クライマックスはここだ！根拠は～」という形で意見を出し合い、全体で交流しました。教師は「待つ」と「受け止める」ことを意識して、生徒の言葉を引き出します。単元の初めから、クライマックスを「中心人物の考え方の変化が決定的なところ」と定義していましたが、そのとらえがあいまいになって



いる部分もあり、「クライマックスには音楽が流れるイメージがある」というAさんは『「だんな様！…」』がクライマックスだと思う。その前から音楽が流れ始めてここで切れる」と発言しました。また、Bさんは「希望」という言葉が初めて出てくるところに着目し、「希望につい

ての考えが変化しているところがクライマックスだ」と述べました。それらの発言から、本文を何度も読み返したり、近くの人と自然に話し合ったりする生徒の姿が見られました。話合いがやや膠着してきたところで、教師は前時までのCさんの全文シートへの書き込み「終末部の『思うに希望とは～』は『私』が私自身に伝えたいことだと思う」を取り上げ、「誰に伝えたいのか」と全体に問いました。「私」が私自身の考え方の変化を自覚していることに注目させることで、さらに深い読みを促すことができると考えたからです。この問いについて生徒たちが自分の考えをもったところで時間になり、それぞれ振り返りを書いて本時が終わりました。

■次時■

クライマックスと「故郷」からのメッセージを書く

クライマックスについての自分の考えと「故郷」から受け取ったメッセージを一人一人が書きました。単元の初めに「時間が経てば変わってしまうことが数多くあるということ」がメッセージだと書いていた生徒は、「嬉しい変化も悲しい変化も生きていれば必ずある、変化しないものはない。悲しい変化だったとしても、希望をもつことが大切だ」と書いていました。そこからは、「希望」という言葉に着目して終末部をクライマックスだと考えた生徒の意見などに触れて読みを深めていったことや、自分の生活体験を重ね合わせながらメッセージを表現しようとする姿が窺えました。

成 果

学習課題に対する自他の考えのずれから追究意欲を高め、全文シートを使って真剣に文章に向き合い、他の考えを聞くとともに自分の考えを伝えようとする生徒の姿が見られました。教師は、全文シートの書き込みなどを丁寧にみとり、生徒の思い（読み）の中から対話を深めるための材料を取り上げ、全体で生かそうとしていました。

課 題

クライマックスの定義を全体で確認していましたが、生徒個々の既存のイメージが対話の深まりを難しいものにした部分がありました。また、対話を深めるために教師は、「ここ」というときを捉え、大胆に切り込んでいくことが必要であると感じました。

国語 <新潟地区・新潟市中教研>

「絵画の魅力を効果的に伝えよう」 「走れメロス」

研究主題：学び合いを通して、生徒が言葉による見方・考え方を使って考えを深め、自らの成長を実感する国語科指導

開催日：11月10日（木）

会場校：新潟市立五十嵐中学校

公開：2学級

授業者：2年 木村 悠子 「絵画の魅力を効果的に伝えよう」

2年 岸田 知己 「走れメロス」

指導者：宮城教育大学 名誉教授 相澤 秀夫 様
新潟市教育委員会 学校支援課指導主事 佐藤 恵美 様



研究推進責任者
新潟市立小針中学校
小澤 ひろみ



会場校教科担当者
新潟市立五十嵐中学校
亀島 望

こんな深い学びの姿を目指します

「絵画の魅力を効果的に伝えよう」について、魅力を伝えるために用いている表現や解釈の交流・検討を通して、言葉による見方・考え方を働かせて、相手に絵画の魅力が十分に伝わる鑑賞文を書く姿が見られることを目指します。

「走れメロス」の主題について、日記を作り、作品に込められた深い意図を言葉による見方・考え方を生かして読み取り、仲間との検討を通して、自分の読みを確かめ、読み方が深まった自分をメタ認知する姿が見られることを目指します。

深い学びにいたるポイント

「絵画の魅力を効果的に伝えよう」

ポイント1

相手意識と目的意識を大切にする

「君は『最後の晚餐』を知っているか」「『最後の晚餐』の新しさ」から学んだ絵画の見方や表現の工夫を生かし、葛飾北斎の絵画を初めて見る人にも魅力が伝わるような鑑賞文を書きます。

ポイント2

鑑賞文を交流・検討する

鑑賞文の班内交流・検討を通して、絵画の解釈を深め、魅力をよりよく伝える表現方法を見出します。

「走れメロス」

ポイント1

登場人物になりきって日記を書く

作品に込められた深い意図に迫るために、時間軸による各場面における、登場人物の心情に着目して登場人物になりきり、4日間の日記を書きます。

ポイント2

「共有ノート」を活用する

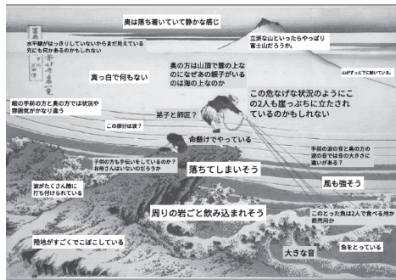
登場人物になりきって書いた日記を読み合い、改めて主題を考え、ロイロノートの「共有ノート」でグルーピングすることで作品の主題に迫ります。

単元(題材)の様子

「絵画の魅力を実効果的に伝えよう」

①②③ 「君は『最後の晩餐』を知っているか」『最後の晩餐』の新しさ」の文章を読み、観点を決めて比較します。それぞれの文章の構成や表現の特徴等、わかったことを発表し共有します。

④⑤ 前時で学んだ絵画の見方や表現の工夫を生かし、葛飾北斎の絵画を構図や色彩などの観点に沿って多角的に見て分析し、そこから読み取れることや分析に基づく解釈をもとに絵画の魅力をつまえます。自分の捉えた絵画の良さや具体的な特徴、感じたことをロイロノートの絵画面面に付箋で表し、互いに交流することを通して、絵画のもつ魅力への気づきを確認なものにします。それをもとに相手意識・目的意識を大切に鑑賞文を書いていきます。



⑥ 絵画を初めて見る人にも十分魅力を伝えることのできる鑑賞文となるよう、班で下書きを読み合います。そして、iPad上で良いところに赤線、改善・疑問点に青線を引き、それをもとに交流・検討を行います。仲間のアドバイスを参考に鑑賞文を書き改め、再度互いの鑑賞文を読み合います。そして表現の高まりを相互評価します。



ポイント2

⑦ クラスで最終の鑑賞文を発表します。学習のしめくくりとして、絵画の魅力を手伝い十分に伝えるという目的の達成に向けた、自身の表現の高まりを振り返ります。

「走れメロス」

①② 「走れメロス」を読み、各自の感想、作品の主題をロイロノートに書きます。各自の考えを根拠とともに班で発表し合い、自分と仲間の差異を知ります。

③④⑤ 作品の設定と構成を把握し、日にちをもとに4場面に区切ります。各場面での出来事や登場人物を整理して、情景描写や人物の心情に着目して読み、メロス、セリヌンティウス、ディオニス3人それぞれの4日間の日記を書きます。生徒たちは登場人物になりきって作品を読み、心中を想像しながら日記を書くことで他の登場人物との関連性をより意識し、作品の魅力に迫ります。



ポイント1

研究会

⑥ 3人の登場人物になりきって書いた日記を代表が発表することで、自分が担当した以外の登場人物についてもより深く理解できます。その上で、作者が物語を通して伝えなかったことを根拠とともに考え、ロイロノートの「共有ノート」に付箋で貼り付け、班内でグルーピングして作品の主題に迫ります。初読後に書いた主題と比較をして、自身の読みの深まりを確認します。

↓「共有ノート」のイメージ

メロス	ディオニス王	セリヌンティウス
友情	人間の弱さ	信頼
友情		
友情		友情
正義	裏切り	友情
諦めない		

⑦ ロイロノートアンケートで「走れメロス」の授業を振り返り、学習を通して学んだことや深く考えたこと、作品の魅力などを自分の言葉で表現します。

授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

「絵画の魅力を実効果的に伝えよう」

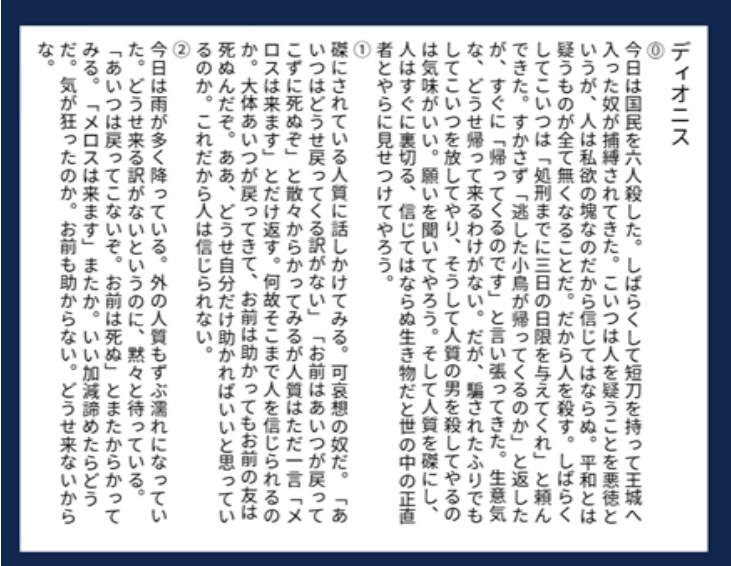
相手意識と目的意識を大切にされた鑑賞文

「この絵を初めて見る小針中学校2年生にこの絵の良さを伝えよう」という具体的な設定で生徒たちは前向きに鑑賞文を書きました。「北斎はどんなことを考えながら描いたのか？」と想像して鑑賞文に取り入れたり、江戸時代の服装を調べて読み取りの根拠としたり、細かい描写とそこから読み取れることを分析して説明したりして班員と交流しながら絵画の魅力が伝わるように考えて表現しました。

班員の書いた鑑賞文をじっくりと読み合った後、「観点チェックシート」に記入しながら次時の交流・検討の準備をしました。相手の鑑賞文に関心をもち、質問をし合う姿が見られました。

「走れメロス」

登場人物になりきって日記を書く



主体的に教材文を読み、登場人物の一人になりきって、心情や情景描写などに着目して4日間の日記を書きました。

前時には、日記を通して気づいたことや分かったことを文章にしたり主題を考えたりしました。

「絵画の魅力を実効果的に伝えよう」

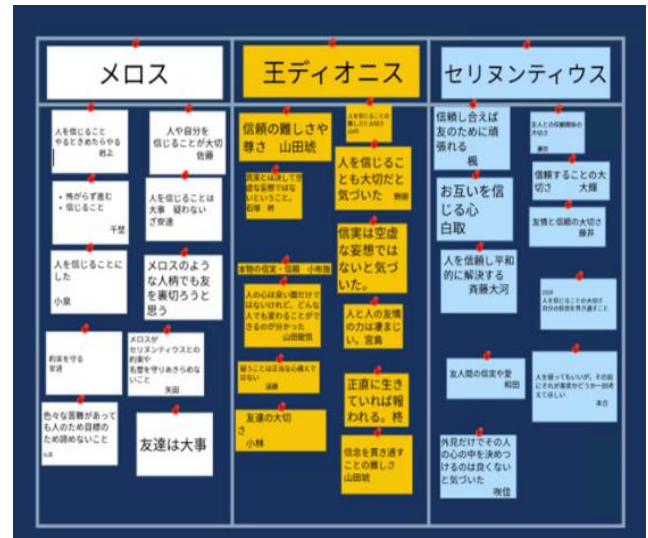
鑑賞文を交流・検討する



■本時■

「走れメロス」

共有ノートで主題をグルーピング



「絵画の魅力を効果的に伝えよう」

画面上の鑑賞文に色分けした線を引いたり付箋を付けたりしたものを見せながら、班内で様々な質問を出し合い、考えを付け足すことでより内容が具体的になりました。

鑑賞文を書き改める

班員からの指摘や助言を鑑賞文に取り入れて修正し、再度読み合いました。

「前よりも良く伝わった」「イメージしやすく、よくわかるようになった」という声が多く聞かれました。

この絵画の魅力は、描かれている人の笑顔や戸惑いなどの表情が顔を見なくても見えることである。

前を向いている人は少ないが、人の表情に注目すると、目が下を向いていることから荷物を置いて疲れている人がいたり、腕を真っ直ぐにして富士山を指していることから富士山を見てびっくりしていたり、また、ワクワクしているように見える。このようなことは、この絵に描かれている人の表情だけでなく動作からも読み取ることが出来る。次は、空に注目してみよう。富士山がくっきりと見えることから天候は晴れていると考えられる。また、富士山を指で指している人からは勢いよく富士山を指差し、横を向いて語りかけているような仕草から「富士山を見る!」という声が聞こえてきそうで、とても印象的だ。北斎の『富嶽三十六景 甲州三坂水面』と比べると、この絵画の方が遠近法がしっかり描かれていて、富士山が真ん中にドーンと描かれている。また、前回学んだ「君は『最後の晚餐』を知っているか」でもあったように消失点が富士山に集まっていることが透視図法から分かり、北斎が読者に富士山を集中してみてもらおう為に使ったものだと考えられる。

この絵は、笑顔や戸惑いなどの表情が人々の動作から分かる世界中の人が見ても分かりやすい一枚である。

「走れメロス」

根拠を踏まえた意見交流

登場人物それぞれの立場から物語を再検討し、共有ノートに主題をまとめることで、班員やクラスで出た主題が可視化されました。日記を通して、行間から登場人物の心情を探ったり話し合いを重ねたりすることで、根拠を明らかにした自分なりの主題を深めることができました。



— 線：使いたい言葉
- - - 線：活動後の補足

成果

どちらの授業でも、班での話し合いの際の役割分担がしっかりとなされており、活発な話し合いが行われました。しかも具体的なアドバイスがあり、それを受け止め自身の表現に生かしたり、考えに変化が見られたりしたことで深い学びになっていると感じました。また、「共有ノート」の活用や画面を二つにして比較するなど、ICTを有効に活用していました。

課題

「絵画の魅力を効果的に伝えよう」の授業では、絵画の解釈が話し合いの中心となっていた班がありました。

「走れメロス」の登場人物になりきって日記を書く活動で、情景描写などから心情を探ることが苦手な生徒がいました。また、タブレットで考える時間と班員との話し合いにより考える場面の配分の難しさも感じました。

国語 <下越地区・二市北蒲中教研>

「漢詩の世界」

研究主題：自分の考えを深め表現できる生徒の育成
～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～

開催日：11月1日（火）

会場校：阿賀野市立京ヶ瀬中学校

公開：1学級

授業者：2年 野口 鮎子

指導者：下越教育事務所 指導主事 磯部 睦 様



研究推進責任者
胎内市立築地中学校

小林 優一



会場校教科担当者
阿賀野市立京ヶ瀬中学校

齊京 正浩

こんな深い学びの姿を目指します

対象と言葉や、言葉と言葉の関係について、比較・関連付け等の思考方法を活用しながら言葉の意味、働き、使い方等を捉えることが、自分の思いや考えを深めることにつながると考えます。本単元では、漢詩を他の詩と比較して読むことで、共通点や相違点をもとに、詩の主題や主題を表現する方法の特徴について理解を深める姿を、また、漢詩の主題がどの表現によってあらわされているかを絞り込む話し合いと、現代語の詩を創作する学習を通して、よりよい表現を模索する姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

言葉を通じて自己と向き合える課題を設定する

本単元では、「言葉を通じて自己と向き合える課題」として、現代の別れの場面の詩を創作します。漢詩に表れたものの見方や考え方、表現の仕方についての学びを生徒自身の表現の模索につなげます。

また、授業の導入で学習意欲と見通しをもたせることが主体的な学びの実現につながると考えます。そのために「学習内容の意味や価値」「学習のプロセス」を教師と生徒で共有しながら授業を進めていきます。

ポイント2

「言葉による見方・考え方」を働かせた意見交流の場を設定する

「言葉による見方・考え方」を働かせた意見交流の場を設定し、比較・分析して得た情報をもとに自分の考えを見直すように働きかけることで、深い学びの姿につなげます。

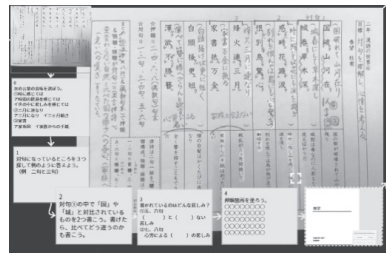
ポイント3

自己変容に気付かせる

終末には、初発の考えと変わった点や、他者の考えとの共通点や相違点を整理させることで、自己変容への気づきを促し、課題解決の達成感や深い学びの実感につなげます。

単元(題材)の様子

①② 『春暁』『春望』を読み、漢詩の形式や現代語訳を理解します。リズムを味わいながら音読し、漢詩の形式に親しむ姿や、語注を手がかりに現代語訳を学ぶ姿、それぞれの詩に表れた主題について考える姿を目指します。



③ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』を、リズムを味わいながら音読し、形式・現代語訳を学びます。その後、他の漢詩『元二の安西に使ひするを送る』との比較をとおして共通点や相違点を明らかにすることで、『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題や表現の特徴を捉えることができます。比較の際には、自身の別れの経験と関連付けて考えさせることや、観点を提示して自分の考えを表しやすくすることに留意します。

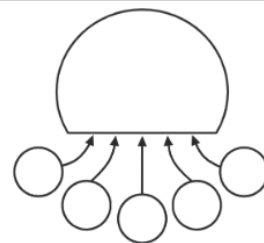
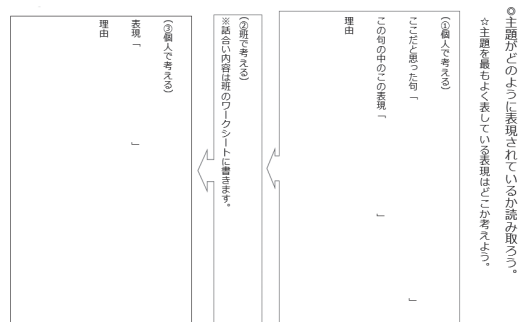
ポイント1 ポイント2 ポイント3



研究会

④ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題である「友との別れの寂しさ」が最もよく表れている表現を探し、絞り込む話合いを通して、漢詩の主題や表現の特徴について捉え直します。話合いの過程で、一語一語に込められた意味、「寂しい」と言わずに感情を伝える表現の工夫について考えを深めます。

ワークシートや思考ツールを活用して考えを整理・可視化します。クラゲチャートを用いる場合は、頭の部分には、選んだ表現を、足の部分にはその語がもつ意味やイメージを記入し、表現と思想の関係性について意味づけます。



ポイント2 ポイント3

⑤ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題や表現の工夫を踏襲して、自身の経験や感性と結び付けて現代語の詩を創作します。

単元の終末に、現代の別れの場面の詩の創作という活動を設定し、生徒自身の表現の模索へつなげます。

ポイント1 ポイント3



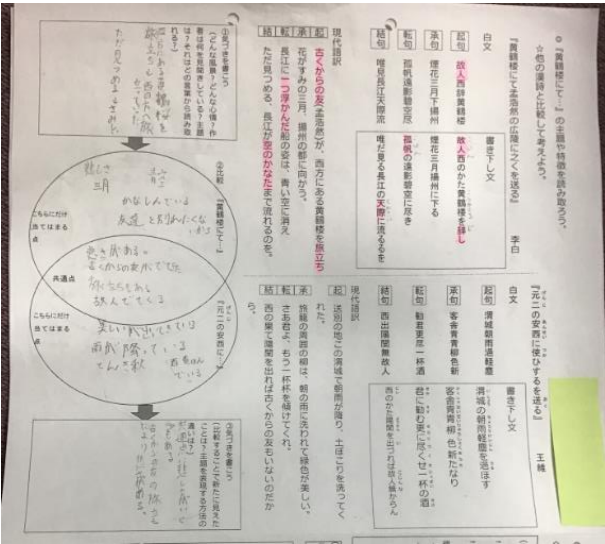
⑥ 創作した詩をタブレットで提出し、級友と詩を読み合い、お互いの表現を評価し合います。



授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

他の漢詩と比較して読む



本時で扱う「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の特徴を捉えるため、同じ別れの場面を描いた「元二の安西に使ひするを送る」との比較を行いました。

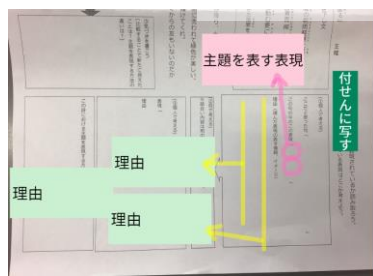
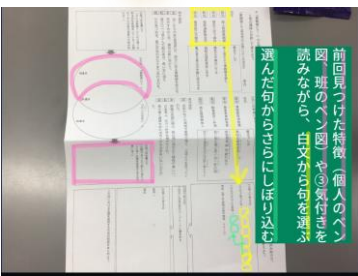
班でベン図を使用して話し合いを行い、二つの漢詩に共通する主題である「友との別れの寂しさ」と、表現の違いを読み取りました。詩から伝わるイメージばかりを書く生徒と、作品中の表現の抜き出しをする生徒が話し合いの中でイメージと表現を結び付けて考える姿が見られました。

■本時■

主題を表す表現を選ぶ



前時で確認した主題「友との別れの寂しさ」が最も表れているのはどこかを考えました。一句を選ぶ段階で、漢詩の構造のみから考えて結句を選んだという生徒も、そこからさらに二、三字の表現に個人で絞り込む過程で、真剣に一語一語言葉を吟味する様子が見られました。その分時間もかかってしまいました。



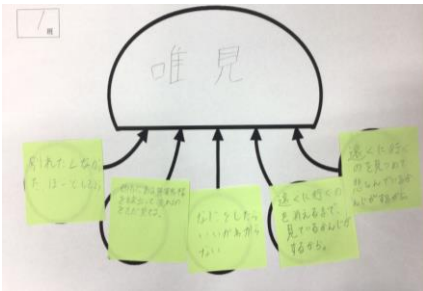
その後班のメンバーで、各自が選んだ表現を見比べ、最もよく主題が表れている場所を考えました。全ての生徒が参加できるように、話し合いの手順を付せんなどを活用して作業化し、その過程をモニターで可視化して示しました。



話し合い考えをまとめる



発表する



フィッシュボーンを用いて班内で各自の意見を確認しました。それぞれの表現のもつイメージ、情報を理由として、普段は意見を言えない生徒も、「ぼうっとして他のことができないように読み取れるから『唯見』だ」「最後まで見送っていると分かるから『空尽』だ」「遠くまで見ていると伝わるから『天際』だ」など、多様な意見があげられました。

それら個人の意見を比較して、最もよく主題を表している表現を考え、紙面かタブレットを選んでクラゲチャートにしてまとめました。班で協力し、一つの表現がもつ情報を多数書き出し、結論を大型モニターに映し出して発表しましたが、時間不足で時間中は一つの班のみの発表となってしまいました。

■次時■

現代語の詩を作る

桜井駅
涙の別れ
ただ見つめ

空は曇り
草、風にたなびく
息子追う
父の背中
突然だった
病気だった
飼っていた金魚が死んだ
庭の花のそばを選んで
シャベルで土に埋めた
雨が降り始めた

小6の冬、下黒瀬の家と別れて新しい家へ引っ越した。
ニワトリ、白黒のネコ。
猫と走って遊んでた。
家を出るとき、家中全部探したけど猫はいなかった。
車は白い道を走った

「好きな人がいるから別れよう」
突然の連絡
目の前が真っ暗
大切な人からの連絡をずっと待っていたのに
スマホをにぎりしめ
思い出の曲をきく
静かに雨がふりはじめた

七時五十七分
時計を見ると
その猫なでて
何かを訴える目
その猫の目は
ただ猫はしょぼんと座っている
猫を見ると
家を出る

おい、別れの言葉はなしか？
フルスピードで走るのが俺の人生だった
だから、お前と俺は兄弟だった。
お前も同じだったから。
排気ガス臭かった別れ道

本時の学びを生かし、現代語の詩を創作しました。自身の体験やお気に入りの創作物の中の別れの場面を想定し、楽しんで表現していました。「別れの寂しさ」を「寂しい」という直接的な説明をつかわずに伝えるため、天気や匂い、色などの情景描写や「見つめる」「握りしめる」などの行動描写を工夫する様子が見られました。

成果

主題が表れている表現を探し、話し合うことで、一語一語に注目する姿勢が見られました。またそのための思考ツールが、自分が気づかなかった考えに視覚的に触れる助けになったと思います。その後現代の別れの場面の詩を創作したことは、漢詩の学習の学びを自分の創作に生かし、よりよい表現になるよう努める姿につながりました。

課題

説明や話し合いの可視化、作業化が作業の煩雑化を生み、生徒が思考する時間を奪ってしまったため、精選が必要でした。また、選択、絞りこみだけではなく、多様な意見に触れることで気づきを促すなど、より課題と思考ツールの特性を生かした展開を考えることが課題として残りました。

数学

数学的な見方・考え方を働かせ、 数学的活動を通して、資質・能力を 育む授業づくり

数学科においては、教科の目標に示されているとおり、従来から大切にしている「数学的な見方・考え方」、「数学的活動」をより意識した授業づくりが求められています。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、数学科における「深い学びにいたる授業」について説明します。



県中教研 数学部 全県部長
小千谷市立片貝中学校

校長 山本 俊介

育成を目指す資質・能力に応じた学びの充実を図る。

「深い学び」の方向性は多様であり、「これが深い学びだ」と限定すべきではないと考えます。大切なことは、数学科においては「深い学び」の先に「数学的に考える資質・能力」を育む生徒の姿があることを踏まえ、資質・能力を育む上でのポイントを学習指導要領の趣旨に沿いながら押さえ、生徒たちの学びの充実を図ることです。

それぞれの資質・能力に関わって学びの充実に向けた主なポイントは次のとおりです。

【知識、技能】

- ・知識の裏付け、技能の支えとなる基礎的な概念や原理・法則についての理解を図る。
- ・知識、技能を、問題発見・解決の過程において的確かつ能率的に用いるとともに、様々な日常や社会の事象の考察に生かしたり、より広い数学的な対象について統合的・発展的に考察したりできるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・得られた結果の意味を条件や仮定に即して考察する機会を設ける。

- ・新しい知識を得る視点を明確にし、振り返ることによる新たな問題の発見を生徒に促す。
- ・目的に応じた的確な数学的な表現を選択したり、いくつかの数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりできるようにする。

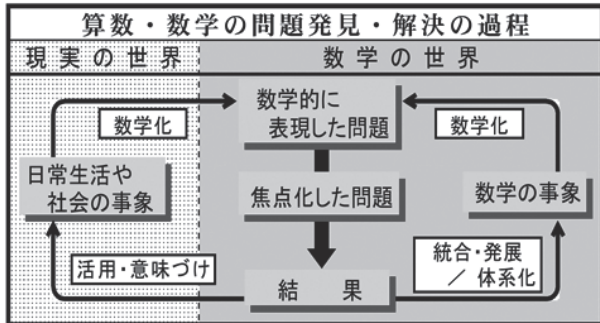
【学びに向かう力、人間性等】

- ・自立的、協働的な活動を通して数学を学ぶ機会を設け、数学を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わえるようにする。
- ・数学を学ぶ過程での自身の変容を振り返るなどして、成長を明確に意識できるようにする。
- ・生活や学習に果たす数学の役割に気付くことができるようにし、数学を積極的に活用しようとする態度を養う。

育成を目指す資質・能力を明確にし、それに応じたポイントを踏まえ授業づくりを進めていきましょう。

「数学化」の過程を大切にし、生徒の問題への関与度を高める。

数学的活動は、「事象を数理的に捉え、問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」とされ、次のようなイメージ図で示されています。



既に数学的に加工された問題を教師が提示し学習活動が始まるようでは、数学的活動とは言えません。生徒自身が問題を発見することが重要です。このことにより、生徒は解決すべき問題への関与度を高め、主体的な学びへとつながっていきます。そのためには、イメージ図の中の「数学化」をより意識した授業づくりを進める必要があります。

現実の世界、数学の世界での「数学化」と

は、それぞれ次のとおりです。

【日常や社会の事象の「数学化」】

理想化したり抽象化したりして、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して数学の舞台にのせて考察しようとする事

【数学の事象の「数学化」】

数量や図形及びそれらの関係などに着目し、観察や操作、実験などの活動を通して、一般的に成り立ちそうな事柄を予想すること

各地区の実践では、「問題場面から生じる生徒の困り感をもとに解決すべき問題を設定」（中越）、「既習事項とのつながりや差異から生じた生徒の問いをもとに問題を設定」（下越）など「数学化」の過程を大切にし、主体的に学ぶ生徒の姿を引き出そうとする工夫が見られています。

「現実の世界」においては事象を生徒たちが数理的に捉えていくことを、「数学の世界」においては既習の学習内容との関連を生徒たちが意識することをそれぞれ大切にしながら、「数学化」の過程の充実を図りましょう。

数学的活動の各過程で「見方・考え方」を効果的に働かせる。

「数学的な見方」、「数学的な考え方」はそれぞれ次のように説明されています。

【数学的な見方】

事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること

【数学的な考え方】

目的に応じて数、式、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること

「数学的な見方・考え方」は、上記のそれぞれの側面を踏まえ、数学的活動のどの過程において働かせるか意図しながら授業づくりを進めていく必要があります。

例えば、上述の現実世界の「数学化」の過程においては、生徒たちは「数学的な見方」の側面から見方・考え方を働かせて問題を発見し、事象を数学の舞台にのせていきます。また、数学の世界では得られた「結果」を、生徒たちは「数学的な考え方」の側面から見方・考え方を働かせてさらに統合的・発展的に考察していきます。

また、それぞれの場面で働かせた見方・考え方を振り返ることも重要です。振り返ることで「見方・考え方」はより豊かなものとなって生徒に蓄積され、次の学習に生かされていきます。

数学 重点目標

「数学的な見方・考え方」「数学的活動」をより意識した授業づくりを推進し、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

- 数学的活動における「数学化」の過程を大切にして、「数学的に表現された問題」の設定に生徒が主体的に関わることができるようにする。
- 「数学的な見方」、「数学的な考え方」それぞれの側面を踏まえ、数学的活動の適所に「数学的な見方・考え方」を働かせる機会を意図的に設定する。
- 問題発見・解決の過程において働かせた見方・考え方を振り返る場面を設定し、「数学的な見方・考え方」をより豊かなものとして生徒への蓄積を図る。

数学 <上越地区・妙高市中教研>

「1次関数の利用」

研究主題：生徒が主体的に学び合う課題設定と授業展開の工夫

開催日：11月17日（木）

会場校：妙高市立妙高中学校

公開：1学級

授業者：2年 若山 泰文 「1次関数の利用」

指導者：上越教育大学 教授 岩崎 浩 様



研究推進責任者
妙高市立新井中学校

三野 博治



会場校教科担当者
妙高市立妙高中学校

若山 泰文

こんな深い学びの姿を目指します

思考過程で芽生える疑問を遠慮なく発表し、友達と疑問を確認し解決に向けて学び合える学習集団を目指します。対応表や式、グラフそして学んだ知識を活用して、課題解決に向けて試行錯誤を繰り返し、その過程において、個々の生徒の見方・考え方が補完され問題の本質に迫る姿が見られることを目指し、課題設定や授業展開を工夫します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

つまずきや疑問点があれば、友達に遠慮なく聞ける学習環境をつくる

課題や問題を正確に把握することから学びが始まります。疑問や発言が問題の本質に近づく視点になることもあります。どんな疑問や発言も肯定的に評価し、学ぶ意欲につなげます。発言の中で、グラフの読み取り、式とグラフ、対応表と式の関係について、定着が弱いことが分かれば、適宜確認や学び直しを行ない、深い学びに必要な知識や技能の定着を高められると考えます。

ポイント2

情報機器を活用し、意見や考え方の共有で思考を活性化する

友達や他のグループの意見や考え方を素早く共有して確認することで、お互いの見方・考え方を補完し合い、気付きや多様な思考を促す効果が期待できると考えます。

ポイント3

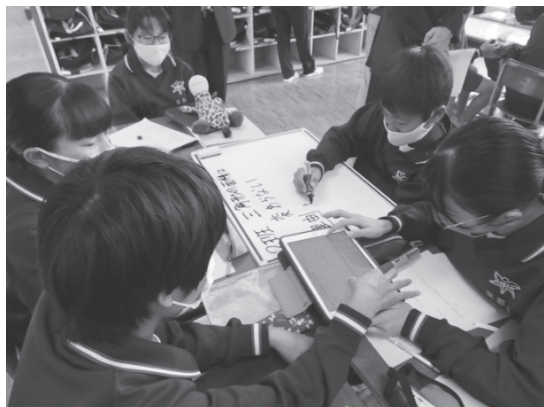
思考の言語化が、深い学びの整理と定着に役立つ

学んだことを自分の言葉でまとめることで、思考と知識が整理され、学んだことに納得でき、達成感につながると考えます。

単元(比例と反比例)の様子

2つの数量の関係に着目し、その関係にはどのような特徴があるかを対応表や式、グラフを用いながら、理解を深めました。小学校で学んだ内容を再確認し、疑問点や分からない用語の意味は、その都度、確認や学び直しをしながら授業を進めました。

ポイント1



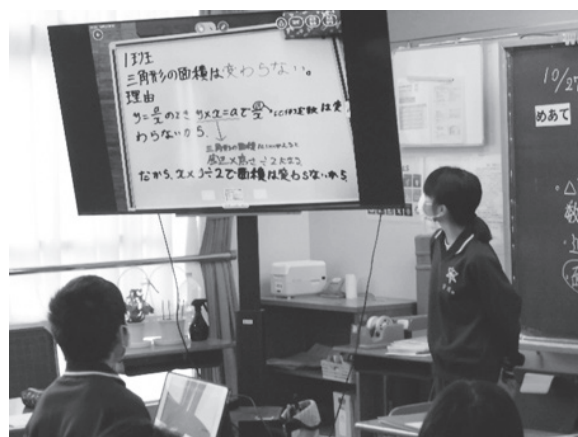
iPadにGeoGebraで作ったソフトを配付し、生徒一人ひとりが自分で反比例の式上の点を操作して考えをまとめている場面です。視覚的变化で変わるもの、変わらないものを体感して、思考を深めることができました。

グループの意見をまとめる場面においても、iPadを操作しながら、自分の考えの根拠を視覚的に友達と共有できました。

ポイント2

グループでまとめた意見や考えを全体で共有する場面です。各グループの発表を聞きながら、黒板にまとめた知識とも関連付け、自分になかった考えや視点について確認することができました。振り返りができる黒板やホワイトボードの良さと、瞬時に意見や考えが共有できる情報機器の良さを必要に応じて使い分けることが大切です。

ポイント2



振り返りでは、自分で見付けたことや、友達の発表から気付いたことを、自分の言葉でまとめました。不明な箇所があれば、iPadで各グループの発表画像を引き出して、学びを整理することもできました。自分になかった視点や考え方に会うことが、深い学びにつながります。

ポイント3

研究会

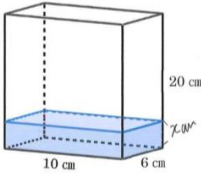
1次関数のまとめの授業を公開します。最初の課題は、一定の割合で水を水槽に入れ、 x 秒後の水面の高さを y cmとし、 $y = 2x$ の関係がある。その水槽に1cmの高さまで水を入れ、物体Aを入れてから水を入れると $y = 4x + 2$ になった。このときの物体Aの形について考えます。中心課題は、グラフを提示して、どのような物体を水槽に入れると、示されたグラフのようになるかを考えます。友達と意見や考えを共有しながら、主体的に課題を追求する授業を目指します。

授業の様子・学びの姿の紹介

■ 前時 ■

式から物体 A を推測する

縦6 cm、10cm、高さ20cmの水そうに、□cmの高さまで水が入っている。この水槽に□分間に□cmずつ水位が増加するように水を入れていくとき、水を入れ始めてから x 分後の底面からの水位を y cm とすると、x と y の間には、 $y=2x+1$ の関係が成り立った。□の中に入る数とその理由を説明しなさい。ただし、水位はいちばん高いところとする。



縦6 cm、10cm、高さ20cmの水そうに、(1) cmの高さまで水が入っている。この水槽に (1) 分間に (2) cmずつ水位が増加するように水を入れていく

<理由>
 式が $y=2x+1$ なら、水位が1cmの高さまで入ったとき、水の量は1分間に2cmずつ増えることになる。
 (水の割合)

1cmの高さまで水が入っているこの水槽に物体 A を入れ、先ほどと同じ水量で水を入れると x と y の関係は、 $y=4x+2$ になった。物体 A の形を考えよう。

わかること	わからないこと・疑問に思ったこと
-------	------------------

数学的読解力を鍛えるために、課題に空欄をつくり、本文を読み込まざるを得ない環境を設定した。最初、生徒は戸惑いを感じていたが、課題に対峙し友だちと意見交換することで、式から情報を読み取り、空欄に適切な数値を書き込むことができた。

分かりやすく簡単に、生徒へ「伝える」授業から、生徒が自ら「読み取る」授業へと意識を変えることも重要だと考える。

学んだ知識の有用感と必要感

縦6 cm、10cm、高さ20cmの水そうに、(1) cmの高さまで水が入っている。この水槽に (1) 分間に (2) cmずつ水位が増加するように水を入れていく

<理由>
 $y=2x+1$ の式をみてみると、切片が 1 ということは、水位が1cmまで入ったことが分かる。2が変化の割合なので、1分間に2cmずつ水位が増えていくことが分かる。

1cmの高さまで水が入っているこの水槽に物体 A を入れ、先ほどと同じ水量で水を入れると x と y の関係は、 $y=4x+2$ になった。物体 A の形を考えよう。

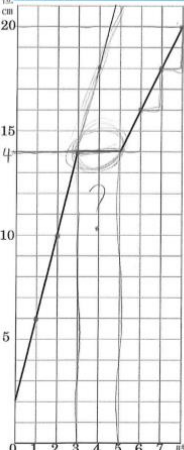
わかること	わからないこと・疑問に思ったこと
<ul style="list-style-type: none"> 1cmの高さまで水が入っている 入水と1cm増える物体が入ると 1分間に2cm→4cmの水の量に増えた 	<ul style="list-style-type: none"> 物体Aの形

単元の本質を再発見できる課題を設定することで、学んだ知識（変化の割合やグラフの傾き、切片）の有用感や必要感が高まり、学習意欲の向上が期待できる。また、分かること、分からないこと・疑問に思ったことを明確にすることで、課題解決のための方針が定まり、友だちと意見交換する場面においても、疑問点が適切に共有でき、建設的な話し合いをもつことができた。

■ 本時 ■

グラフから物体 B を推測する

1cmの高さまで水が入っているこの水槽に物体 B を入れて、同じ割合で水を入れると、x と y の関係は、次のグラフのように変化した。物体 B の形を考えよう。



わかること	わからないこと
<ul style="list-style-type: none"> 最初の直線の式は $y=4x+2$ だとわかってる。 水位が14cmのところが2分間止まっている。 その後 $y=2x$ 	<ul style="list-style-type: none"> なんで止まっている？ その後の直線の傾きが最初と違うのか。 物体Bの形

◎どんな形か推測してみよう

生徒の疑問こそ、深い学びにつながる機会である。その疑問に対して、教師が答えるのではなく、逆に生徒に投げ掛け、生徒同士の対話を促すことで、思考の深まりや自立的な活動に役立てていきたい。本時の課題において、注水を続けているのにグラフが水平になっている状況に対して、「？」が付けられている。なぜ、どうしてと自らが問いを立てることから、主体的な学びがスタートするのではないだろうか。

思考の共有と活性化に向けて



グループ活動では、仲間とともに課題解決に向けてお互いの考えを共有した。その過程において、お互いの見方や考え方を補完し合いながら、疑問点の解消に向けてアイデアを出し、なぜグラフが水平になっているかを解決することができた。この協働学習によって、個々の数学的読解力を育むことができた。

思考の言語化と振り返り

MEMO
3班 3班が「□」の形
ある) 非途中
4班 中央に1枚切) 横が下
2班
切り1 → 2cm = 折る、てる
14cmでの物体
2分動かす空間?
1分120cm² 2分240cm²なので
240cm²分動かすあれば……

MEMO

振り返りでは、学んだことだけではなく、自分で見付けたことや考えたこと、他者の発言から気付いたことを自分の言葉でまとめた。学びを言語化することで、思考と知識が整理され、納得感と達成感につながると考えられる。

振り返り
今日の授業では、班のみんなと話し合いながら
考えることができた。最初水位に底面積が自分の物体が
入ること分かっていました。でも水位が下がっているところの水位
が分からなかった。たぶん自分の考えでなくて、他の班の考え
が良かったのだ。

振り返り どの班も、14cmで水位が止ま、ているから、高さ14cmの体積が
あることが分かった。という、7分前から読み取った情報が、目で見つかりまし
た。疑問の思ったことから考えが広がり、答えが見つかった。とても楽し
かった。そのため、ささいなことでも疑問の思うことが大切だと思えました。

生徒の感想では、「水を入れているのに水位が増えない所が一番難しかった。」という記述が多かった。だが、難しいからこそ、真剣に考え、アイデアを出し合い、解決できたときの感動は深いものがあつたことが、読み取れる。

成果

学んだ知識や技能の有用感を高めるために、以下の2点が分かった。

- ①考えられた課題が大切であること（課題文の作り込みが、生徒の読解力を高める有効な手段である）。
- ②生徒の疑問や質問を学びに生かすことが、深い学びにつながる事。

課題

課題に取り組めない生徒への手立てとして（ヒントカードや既習事項の提示）などの配慮をすること、学んだことを自分の言葉でまとめるために、振り返りの時間をしっかりと確保することが今後の課題である。

数学 <中越地区・南魚沼郡市中教研>

「相似な図形」

研究主題：主体的に学習に取り組む態度の育成
～考える力・話す力・聞く力・書く力の
育成と深い学びの実現～

開催日：11月11日（金）

会場校：南魚沼市立大和中学校

公開：1学級

授業者：3年 関 翔弥

指導者：三条市立第二中学校 教頭 茶谷 明 様



研究推進責任者
南魚沼市立塩沢中学校
小林 成夢



会場校教科担当者
南魚沼市立大和中学校
関 翔弥

こんな深い学びの姿を目指します

「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、教材に対する生徒の気付きや困り感を板書で可視化して共有させ、生徒自身が本時の課題を見出すことができるようにします。そして、その課題を解決するために対話が始まります。また、課題解決のための見方や考え方を対比的に提示することで、生徒は自ずと共通点と相違点を考え始めます。その結果、「新たな気付き」が生まれた瞬間、その生徒にとっての「深い学び」が生まれます。そして、これを共有することにより、全体としての「深い学び」が実現します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

【考える力の育成】

導入では生徒が観察を始められるよう、視点を与えた上で教材を提示し、授業の入口から考える力を育てます。教材と生徒を正対させ、教材の観察から生まれた生徒の気付きや困り感を焦点化させます。

ポイント2

【書く力の育成】

図、式等だけでなく、気付きや困り感、考えなどを言葉でノートに詳しく書き、思考を顕在化させます。授業の最後には、一連の学びで自分の考えがどのように変化したかを振り返らせ、ノートに自身の言葉で記述させます。

ポイント3

【話す力の育成】

板書で可視化した自分の考えを仲間に分かりやすく伝え、話す力と思考力を高めます。

ポイント4

【聞く力の育成】

話し手の目を見て反応しながら聞く力を育て、学ぶ意欲と理解力を高めます。

単元(題材)の様子

ポイント1

7/4(水) 1次方程式

既習の方程式を解きなさい。

(1) $7x - 14 = 5x - 20$

1次方程式を解くポイント
①移項
 $Ax + B = Cx + D$
 $Ax - Cx = D - B$

1次方程式を解くポイント
①4行目の等式の性質
 $A = B$ のとき
 $A + 0 = B + 0$
 $A - 0 = B - 0$
 $A \times 0 = B \times 0$
 $A = B$

新出

(2) $\frac{5}{6}x - 2 = \frac{1}{3}x$

合きでとのちがいほ

分数がまじっている。 $\frac{1}{3}x$ を左辺に移す。
1以下の係数 分数どうしてまとめるか。
今まで、整数だったのが、分数になっている。

19/0 図形の性質 四角形

黙って提示

△ABCと△ADEが
合同?

△CDEと△EABが
合同?

AB=AD
∠CDE=∠EBC
∠B=∠D
前との
違いは?

三角形が2つ
上と下四角形

日曜日

千珠

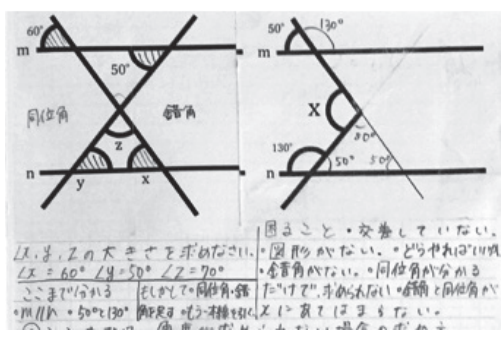
小夜

花菜

教師は黙って教材を提示し、生徒に観察させることで授業の入口から考える力を育てます。生徒は既習事項をフル活用し、「分かること」と「分からないこと」をはっきりさせます。教師はそれらを板書で可視化し、生徒の「気づき」や「困り感」を顕在化させます。

ポイント2

「気づき」や「困り感」, 「考え」などを自分の言葉でノートに詳しく書かせることにより、思考を顕在化させます。



ポイント3

板書で可視化した自分の考えを仲間に語りかけるように伝えることで、話す力と思考力を高めます。発言時間は常に計測し、発言時間をどんどん延ばしていくことで、生徒の話す力は更に高まります。また、発言するときは、板書を隠さないための立ち位置、聞き手に胸を向けるための指示棒の持ち方まで指示し、身振り・手振りを入れ、語りかけながら伝えるよう指導します。



ポイント4

聞き手は話し手と目をつなげながら聞く。仲間の発言に対して、「なるほど」「あ〜」「分かった!」などのつぶやきや、うなずくなどの反応をしながら聞くことで、学ぶ意欲と理解力を高めます。

研究会

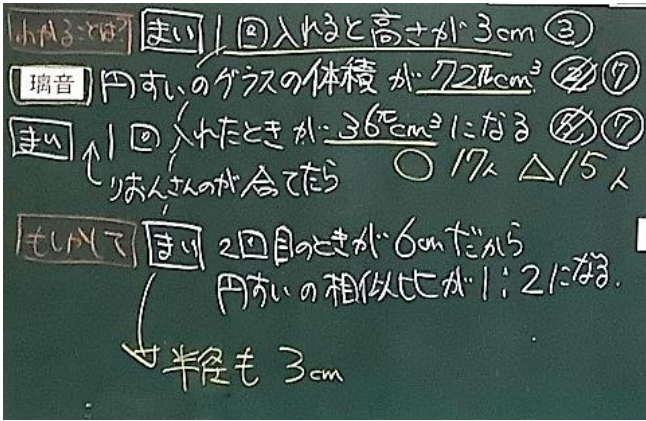
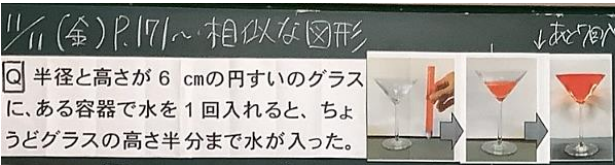
相似な立体の体積比の関係を利用して、容器に水が何杯入るかを説明する授業を予定しています。考える力・話す力・聞く力・書く力を「学びの基礎力」として、主体的に学習に取り組む生徒の学びの姿に注目してご参観ください。



授業の様子・学びの姿の紹介

■ 本時 ■

課題◎を生み出す課題提示



試験管 1 本でグラスの半分の高さまで水が入る動画を見て「分かることは?」「できそうなこと」「もしかして」「困ることは?」を考えました。

体積に注目した意見と、相似比に注目した意見が出て、その中で、「1 回水を入れたときの体積はグラスの体積の半分の $36\pi\text{ cm}^3$ ではないか」という意見が出ました。

そのため「水を 1 回入れたときの体積は $36\pi\text{ cm}^3$ なのか?」という本時の課題◎が生まれました。

課題◎を対話をしながら生徒の力で解決する



本時の課題◎の解決に向けて、対話をしながら課題解決を行いました。解決の途中で、体積は $36\pi\text{ cm}^3$ ではないということに気づき、正しい体積を求めるためにはどうすれば良いかを考える話し合いが行われていました。また、考えが進んでいる生徒のノートを iPad で共有することで、数学が苦手な生徒にもヒントとなりました。



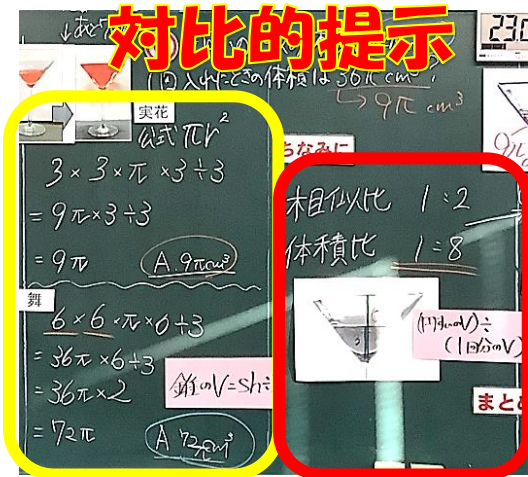
可視化した自分の考えを仲間に分かりやすく伝える



自分の考えを仲間に伝えている場面で、聞き手の方を向きながら、相手に伝わるように意識をし、穴あきの部分をつくることで聞き手に考えさせながら説明をしています。

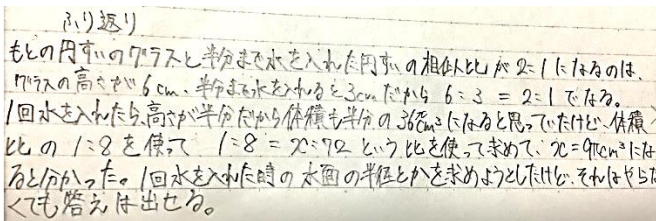
聞き手もうなずきや、反応をしながら理解しようと話を聞いていました。

異なる考えを対比し、さらに学びを深める



課題⑩を解決する中で、「体積を計算して求める考え方」と、「体積比を使って求める考え方」の2つの考え方がありました。その2つの考え方を対比させ、そこから分かることを考えることで、さらに学びを深めていきました。

学びの変容が見える振り返り



授業の最後に振り返りを行いました。一連の学びで自分の考えがどのように変化したかを振り返り、自分の言葉でノートに記述しました。

成果

生徒自身が問いをもち、解決に向かう生徒主体の授業を行うことができました。数学の課題に向かうだけでなく、話し方や聞き方など、生徒の学びの姿勢そのものも育てることができたように感じます。自分の考えを発表するだけでなく、異なる考えを対比させることで、生徒の学びを深めることができました。

課題

学びの基礎力を育成するために、小学校、中学校が連携しながら、継続して指導していくことが大切になると感じました。

数学 <新潟地区・新潟市中教研>

「図形の調べ方」

研究主題：数学的に考える資質・能力の育成に向けた授業改善の工夫

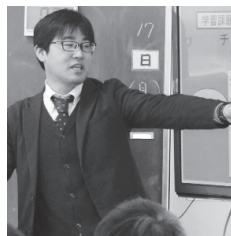
開催日：11月10日（木）

会場校：新潟市立東新潟中学校

公開：2学級

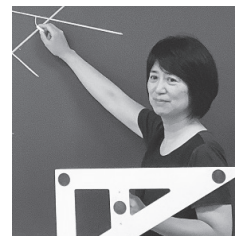
授業者：2年 熊田 隆行 2年 羽田 真帆子

指導者：新潟市総合教育センター 指導主事 坪川 淳助 様



研究推進責任者
新潟市立小須戸中学校

土田 健太郎



会場校教科担当者
新潟市立東新潟中学校

竹内 明子

こんな深い学びの姿を目指します

「根拠を明確にして説明できる生徒」の育成を目指します。生徒は問題に出合ったとき、「振り返り」によって蓄積されたこれまでの学びを手がかりに新たな課題を発見します。その課題の解決に向けて、結果や方法の「見通し」をもつことによって追究の意欲が向上します。追究の過程では仲間との「対話」を通して、協働的に解決したり、解決したことを相手に説明したりして理解を深めていきます。解決した過程や結果を「振り返り」、自分の学びを蓄積していきます。このサイクルをより効果的に実践するために、単元の最後に目指す生徒の姿から遡って設計して単元を構想します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 「見通し」

生徒に目標を明確にさせ、全員に「何を」「どのように」追究すればよいのかを共有させるために行います。この手立てによって、生徒の追究活動に対する意欲の醸成を図ります。1時間の授業の中では、ICTを活用するなどして実感を伴う予想を立てたり、追究の方法を共有したりします。また、単元全体として、既習の数学の性質を明示することによって、根拠を明確にした説明を促していきます。

ポイント2 「対話」

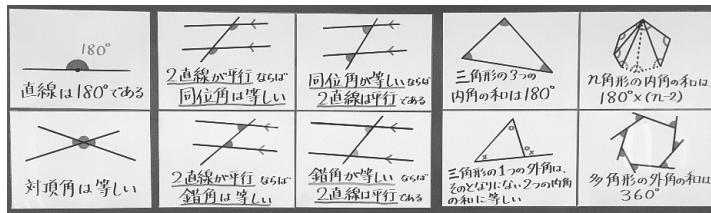
意図的に「対話」の場面を設定します。ここでは互いに考えを伝え合う活動を通して、説明する際に根拠を明確にする必要性や協働的な解決の有用性を実感させます。また、多様な考えを共有させたり、よりよい考えを検討させたりして、説明の精度や意欲の向上を図ります。ICTを活用しより効率的で効果的な「対話」を促していきます。

ポイント3 「振り返り」

学びの過程や結果を言語化することによって、知識が再構成され、次の学びでの問題発見や問題解決につながられるようになります。その際、「本時の問題解決に有効だった点」を視点として与え、生徒が単元を通して問い続けることができるようになります。また、単元ごとに1枚の振り返りシートに学びを蓄積していき、学びのつながりや発展を実感することができるように工夫します。

単元(題材)の様子

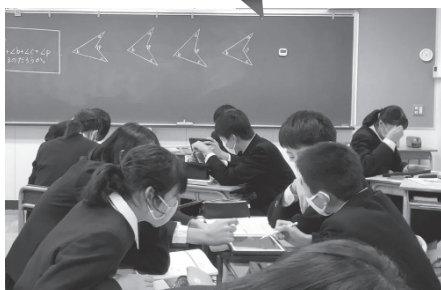
①～④ ICTなどを利用し、実感を伴う予想を立て、追究します。根拠をもって説明するという、深い学びの姿の土台をここで築きます。



ポイント1

⑤～⑦ 根拠となる図形の性質を複数使って説明をします。補助線を引く場合にも「なぜそこに引くのか」に注目させます。自分の言葉で説明をすることを大切に、授業を展開します。

ポイント2



⑧ 凹四角形の角について、3つの内角の和と、凹部分の角との関係性を、根拠をもって説明する授業を予定しています。7時間をかけて積み上げた「ポイントの1～3」を使って探究していく予定です。

研究会

ポイント1～3

逆引き設計で単元を構想する

数学科 単元デザインシート (2年 図形の調べ方)

1 単元で目指す深い学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> 同じ条件で作られたすべての図形について必ず成り立つ性質を見いだそうとする姿 正しいと認めた図形の性質を根拠に、それらを確認説明しようとする姿
2 単元の課題・単元の評価基準	
【単元の課題】	星形五角形の内角の和は、いつも決まった大きさになるのだろうか。また、なぜその大きさにると言えるのだろうか。
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質を理解することができる。 多角形の角についての性質を見いだすことができる。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解することができる。 証明の必要性と意味及びその方法について理解することができる。
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。 三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとするなどすることができる。

ポイント1「見通し」

毎授業の視覚的な見通しと単元を通した見通し

時	学習内容	手立て(◇)	目指す生徒の姿(◎)
1	単元の学習課題の説明	◇自在に図形を変形できるソフトを教師が操作して見せ、図を動的に捉えさせる。	◎正しいと認められた図形の性質を根拠にして予想が正しいことを説明することができる。
2	対頂角、平行線と同位角、平行線と錯角の性質について、実測による予想と正しいと認めた事柄を根拠に説明する活動によって、合意を図りながら正しいものとして認めていく。	◇ペアで説明し合う場面を設ける。	
3	三角形の内角の和および外角の和、多角形の内角の和および外角の和について、正しいと認めた事柄を根拠に説明する活動によって、合意を図りながら正しいものとして認めていく。	◇自在に図形を変形できるソフトを教師が操作して見せ、図を動的に捉えさせる。 ◇ペアで説明し合う場面を設ける。	◎正しいと認められた図形の性質を根拠にして予想が正しいことを説明することができる。
4	解決に有効な補助線を引き、角の大きさの求め方を説明することができる。	◇ロイロノートで各自が考えた補助線の案をクラスで共有し、解決の見通しをもたせる。	
5	三角形の合同条件、証明の仕組みを理解し、証明問題の結論を論理的に導く。	◇作図させ、仮定と結論を理解させる。	◎証明の仕組みを理解することができる。
6	証明の見通しをもち、その見通しをもとに証明する。	◇逆向きに考えさせ見通しをもたせる。	◎正しく証明することができる。
7	星形五角形の内角の和の大きさを予想し、なぜそうなるか根拠を示しながら説明する。	◇ロイロノートを使い、グループ内で説明、質問、検討を行わせる。	◎根拠を明確にして説明することができる。

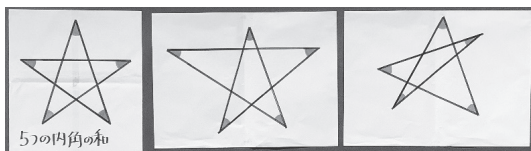
ポイント2「対話」ロイロノートを使うことで、対話を促し、多様な考えを共有する

ポイント3「振り返り」

単元の課題にむけて、毎授業で「有効だった点は？」と振り返る

⑨～⑫ 「証明のしくみ」「証明の書き方」を学ぶ際に、結果の見通しをもった上で対話を行うことができるよう時間を確保して授業を進めます。

⑬ 単元の最後に目指す姿として「星形五角形の内角の和の大きさを根拠をもって説明する生徒」を設定し、ここから遡って単元の構想を進めました。



4章 「図形の調べ方」

2年 前 冊 名前

単元目標		
日にち	学んだこと	有効であった考え方
小単元1 図形にはどんな性質があるのだろうか？		

単元を通じて1枚の振り返りシートを使い、学びを蓄積します。

ポイント3

授業の様子・学びの姿の紹介



■本時まで

単元を通した「見通し」「振り返り」

単元の導入では、本単元の目標を明確にしました。振り返りシートには、図形の性質を説明できるようになるために、「何を学んだのか」「何が有効であった考え方であったのか」を生徒自身の言葉で蓄積していきました。

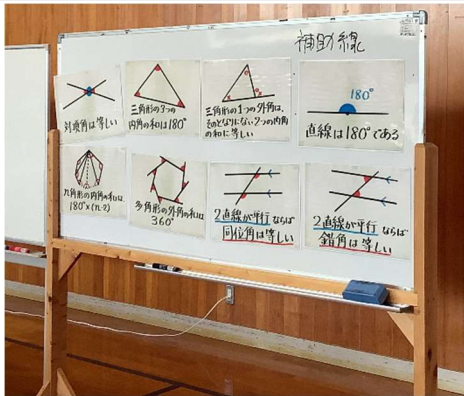
4章 「図形の調べ方」 2年 組 番 名前

単元の目標
 ・平行線や角の性質を理解する
 ・図形の合同、三角形の合同について理解する
 ・三角形・四角形…(多角形)の角についての性質を見つけて証明の法を理解する

日	学んだこと	有効であった考え方
10/12	対頂角は等しい	
10/17	平行線の同位角・錯角は等しい 三角形の内角の和は180°	(おぼえ)
10/25	補助線を引く!	補助線を引く!
10/16	n角形の内角の和は $180^\circ \times (n-2)$ 多角形の内角の和は 360°	三角形の内角の和は 180° 三角形に分解するとその個数は $n-2$ 個
10/31	$ca+cb=cc$	n角形の内角の和は $180^\circ \times (n-2)$
11/2	$ca+cb=cc$	補助線 

■本時

「見通し」に対して



本時の授業の見通しとして、タブレットのアプリ GeoGebra による図形の操作で、くの字形の四角形の角度の規則を示しました。結果が先に分かったことで、生徒は「どうして?」という疑問が生まれ、問題を解決しようとする姿が見られました。



また、既習事項を視覚化したパネルを生徒の見えるところに配置し、何を使えばよいかを試行錯誤できるようにしました。

「対話」に対して



生徒は図形に補助線をどのように引けばよいか試行錯誤しました。タブレットを使うことで、補助線をいろいろと引こうとする姿が見られました。

他の生徒への説明をするときには、タブレットに線を引きながら他の生徒に説明しました。また、他の生徒の考えに、自分の考えをつけ加えながら、自分の理解につなげようとする姿もありました。

「振り返り」について

振り返りシートに、本時の授業で「何を学んだのか」「何が有効な考え方であったのか」を生徒自身の言葉で振り返りました。単元を通して蓄積していき、単元末では目標が達成できたかを振り返りました。

4章 「図形の調べ方」 2年 組 名

日	学んだこと	有効であった考え方
小単元1 図形にはどんな性質があるのだろうか？		
10/17	対頂角は等しい	直線は180°である
10/24	2直線が平行→同位角は等しい	補角は等しい
10/26	2直線が平行→錯角は等しい	2直線が平行→同位角は等しい 補角は180° 2直線が平行→同位角は等しい
10/27	三角形の3つの内角の和は180°	2直線が平行→同位角は等しい
10/31	n角形の内角の和は $180 \times (n-2)$	三角形の内角の和は180° 直線は180°である n角形の内角の和は $180 \times (n-2)$
11/1	n角形の外角の和は360°	補角 外角は、延長線、平行)で示す 補角は180°
11/2	$\angle A + \angle B + \angle C = \angle D + \angle E$ この形では、	補角は180° 補角は180°
11/10	$\angle A + \angle B + \angle C = \angle D + \angle E$ 証明では	三角形の内角は、その辺の延長線、平行)で示す 補角は180°
11/14	$\angle A + \angle B + \angle C + \angle D + \angle E = 180^\circ$	三角形の内角は、その辺の延長線、平行)で示す
11/15	合同な図形の表し方と性質	図形、補角
小単元2 証明はどのような仕組みになっているのだろうか？		
11/22	三角形の合同の証明	三角形の合同条件、共通の辺、対頂角
11/28	三角形の合同の証明②	平行線の性質、共通の角
11/30	辺、角が等しいことの証明	三角形の合同を示した上で、合同な図形の性質を使う

単元末に、「図形の調べ方」を使いこなすためのワザをまとめておこう！

- 仮定と結論を区別する。→「仮定」は「前提」
- 対頂角は等しい
- 対応する角は等しい
- 合同な図形は～等しいは、「よって」に導き出すことができる

成果

- 単元を通した「見通し」「振り返り」を実践していくことで、本時の授業では、補助線のひき方の見通しをもつことができました。生徒自身の言葉で振り返りを蓄積することで、学びの足跡になり、理解の手助けとなりました。
- タブレットを使うことで、定規や分度器で測定するよりも試行錯誤する姿がありました。また、共有化を容易にでき、生徒は意欲的に説明したり、説明を聞いて理解しようとしたりすることができました。
- 「何が有効であったか」と振り返り続けることで、課題に対してどんな方法を使えばいいかという見通しにつながりました。

課題

- 本時の授業においては、生徒が $\angle a + \angle b + \angle c = \angle d$ の課題を発見するのに、もう少し時間かけ、生徒がより問題に向き合う時間をとってよかったという意見もありました。また、根拠に着目させる他の手立ても検討する余地があると考えられます。
- タブレットを使うことに個人差があり、ノートに残りにくいことが考えられます。また、全体で共有する方法を検討する必要もあります。
- 単元を通した「見通し」「振り返り」を、他の領域でも効果があるか検討していきます。

数学 <下越地区・新発田市中教研>

「図形の性質の調べ方」

研究主題：数学的な見方・考え方を働かせた
深い学びのある授業

開催日：11月18日（金）

会場校：新発田市立豊浦中学校

公開：1学級

授業者：2年 加藤 知広

指導者：上越市立清里中学校 校長 杉本 知之 様



研究推進責任者
新発田市立猿橋中学校

小林 正人



会場校教科担当者
新発田市立豊浦中学校

加藤 知広

こんな深い学びの姿を目指します

生徒は『ガイダンスシート』を用いて学習の流れをつかみ、知識や技能の蓄積が見えるようにします。そのシートを活かし、単元の学習を条件変更により課題を設定して、学び合いにより解決を図り、その過程を振り返ります。これら一連の過程を繰り返すことで次のような深い学びの姿を目指します。

- ア 既習事項との類似点に着目しながら、次の「問い」に向かう姿
- イ 既存の知識を組み合わせ、論理的に説明しようとする姿
- ウ 解決の過程を仲間と共有し振り返ることで、自分の考えを再構築する姿

深い学びにいたるポイント

ポイント1

条件の一部を 変更する

既習事項や前時の学習の課題の一部を変更して課題を設定することで、生徒は「この図形ではどうなるだろう」「この前の課題と似ている。少し考えれば解決できそう」と考えるようになります。

思考対象の条件を変えながら単元を構成していけば、生徒は見通しをもちやすくなり、以前の学習で用いた考え方や定理などを活用しやすくなります。

ポイント2

既存の知識を 組み合わせる

生徒が前時までの学習内容を確認できる状態でまとめておき、それらの既存の知識を組み合わせることで、論理的な説明をすることができます。

ポイント3

多様な考えのよさを 見出す

生徒同士がお互いの説明を聞いたり、比較したりすることで、自分の考えを見つめ直し、学習内容をいろいろな視点から自分の考えを捉え直し、よりよい解決方法を考察します。

単元(題材)の様子

① 単元のはじめに、ガイダンスシートを用いて生徒と共に単元の目標や学習内容、評価規準について確認します。

生徒は日々の学びの軌跡を記すことで、本時と関連のある既習内容を想起したり、確認したりできます。

第2学年 数学科 単元ガイダンスシート

組名 番 氏名

1 単元名(教材) 4章 図形の性質の調べ方

2 単元の目標

(1) 平面図形と数学的対象(直線)についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身に付ける。【知識・技能】

(2) 数学的対象(直線)の調査に資する、図形の性質や関係(定理)を論理的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】

(3) 図形の性質の調べ方について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して持ち帰る考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の調査を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を身に付ける。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元の評価規準

(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
① 対頂角、同位角、錯角、内角、外角の意味を理解している。	① 基本的な平面図形の性質を見出し、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。	① 平面図形の性質について考えようとしている。
② 平行線や角の性質を理解している。		② 平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
③ 多角形の角についての整列性、対称性を認めている。		③ 平面図形の性質を活用した問題解決の調査を振り返って評価・改善しようとしている。
④ 平面図形の角の調査に対する同源性について理解している。		
⑤ 似たような図形(五角形)を用いて調べることができる。		
⑥ 対称、反例の意味を理解している。		

4 単元の指導計画と学びの達成ポイント(全 22 時間) 【総括的評価(形成的評価)】

学習のあて	学習日	学びの真価ポイント	学びの手応え
● これからの学習を知ろう。 ● 星形五角形の先端部分の5つの角の和を予想する。月		

② 本単元では、単元全体の学習内容を、直線の数や頂点の数、図形の形などに注目して整理しました。そうすることで、条件を変えて課題を設定しやすくなります。

また、生徒は見通しを持ち、前時の学習を活かして課題に取り組みやすくなります。

ポイント1

	学習内容	n=1	n=2	n=3
1 サイクル目	直線と角。 【公理】 平角は180°		対頂角。	同位角。 錯角。 三角形の角の性質
2 サイクル目	(凸形)多角形の内角の和。		三角形の内角の和。	四角形の 内角の和。 五角形の 内角の和。 ... 多角形の 内角の和。
3 サイクル目	多角形の 外角の和。		三角形の 外角の和。	四角形の 外角の和。 五角形の 外角の和。 ... 多角形の 外角の和。
4 サイクル目	星形多角形の角の和。			星形五角形の角の和。 ... 星形多角形の角の和。

③ 直線や平行線と角の性質をいくつかの公理から考え、説明します。学習した内容はカードや掲示物にして、生徒がすぐに使える形でまとめます。

生徒はこのようにまとめられた既習事項を根拠にし、いくつか組み合わせながら新たな課題の解決方法について説明します。

ポイント2

直線は180°
対頂角は等しい
平行線の同位角は等しい
平行線の錯角は等しい
三角形の内角の和は180°
三角形の外角はこれと等しい
多角形の内角の和は...

研究会

④ 星形五角形の先端部分の角の和は180°になることを既習の図形の性質を用いて説明する授業を予定しています。

生徒は既習内容を組み合わせながら、どのように説明すればよいか考えます。さらに、解決の過程を仲間と共有し、他者の説明と比較しながら自分の言葉でまとめる予定です。

ポイント3



⑤ 合同な図形の性質を学習し、論理的に説明する方法を学習します。既習内容をどのように組み合わせたら結論にたどり着くか考え、相手が納得するような説明ができるようにします。

授業の様子・学びの姿の紹介

■ 本時 ■

つかむ・問いをもつ



本時の授業の流れを確認してから授業を始めた。

既習事項の多角形を例示して、本時の条件変更である「1つ飛ばし」で星形五角形から星形八角形までを作成した。単元を通して、条件変更をして課題を設定してきたことで、生徒はスムーズに教材と向き合うことができた。

また、生徒はその過程で星形偶数角形は多角形が重なった図であることに気付き、本時の課題である先端の角の和を求めていた。生徒は図形の表を見て、星形六角形と八角形の角の和から規則性を発見し、星形奇数角形の角の和を予想していた。

そして教師はこの予想は正しいのか、図形の性質を使って説明できないのかを問い、「説明できそうだ」「やってみよう」と生徒の意識が高まったところで学習課題を提示した。【ポイント1】

課題 星形五角形の先端部分の角の和は 180° になるか、図形の性質を用いて説明できるだろうか

自分の考えをもつ

課題を解決するために、生徒はホワイトボードやワークシート、ノート、タブレットなど、手段を選んで活動していた。個人で思考を深める生徒もいれば、同じ補助線や角に着目するもの同士でグループを組むなどして説明をつくりあげていた。

内角、外角、補助線、ブーメラン型など、既習内容を活用して説明する姿があった。

【ポイント2】

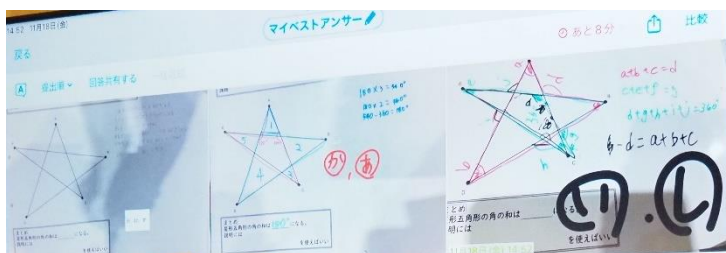
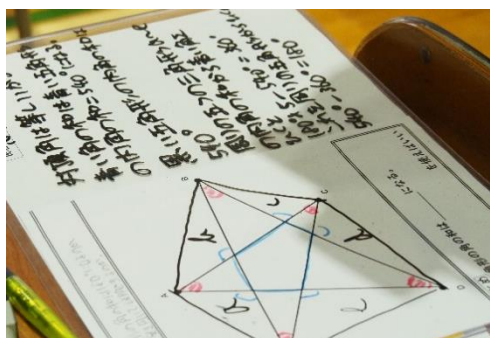


考えを深める・広げる



同じような考え方をした生徒同士が集まり、互いの説明を聞き合うことで、納得できる説明に近づく姿が見られた。自分の解き方の説明を掲示したり、画面で表示したりして共有した。

すでに 1 つの説明を完成させた生徒には別解を考えるよう挑戦させた。最後は自分の考えと異なる 2 人の説明を聞くことで様々な説明に触れることができた。【ポイント 3】



まとめる・振り返る



振り返りの中で生徒は「いろいろな求め方があることが分かった」「自分はあとかのカードを使った考えが一番合っているなと思った」「図形の中には様々な見方をすると違った見え方ができて考えが深まる」等と記述していた。いろいろな視点から他者と自分の考えを比較して、よりよい解決方法を考察していた。

成果

- ・条件変更をすることで、生徒ができたことの一部を変える→できそう→やってみようという主体的な学びにつながっていた。また、予想しながら授業を受ける生徒の姿が多く見られた。
- ・生徒は ICT の活用やアイテムカードを使用するという蓄積によって、星形の問題を見たときに「既習事項を活かしてみよう」という姿になっていた。
- ・タブレットの提出箱を活用することで、容易に他の生徒と考えを交流でき、共有することができた。

課題

- ・すべての単元で条件変更を使って構成できるかを考察する。
- ・他の生徒の考えに触れた後の生徒の学びを確認する方法は、振り返りを活用することが適切であるかどうかを検討する。

道徳

生徒と教師が共に、よりよい生き方を考える「特別の教科道徳」を目指します

道徳部は、「道徳性を養うために、課題を自分事として捉え、自他の考えを多面的・多角的に捉え直し、聴き合い語り合う学びを通して、よりよい生き方を考える」生徒を目指して研究を推進してきました。

私たちは、「深い学びの姿」を目指し、手立てを検証してきました。生徒は、多様な視点から自分の考えを捉え直し、よりよい生き方を考えるようになってきました。



県中教研 道徳部 全県部長
新発田市立七葉中学校

校長 野澤 一吉

深い学びに至る授業を構想するポイント

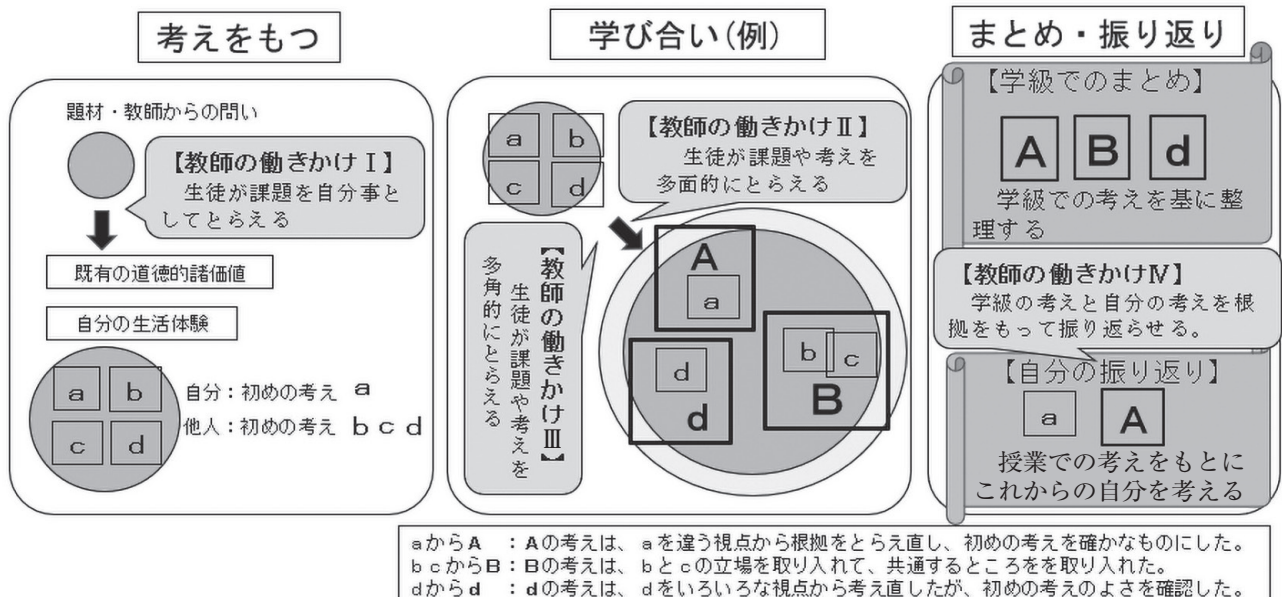
生徒に課題を自分事にさせるには、教師からの問いに、生徒が捉えていた道徳的価値と生活体験などを関連させることが大切です（【教師の働きかけⅠ】）。課題を解決するために自分の考えを確かめたいという意欲をもたせたいです。

生徒の初めの考えを、学び合いにより、比較検討させながら、その根拠や捉えていた道徳的価値を再考させます。ポイントは、生徒の考えや授業のねらいから多面的・多角的な視点を設定し、他の考えを聴き自分を語らせ

ることです（【教師の働きかけⅡ・Ⅲ】）。生徒に、その視点から、自分たちの考えの妥当性や有効性、互いの考えの関連などを検討させます。

※多面的・多角的な視点により、生徒の視野が広がり、個が成長し、学級の道徳性が成熟すると考えます。

終わりに、学級での考えをある視点から関連させ整理し、広がりや深まりをまとめます。そして、生徒個々に、自分の考えの変化や捉え直した点を含めて、自身の道徳的価値について振り返らせます（【教師の働きかけⅣ】）。



【上越】 自分の考えを多面的・多角的にとらえさせる発問により道徳的価値を深めさせる。

上越地区の研究は、深い学びの姿を、生徒が視点を広げたり変えたりして、



表層から深層に至る意見が交わされ、自分の考えを整理できている姿としている。

その手立てとして、主発問と補助発問などの内容と構成や、生徒の考えの変化や強化されたことを意識させる有効な思考ツールなどを開発している。

生徒の振り返りから深い学びに至ったかを分析することにより、よりよい発問構成や意見交流の方法について研究してきた。

【新潟】 学び合いの場面で考えを視覚化し視点を明らかにさせて最適解と納得解に導く。

新潟地区の研究は、深い学びの姿を、教材、先哲、他者及び自己との対話を



通して、課題の理解や多様な考えを共有しながら、最適解と納得解を導く姿としている。

その手立てとして、思考ツールやICTの活用を工夫しながら思考を可視化し、多面的・多角的な視点による対話により、考えが深まる過程を研究している。

まとめとして、妥当性などを学級で検討して最適解を導き、振り返りとして、自己との対話により納得解に至る学習過程について研究を推進してきた。

【中越】 題材に応じて、役割演技と教師の問い返しにより道徳的価値を深めさせる。

中越地区の研究は、深い学びの姿を、生徒が実感的な理解を伴いながら、多面的・多角的な見方・考え方によって道徳的価値をとらえている姿としている。



その手立てとして、体験的な学習場面では役割演技により課題を自分事としてとらえさせることと、問題解決的な学習場面では有効な発問や問い返しについて研究している。

特に、課題を自分事とする段階での役割演技により、生徒が多面的・多角的にとらえに発展する学習過程についての研究を推進してきた。

【下越】 教材の中心課題を追究し、考えを深めさせる補助発問により質の高い振り返りに導く。

下越地区の研究は、深い学びの姿を、課題を多面的・多角的に考えさせて、自分の考えの変容を自覚し、その内容を具体的にまとめる姿としている。



その手立てとして、生徒自身が道徳的価値の理解を深めるために、多面的・多角的に考えることができる教材の選定と中心課題及び補助発問の中身についての研究を進めている。

普段の道徳授業から、振り返りの場面を大切に授業を実践しており、生徒が自分の考えをまとめる質の向上に重点を置き実践研究を積み重ねてきた。

道徳 重点目標

- 1 校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、各校の実態を考慮して、重点目標を設定するなどして、道徳教育の全体計画及び年間指導計画を作成する。
- 2 自分事としての課題になるように、道徳的諸価値を基にして、生徒の考えやこれまでの生き方を確認させるなどの働きかけを工夫する。
- 3 考え、議論させるために、多面的・多角的な視点からの重層的な発問や体験的な学習などを取り入れ、「自分を語る」授業を展開する。
ア 登場人物への自我関与中心の学習 イ 生きる上で出会う課題に対する問題解決的な学習
ウ 道徳的行為に関する体験的な学習
- 4 授業者は、道徳の内容項目及び題材について、これまでの道徳的諸価値を再考するなどして、自らの価値観を深める。

道徳 <上越地区・上越市中教研>

「わたしのせいじゃない」

研究主題：自分の考えをもち、進んで考えを伝え合い、深い学びを得る生徒の育成 ～発問構成の工夫と対話の充実で、「深い学び」を促す～

開催日：11月29日（火）

会場校：上越市立板倉中学校

公開：1学級

授業者：2年 鶴巻 華恵

指導者：上越教育大学大学院 教授 早川 裕隆 様



研究推進責任者
上越市立直江津中学校
安藤 正人



会場校教科担当者
上越市立板倉中学校
高井 瑞樹

こんな深い学びの姿を目指します

「自分の考えを明確にし、その考えを伝え合う」→「相手の考えを傾聴し、話し合おう活動の中で、教材について多面的・多角的に捉える」→「教師の主発問・補助発問を受け、自分の考えをさらに深めていく」→「振り返りの自己内対話を通して、価値観を再構築する」。その一連の姿を「深い学びの姿」として捉え、その姿が見られることを目指します。そのために、考える必然性をもった「ねらい」を練り上げ、「ねらい」に迫るために必要不可欠な主発問や補助発問（切り返しの発問）を想定します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

複数教員による「ねらい」の練り上げ

明確な指導の意図（指導観）をもって授業に臨むために、複数教員による授業検討を行う。

事前の生徒の価値観を共有し、ねらいを明確にし、「深い学び」の姿を確認する。さらに、「深い学び」に至るために、「自分との関わりで考えてみたくなる発問構成（主発問・補助発問）」「多面的・多角的に考えられる対話の工夫」について、検討する。

複数教員で検討することで、一人では気付くことのできない視点を得ることができ、生徒の学びの主体者としての自覚を促し、深い学びへ導くことができる。

ポイント2

発問構成（主発問・補助発問）の工夫

価値観の差異に注目し、「自分事として考えてみたくなる主発問・補助発問の工夫」を通して、生徒の問題意識を生み出し、授業のゴールを共有することで教師と生徒の学び合う関係を構築する。

ポイント3

振り返りの工夫

どの対話（対教材・他者・自己）を通して価値観の再構築（深い学び）がなされたかを振り返り、その過程を認知することで自己内対話を促し、当事者意識をもった道徳的価値観を追求する姿を促し、行動の変容を期待したい。

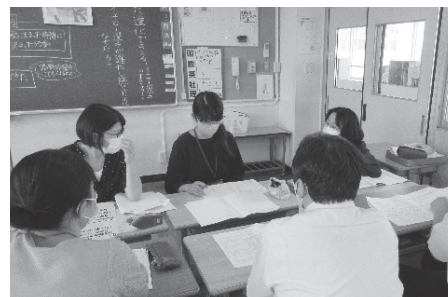
単元(題材)の様子

ポイント1

「考え、議論する道徳」の授業を実現するためには、多様な指導方法の工夫がある。どのような指導方法を取り入れるのか、そして、生徒に何を学ばせたいのか、「ねらい」を十分に検討する必要がある。



深く考えることのできる分かりやすい発問から、「ねらい」に近づく生徒の発言を「線」でつなぎ、その「線」が学級全体の「面」となるよう、教師がコーディネートするため、複数教員による指導案検討を通した「ねらい」の練り上げが重要と考えた。

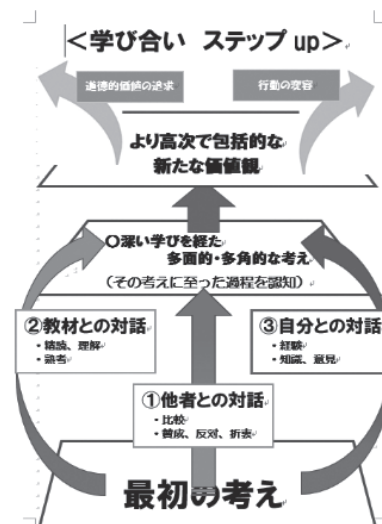


ポイント2

「深い学び」が得られるよう、取り上げる内容項目(題材)から生徒の問題意識をどのように掘り起こすか検討し、自分事として考えてみたくなる発問の設定を通して、生徒の課題意識を喚起する。

ポイント3

道徳的判断の難しさを考える対話や、道徳的価値を見出す対話をもたらす葛藤場面を経て、自らの価値観を問い直す。授業の終わりに、その過程を振り返り、意識化することで、新たな見方や考え方を再構築できるような工夫に取り組んだ。



研究会

「わたしのせいじゃないーせきにんについてー」は、いじめの状況と、責任のなすりつけあい描かれた絵本である。泣いている男の子を前に、登場人物たちがそれぞれの立場でさまざまな言い訳をしている。いじめの積極的な加害者でもなく、無関心であったり消極的であったりすることがいじめを助長させていること、また、それが社会で起きている様々な問題にも関連していることに気付かせたい。

そのために、自分との関わりで考えさせる主発問・補助発問から問題意識や「人間としての生き方」の深まりを生み出し、起こりえる様々な場面において、道徳的行為を選択し、道徳的価値を実現しようとする判断力を養うために、その理由や根拠を出し合い、比較し合う対話の中で、価値観の再構築(深い学び)を促したい。

<授業構成のイメージ>

教材名:「わたしのせいじゃない」
(内容項目C 公正, 公平, 社会主義)

「自分事として捉えさせる
主発問・補助発問」

自己内対話を促す対話の充実

価値観の再構築(深い学び)

授業の様子・学びの姿の紹介

■ 指導案検討 ■

複数教員による「ねらい」の練り上げ

当校では、平日における部活動休止日を、今年度、月曜日のみから、月曜日・木曜日と変更しました。木曜日の放課後に学年道徳部会を設定し、学年部の複数教員で「ねらい」を練り上げました。発問構成を検討するにあたり、島(2020)の「冰山モデル」を参考することで、発問の意図や作用が明確となり、視点が定まりやすい利点がありました。この時間がきっかけとなり、日頃の隙間時間においても、教材や指導案について議論するなど、道徳科の授業に対する教員の前向きな取組を促進することにつながりました。



■ 本時 ■

導入時の発問



導入と終末で同様の発問を投げかけ、教材を通して学ぶことや「対話」を経ることで自分の考えが変容することを意識化できると考えました。

本教材は、いじめの現状と責任の押し付け合いが描かれた絵本です。導入では、SNS上での「傷つけるような書き込み」を取り上げ、「どうして人を傷つけるような書き込みが続くのだと思いますか」と発問しました。生徒は「他人に同調してしまう」や「ネット上なら誹謗中傷してもバレないと思ったから」、「周りの人が誹謗中傷していたから、自分もやってしまった」など、周囲の間違った行動に流されてしまう人間の弱さについて多くの意見を上げていました。

対話の充実（ICTの活用）

当校では、「対話」は「他者との対話」「教材との対話」「自己内対話」においてなされるものにとらえ、今回は対話の充実を図るために、Google クラウドルームや“ジャムボード”を活用しました。教材に登場する8人の友達の言葉から、「8人はそれぞれいじめの問題は誰にあると考えているのか」について3つの選択肢に分類しました。色分けされた付箋を“ボード”に張り付けることで、一目でクラス全体の意見を確認することができ、その後の対話の充実につなげることができました。



発問構成の工夫（中心発問・補助発問）



中心発問の「なぜわたしはたたいてもへいきだったのですか」について、個人思考→グループ思考→全体共有を行いました。生徒の「周りの人もたたいてたし、自分もたたいていいんじゃないかなと思ってしまったから、みんなたたいたのかなと思いました」という意見に対し、授業者が「それは悪いことだと思っていると思う？助けられなかった自分を責めていた人も？」と問い返すと、「心の奥ではいけないと思っていても、自分もたたかないと、逆に自分がいじめられてしまう」と、いじめに気付いていても勇気を出して止めることに消極的になってしまうことに気づくなど、意見の深まりを促すことにつながりました。



このような対話を経た上で、終末に導入の発問を普遍化し、「どうして人を傷つけるようなことが続くのだと思いますか」と問い直しました。問い直すことで、より広く、深く道徳的価値について考えることを促しました。

振り返りの工夫

どの対話（「他者との対話」「教材との対話」「自己内対話」）を通して価値観の再構築がなされたかを振り返りました。「周りに流され善悪の判断がつかなくなってしまうことがあった。これからは、周りに流されず、自分の判断で行動していきたい」という自己との対話についての振り返りや、「たくさんの人がやっていると流されてしまいそうになるが、本当に正しいことを判断して行動していきたい。」という教材との対話についての振り返りなど、振り返りの過程を認知している記述が数多くみられました。



成果

複数教員による「ねらい」の練り上げによって、「目指す深い学びの姿」が明確になり、生徒が道徳的価値と自己との関わりを問い直すことに結びつきました。考えを発表するにとどまる「伝え合い」が、互いの考えについて議論することで新たな気づきが生まれる「話し合い」となるためには、問い返しが発問が有効でした。生徒の意見を深掘りしたり、一人の生徒の意見について、他の生徒に問い返ししたりすることで、多面的・多角的な考えを引き出すことにつながりました。

課題

複数教員による指導案づくりは非常に有効であった半面、検討するための十分な時間の確保が難しく、検討するための時間の捻出が課題として挙げられました。

授業の終末に振り返りとして、その授業で考えたことや学んだことを記入しましたが、その記述内容から、その時間の成果を読み取ることが極めて難しいと思いました。パッケージ型ユニットとして小単元構想するなどの工夫が必要だと感じました。

道徳 <中越地区・魚沼市中教研>

「二通の手紙」

研究主題：道徳授業における「質の高い多様な指導方法の具現化を目指して」～役割演技，問い返し発問の実践～

開催日：11月16日（水）

会場校：魚沼市立広神中学校

公開：1学級

授業者：3年 橋本 哲明

指導者：上越教育大学・上廣道徳教育アカデミー 特任教授 小宮 健 様
魚沼市教育センター 統括指導主事 新澤 美和子 様



研究推進責任者
魚沼市立湯之谷中学校

渋谷 祐樹



会場校教科担当者
魚沼市立広神中学校

橋本 哲明

こんな深い学びの姿を目指します

道徳授業の質的転換のためには、質の高い多様な指導方法の確立が求められています。文部科学省による報告の中には質の高い多様な指導方法として、「①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「②問題解決的な学習」「③道徳的行為に関する体験的な学習」が示されています。その中の③に関連し、役割演技を用いた指導方法と深い学び、道徳諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決する生徒の姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

役割演技を通じた 体験的な学習

役割演技は「筋書きのないドラマ」です。演者は自分の道徳的判断力や心情をもとに、他者と対話をします。互いに心を揺り動かされるようすを、学級全体で共有します。このことによって、道徳的行為に関する体験的な学習を深めていくことができます。また、役割演技で取り上げた「問題」について他者との対話や自己内対話を通して、道徳的価値を実感的に理解することができます。

ポイント2

問い返し、切り返し 発問をする

生徒の発言や意見は、直観的、反射的であることが多いです。多面的・多角的な思考を促すためには、その発言の根拠を「問い返す」ことが効果的です。その考えに至った経緯を丁寧に「振り返る」ことで、多様でより深い考えを引き出すことができます。

ポイント3

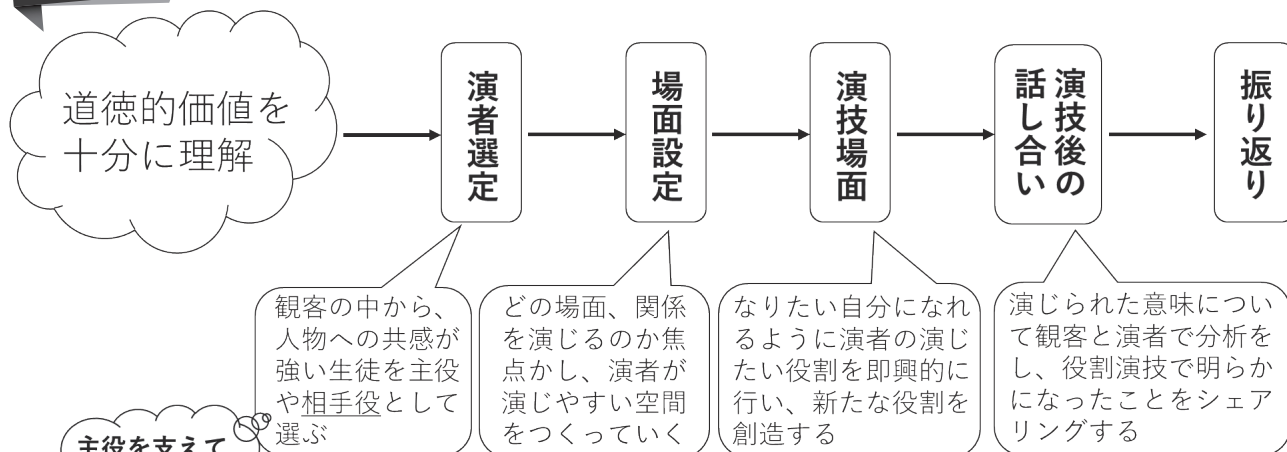
コンピテンシーを意識 した授業づくり

話し合い活動などで出される多様な価値観を広く平等に扱います。役割演技でのモラルジレンマによる二つの内容項目も柔軟に扱いながら「深い学び」につなげていきます。

単元(題材)の様子

ポイント1

役割演技の全容



役割演技中の場面



演技後の話し合い

ポイント1

ポイント2

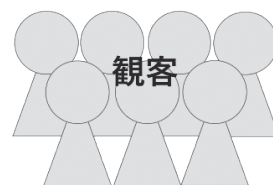
ポイント3

深い学び(道徳性の深化)について

役割演技後の話し合いでは、演者の発言や考え方の変化などを、学級全体で共有します。観客一人一人の考え方や新たに気が付いたことなどを出し合うことで、多面的・多角的な思考の広がりが期待できます。さらに教師が生徒の発言に対して「問い返す」ことによって、発言の根拠が明確になります。同時に周囲の生徒に多様な考え方を促すことにつながります。また、内容項目(徳目)については、モラルジレンマにおける二つ以上の価値に軽重をつけず、生徒が「考える」というスキルを重視した授業に努めます。



演者



観客

研究会

本時の展開では、ねらいを達成する手段として、役割演技を用いた授業実践を行っていきます。

本授業では生徒が教材の道徳的諸価値を十分に理解し、それについての深い思考を役割演技として体現しています。大切なのは、それを学級全体で、共有しつつそれぞれが自分のこととして考え、議論することです。また、一連の研究を通して、新たな時代の道徳科の在り方について模索していきたいです。

授業の様子・学びの姿の紹介

■指導案検討■

研究推進委員会を中心に会場校と連携し授業公開と指導案検討を繰り返し行いました。研究推進委員以外の方からもご協力いただき各校で授業実践をしていただきました。授業を展開していくうえでの、疑問や改善点を一つ一つ確認していきました。

■本時■

問い返し発問で多様な考えを出し、根拠を明確化。



題材の内容を把握するとともに、登場人物の立場になって考えている生徒を確認するためにも、対話は必要となります。生徒同士の対話はもちろん、発問への考えを聞くことを大切にしました。

役割演技により、道徳的
行為に関する体験的な学習
を深める。



生徒の発言や意見は、直観的、反射的に表出されることは多くあります。多面的・多角的な思考を促すためには、発言の根拠を「問い返す」ことが効果的です。

「なぜ?」「どうして?」「～〇〇さんはこう考えているけどなぜかなあ?」など生徒との対話を通じた授業展開が効果的です。

生徒同士の対話や生徒と教師の対話から役割演技の演者を決定。



生徒が教材の道徳的諸価値を十分に理解し、道徳的諸価値への深い思考を役割演技として体現していきます。

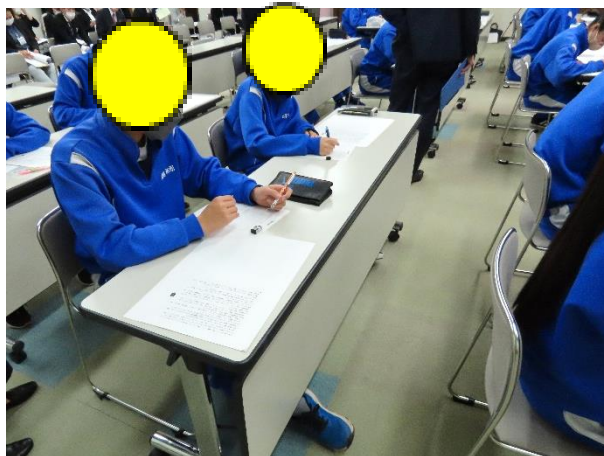
役割演技場面では、学級全体で演者生徒考えを共有するとや、役割演技を観た他の生徒が自分事として捉え、考え議論することが重要です。

役割演技から感じとったことを振り返りへつなげる。

役割演技を観た生徒が考えたこと、感じたことをクラスで共有します。演者が何を考えているかや、セリフを受けた側の気持ちを感じとっていきます。

《以下は生徒の振り返り（一部抜粋） 題材名：二通の手紙》

- 勤勉な元さんでも、思いやりを優先させたところが人間らしい。
- 姉弟の気持ちを考えると、動物園にどうしても入れてあげたいと思うが、安全を考えると規則を守ることが一番大切だと思った。
- 誰かのためにルールや決まりを破り、何かをする時にその人の身の安全や最低限できることはすべきだと分かった。
- 決まりやルールは人を守るためにできているから、相手や自分も守るという意味で大切にしていこうと思った。
- 子どもたちに入園をお願いされたら、自分が元さんの立場だったら動物園に入れてしまうかもしれない。しかし、子どもたちに何かあってからでは遅いし、そういうことを無くすために決まりがあるから守らなければならない。元さんが晴ればれとした気持ちで、動物園を辞めることができて良かった。
- 規則やルールを守ることは大切なことだと思ってるが、規則やルールに縛られない優しさを感じることができた。子どもの立場になってみると、本当に動物園に入りたいという気持ちを感じ、元さんからは動物園に入れてあげたいという気持ちが伝わってきて、元さんが動物園の仕事を辞めてしまったことが、正しいことではなかったかもしれないと思いました。



成 果

様々な発問を実践することで、評価項目（遵法精神・法や決まり）を正しく理解しようとする姿が見られた。市内各校で繰り返し実践することで、授業展開や役割演技・発問内容の検討を進めることができました。

課 題

道徳科の授業計画に役割演技を組み込むことが難しい。指導計画の準備負担が大きい。生徒とともに教師自身も道徳科の授業において、考え議論し学び、成長していくという視点が必要となってくると思います。

道徳 <新潟地区・新潟市中教研>

全学級公開授業

研究主題：「豊かなかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成」～対話を通して多面的・多角的に考えながら、最適解・納得解へ向かう展開の工夫～

開催日：11月24日（木）
会場校：新潟市立白新中学校
公開：6学級

授業者：1年 橋本 千裕「題材：撮れなかった一枚の写真」
1年 笹原 佑介「題材：銀色のシャープペンシル」
2年 田澤 育江「題材：嫌われるのを恐れる気持ち」
2年 和田 卓之「題材：人って、本当は？」
3年 渡辺 一宗「題材：命の選択」
3年 丸山 郁美・藍澤まき子「題材：手品師」

指導者：新潟青陵大学 教授 中野 啓明 様



研究推進責任者
新潟市立新潟柳都中学校
堀 徹



会場校教科担当者
新潟市立白新中学校
田澤 育江

こんな深い学びの姿を目指します

教材との対話から登場人物の心情や課題に対する理解を深めます。他者との対話、学び合いを通して課題を多面的に捉え、多様な視点や考え方を共有し、学級全体で最適解を考えます。授業の終末では、最適解を踏まえた上で多角的な視点で自己との対話を行い、納得解を導き出します。これらの過程を通して道徳的判断力や実践意欲を高めていく生徒の姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

対話的な学びを通して 道徳的諸価値への理解 を深め、道徳性を養う

道徳的諸価値への理解を深めるために、対話を中心とした授業を構成します。授業のねらいや学習課題に迫る手立てとして、教材（先哲）、他者、自己との対話を授業の中で効果的に位置づけます。また、対話が単なる発表の場ではなく、深い学びへと繋がるように発問や対話の方法を工夫し、道徳性を高め、よりよく生きようとする態度を養っていきます。

ポイント2

多面的・多角的な思考で深い学びへ

道徳的判断力や実践意欲を育むためには事象を多面的・多角的に考えることが大切です。自分では考えつかなかった他者の視点を取り入れ、選択肢を広げた上で自分の考えを深めていきます。

ポイント3

最適解から納得解へ

道徳の授業は合意形成の場ではないので、学習課題に対するまとめ（最適解）を行い、その後の振り返りで「自分はこう考える」という納得解を導き出すことを大切にします。

単元(題材)の様子

【①教材、先哲との対話】

まず初めに、教材との対話を行い、登場人物の言動や心情を深く読み取ります。教材の提示方法を工夫したり、生徒の日常と関連づけたりすることで、生徒が自分事として学習課題を受け止め、主体的に学びたいと思えるように導入を工夫します。

ポイント1

①教材との対話、導入の工夫



②他者との対話、対話方法の工夫



【②他者・自己との対話】

次に主発問に対して、自己や他者(仲間や教師)との対話を通して学習課題に迫っていきます。対話は手段であり目的とならないように、哲学対話やFTでじっくりと語り合ったり、思考ツール、ICTを用いて思考を可視化したり、対話方法に工夫を凝らして深い学びへと繋げていきます。

ポイント1

③多面的・多角的な思考



【③多面的・多角的な思考】

他者との対話で登場人物の行為や心情をより多くの視点から考え(多面的な思考)、思考や選択肢を広げていきます。また、他者の考えと自分の考えを比較・検討した上で自分の考えをもつこと(多角的な思考)で道徳的諸価値に対する理解をより深いものにしていきます。

ポイント2

【④最適解から納得解へ】

授業の終末では、学習課題に対するまとめを行います。まとめは、内容項目のねらいに対して妥当性のあるまとめ(最適解)を学級全体で行っていきます。

1時間の授業を振り返り、最適解を踏まえた上で、自己との対話を行い、納得解を導き出します。

これらの過程を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきます。

ポイント3

④最適解から納得解へ



研究会

研究会では6学級の授業を公開します。題材がすべて異なるため、授業展開もそれぞれ題材に合わせ、対話方法などを工夫しています。

豊かなかわりを通して、よりよく生きようとする生徒を育てるために、3つのポイントを押さえた深い学びにいたる授業を提案します。



授業の様子・学びの姿の紹介

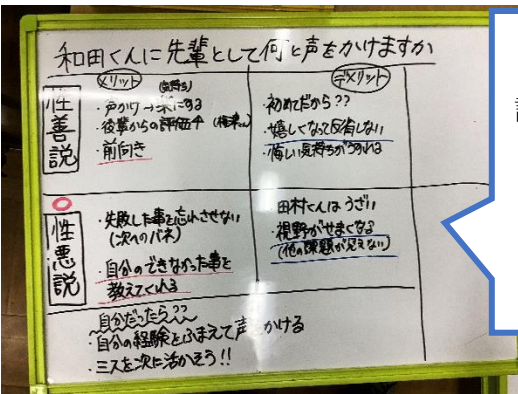
■ 本時 ■

ポイント1 対話的な学び



3年生「命の選択」の授業では、祖父の延命治療について、父親、孫の立場、また祖父の思いを鑑みて何を優先させて決定していくのか考えながら賛成か反対かを考えた。教師の「介護を続けるとどんな問題が起こる?」「本人の意思を尊重するだけで家族として納得できる?」等の補助発問により掘り下げた活発な対話活動が行われた。

ポイント2 多面的・多角的な思考

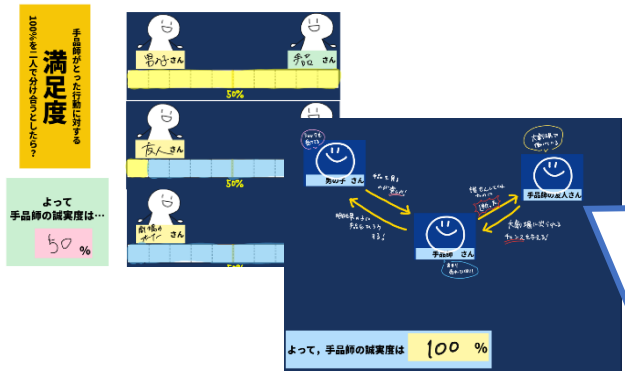


2年生「人って、本当は」の授業では、事例について性善説、性悪説の二つの視点で、メリットとデメリットを考えた。さらに二つの視点でどんな結果が起こりうるかを考えることによって多面的・多角的に考えることを通して人間がよりよく生きるために何が大切か考えることができた。

職業：新聞記者 1 班

Aを選択 (記事を書ける)	Bを選択 (今は載せない)
<ul style="list-style-type: none"> ○他社よりも早く記事にできて、注目度が上がる ○地元サッカーファンが喜ぶ ○全世界の人たち間で話題になり、お金になる ○批判が出ても、C氏のせいにして ●選手が移籍しなくなるかもしれない ●D選手が嫌がる ●クビにされるかもしれない ●C氏が悪いと言われるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ○D選手が自分のタイミングで公表できる ○公表していないから、非難されない ○D選手のタイミングが守られる ●他社よりも新聞記事を出すのが遅くなる ●地元サッカーファンから批判がくるかもしれない ●話題がなくなると、お金にならない

1年生の授業「撮れなかった一枚の写真」では、「職責を果たすこと」と「思いやりを重視する」という選択を迫られる事例について、それぞれを選択した場合、どんな結果が起こりうるのかを考えました。対話を通して意見を整理し、他生徒の視点を参考にしながら自分が何を大切にしながら選択するのかをさらに多角的に考えた。



3年生「手品師」の授業では、「手品師がとった行動はどのくらい誠実であったと言えるのか」について複数の登場人物の視点から考えた。「自己内対話」から「他者との対話」の過程で数種類の思考ツールから自分で選択し、思考を可視化することによって多面的な意見に触れることができた。

ポイント3 最適解から納得解へ

あなたが「僕」の立場だったら、謝れますか？
謝れませんか？

<謝れない>

・理由

「僕」の立場になった時、僕は謝れないと思います。理由は既に嘘をついてしまっているし、盗ったと、バレたら、「僕」はそういう人なんだと思われてしまうかもしれないし、卓也のシャーペンをとったって、噂になってしまうかもしれないから。いつかは謝るけど、今すぐは謝れないと思う。

・今後卓也とどう付き合っていくか？

謝らないと関係が悪くなることは知っているから、謝るまでは、あまり前みたいに仲良くできないかもしれない。でもいつかは、しっかりと本当のことを言って、前みたいななかにもどれるようにすると、僕は思います。



今日考えたこと

今までの自分は、自分のことを悪く思っている。自分になりきると「おぼろげ」などと、自分の意見と向き合っている。でも、自分を許して、本音が言えたら、また仲良くしようと思う。これは、みんなの意見を聞き、自分から大切なお話をし、お互いに聞いてほしいです。なので、私は座席の「おぼろげ」として、自分から大切なお話をし、

自分から大切なお話をし、

これから人生を歩んでいきます。今日の授業のことは、

A: 自分自身に陥ること
B: 人との関わりに関すること
C: 集団や社会との関わりに関すること
D: 生き方や態度、態度などの関わりに関すること

※下のフローバーに書き

今日考えたこと

「自分らしさをとる」の、自分らしさを、
本は衝突を恐れて、自分の一言で他人に大きく影響を
与えるのが怖いので、相手に同意していたので、自分らしさを
出さず、おぼろげな人か多かたので、自分らしさを
出した方が結果良かった。た
衝突したより、お互い時間を書いて、関係が修復できるかなと
思うの、自分らしさを、修復して、おぼろげな人か多かた

A: 自分
B: 人と
C: 集団
D: 生き方

※

1年生「銀色のシャープペンシル」では、最適解を確認した後、自分が「僕」だったら、本当に謝れるかと課題を自分事として考えた。「謝るべき」というのはわかっているものの「謝れない」と選択した生徒もいたが、自己内対話を十分に行った結果の納得解であり、今後の友達との関わり方についても深く考えた。

2年生の授業「嫌われるのを恐れる気持ち」では、対話を通して多面的に捉えるために、哲学対話を行った。生徒間の対話から「最適解」、教師と生徒の対話から「納得解」とつなげた。仲間の意見に共感しながら、「それってどういうこと」とファシリテーター役の生徒が問い返すことにより、教師の発問よりもリラックスして本音を語る事ができた。

対話の後には、「納得解」として自分の弱さと向き合いながら今までの仲間との関わり、そしてこれからの関わり方について素直に表現することができた。

成果

- 課題に迫るために、「思考ツール」の活用は思考を広げ、多面的な対話を促す上で効果的であった。
- 最適解から納得解に導くためには、「発問」が重要であることが分かった。
- 最適解で終わる道徳から、課題について「自分事として考える納得解」を考えることによって、生徒が自分と向き合う姿が振り返りの記述などから見られ、深い学びにつながった。

課題

- 生徒が自分事として捉えるために、生徒の思考を促す「問い」や「発問」の質にこだわって授業構成する必要がある。
- 納得解を導くためには、十分な時間の確保が重要である。そのためには、授業のどのタイミングで最適解を確認するのか、納得解に導くのか時間配分を考慮する必要がある。

道徳 <下越地区・五泉市・東蒲原郡中教研>

「命の選択」

研究主題：互いに認め合い，他を尊重する心の育成
～豊かな心を育む道徳教育を通して～

開催日：10月26日（水）

会場校：五泉市立川東中学校

公開：1学級

授業者：3年 高野 由紀子

指導者：下越教育事務所 学校支援第2課長 田中 一史 様



研究推進責任者
五泉市立五泉中学校
後藤 陽子



会場校教科担当者
五泉市立川東中学校
西方 貴子

こんな深い学びの姿を目指します

- ①補助発問を受けた生徒の発言に対し，授業者が問い返す中で，生徒の思考が深まる。
- ②その後の班の話し合いで，ファシリテーターによる問い返しにより，意見交換が活発に続き，個々の思考がさらに深まり整理されていく。
- ③まとめでは，テーマに対する思考が整理され，自分の生活を振り返ったり，仲間の発言を受けて考えていたりするなど，じっくりと自分の内面と向き合って考えを表出している。

この①～③の姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

道徳的価値の理解を望ましい方向に変容させる中心課題を設定する

初発の自分の考えを明確にし，班や全体での対話を通して学びを深めていきます。終末場面で，主題に対しての自分の生き方についてじっくり考えを深められるような中心課題を設定します。発問の仕方によって生徒の考えが広がったり，深まったりするので，広げたい発問，深めたい発問を精査し，生徒に投げかけていきます。

ポイント2

多面的・多角的に考えるための補助発問を工夫する

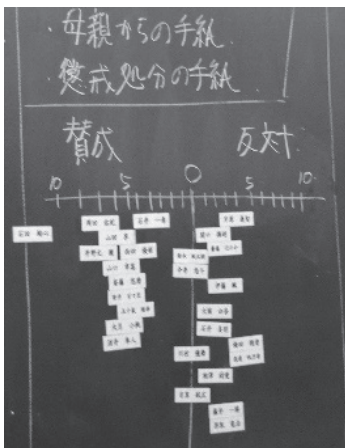
本当にそれでよいのか，もし～なら～するのか，人としてどうするべきか，など考えを深める発問を適宜投げかけ，中心課題に対して自分事として捉えていくための手立てとします。

ポイント3

積極的な議論を成立させる場面設定をする

ホワイトボードなどを使用して考えを可視化し，仲間との意見の相違に気付く場面を計画的に設定します。

単元(題材)の様子



ポイント1

初めにテーマについての自分の考えを明確にします。班での話し合いや全体での意見交換を経て、終末時に再度テーマについて考えます。生徒がたくさんの考えに触れることを大事にして、授業を展開していきます。



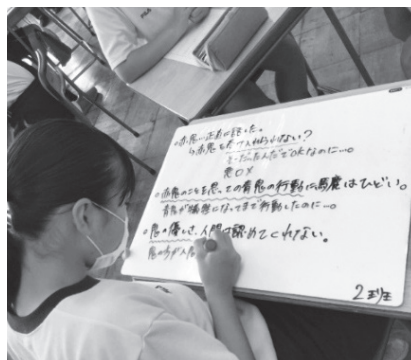
あらすじを確認しながら、中心課題に迫る補助発問を投げかけていきます。自分の考えを調整したり、自問自答したりして生徒は考えを深めていきます。

ポイント2

班の意見交流では、ホワイトボードを使用し、可視化します。文字にすることで自分の考えとの相違点に気づき、生徒同士でも問い返しが行われます。ファシリテーターがすかさず「それってどういうこと？」と問い返し、議論が始まります。仲間の意見や考えの裏にある心情や真意を青字で、おかしいと思うところは赤字で書きます。こうすることで、自分の考えとは異なる、仲間の意見が明確になり、議論を活発にして班員で考えを深めることができます。

その後、写真撮影したホワイトボードをロイロノートを使い、全体で共有することで、さらにたくさんの考えに触れます。

ポイント3



研究会

人工呼吸器をつけたくない意思表示した祖父。苦しむ祖父を楽にしてやりたいという思いから人工呼吸器をつける判断をした家族。

その判断が正しかったのかと葛藤する家族の姿から、「命」「人の死」「終末期」について考える授業を予定しています。

家族の判断が本当に正しいか、自分がその家族だったら、自分がその立場だったら、と考えれば考えるほど、悩んでしまう資料でもあるため、中心課題から反れないように補助発問を組み立て、生徒を深い思考に導くように工夫をします。

授業の様子・学びの姿の紹介

■本時■

導入 「2021年の日本人の平均寿命は何歳だったと思いますか。」



生徒たちは平均寿命を予想しながら、自分の寿命や退職の時期などについてペアでつぶやき合っていた。「みなさんは人生の最後をどのように迎えたいですか」という投げかけにより、本時のテーマである、人生の終末に目を向けていた。

あらすじの確認

補助発問で多面的・多角的な読みを広げる



- 1 祖父はなぜ、延命治療をしないでほしいと言ったのか。
- 2 父はなぜ、人工呼吸器をつける選択をしたのか。
- 3 父はなぜ、人工呼吸器をつけた祖父に謝ったのか。
- 4 僕はなぜ、「これでよかったのかな」と言ったのか。

中心発問 「祖父の意思に反して人工呼吸器をつけた家族の判断について、あなたはどのように思いますか。」



- ・賛成：ピンク
- ・反対：水色
- ・どちらとも言えない：黄色（多数）

協議会では「意思表示は賛成・反対の2つで良かったのではないか」という意見があった。「命の選択」はジレンマ教材ではないので、川東中では三択で授業を行った。



カードの色を見せながら自分の考えを伝え合った。ファシリテーターによる問い返しがどの班でも行われ、問い返された者だけでなく、班のみんなで考えを深める過程を共有していた。

<ファシリテーターによる問い返し>

- ・（「反対」に対して）「おじいちゃんと長くいられないけどいいの？」
- ・「苦しんでいるところをずっと見てられるの？」
- ・（「賛成」に対して）「おじいちゃんが望んでいることじゃないけどいいの？」
- ・「おじいちゃんが嫌がっているのに付けさせるのは、自分もつらくない？」

<班での話し合い>

「家族のエゴでしかないからなー」
「自分の家族だったら苦しんでいるのを見てられない」
「もし、自分がじいちゃんだったら、痛い我慢するかも。痛くてもかっこつけて延命してって言えない。でも、延命してほしい。」
「じいちゃんも威厳があるからなー。」「最後は自分が決めたいよ。」
「家族の立場だったら、う～ん、迷う……。やっぱり助けるかな～。」
「体に穴あけられるのイヤー。」
「あ～確かに。管でつながれるんだよねー。」「やっぱ、迷うな……。」

思考の整理



書いたり話したりする活動で考えはさらに整理され、仲間との意見の相違点に気付く。青字や赤字で問い返したことを書いていき、みんなでそれを共有していた。ホワイトボードを介して、一人で考え、みんなで考えていた。終末時の感想でも、「友達の考えを聞いて〇〇と思った」「意見が変わった」というものが多く見られた。

全体共有→終末



自分の実生活に触れて書いている生徒が多くいた。導入での投げかけがこの終末の場面で生きていた。

命について考えたこと（生徒の感想より）

- ・命は1人だけのものではないのだなと知った。祖父の思いもそうだけど、父や母、僕もかかわってくる。
- ・多くの人が自分の家族の命について悩むのは、その人の命がどれだけ大切なものかということも同時に指していると思う。
- ・確かに家族には長生きしてほしいし、つらい姿も見たくない。でも、延命措置をしないと決めたのに、それを家族が変えるのは違うと思った。本人が最後に決めたことを受け入れるのも家族。
- ・祖父が人工呼吸器をつけないと言ったのに、家族がつけると判断したことに私はモヤモヤしました。身内が亡くなってほしくはないけど、本人の意思も尊重したい、そう思うと難しいと思いました。

成果

【中心発問】授業者が「何を考えさせたいか」「最終的にどんなことを書いてほしいか」を考えて中心発問の文言を決めるようにした。

【班員の役割】ファシリテーターとライターの役割を明確にしたことで、どの授業でも円滑に議論がなされた。道徳だけでなく、教科横断的に実践を積んできた学校全体での成果である。

【生徒の変容】小学校から学年1クラスで9年間過ごしている生徒たちである。2年間で公開されたすべての授業で、たくさん話し、じっくり書いていた。班で話をしているときも、なかなか言葉がまとまらない仲間に対しても優しい言葉をかけ、ゆっくり待つ姿勢が見られ、思いやりの気持ちは育っていると感じている。

課題

【補助発問】①生徒の考えを深めるために、テーマ発問と場面発問の間をねらって補助発問を行う。②補助発問を連続させることで、生徒の思考を深く導くことができる。③生徒の反応に対して適切な発問をなげかけるためにはたくさん準備し、授業の中で生徒から出た問いやつぶやきを生かすことが必要である。とご指導をいただいた。そのスキルを身に付けるためには、授業者が1時間の授業についてしっかりと考え、実践を積み重ねていくことが大切である。

美術

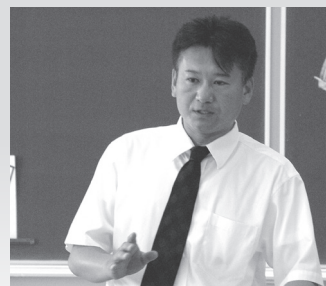
「想像」と「創造」の往還を通して、 見方や感じ方を深める授業

美術科の学習は「見る」行為から始まる。

対象を見ることから、直接自分の感覚を通して湧き出したイメージや印象を、造形の要素である色や形と関連付け表現します。

この、生徒自身が芸術的価値として意味付ける過程こそが、深い学びにいたる授業のための指導プロセスです。

また、深い学びにいたる授業をつくる力は、授業を見る目から生まれます。



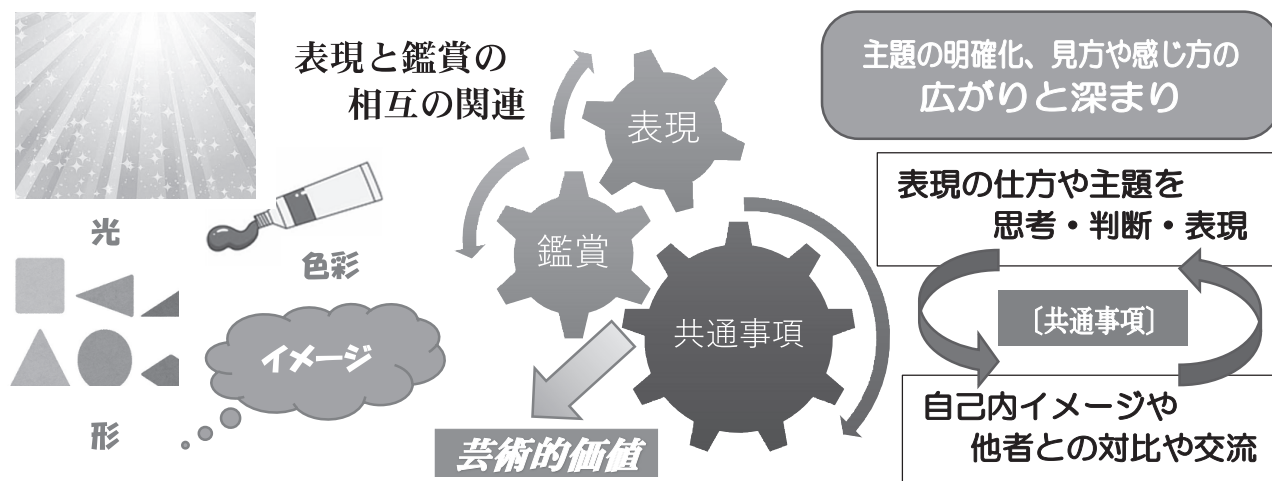
県中教研 美術部 全県部長
阿賀町立阿賀津川中学校

校長 稲生 一徳

見方や感じ方を深める 表現と鑑賞の相互の学習

生徒は、作品が完成した時に、成就感や達成感を得ます。より大きな成就感や達成感を得るためには、表現と鑑賞との関連を図ることが重要です。なぜならば、作品を鑑賞し、作者の心情や表現意図について考えることは、表現する際に主題を生み出す力になるからです。また、表現を通して主題を生み出した学習経験が、鑑賞では作者の心情や意図を感じ取る力を深めることにつながるからです。

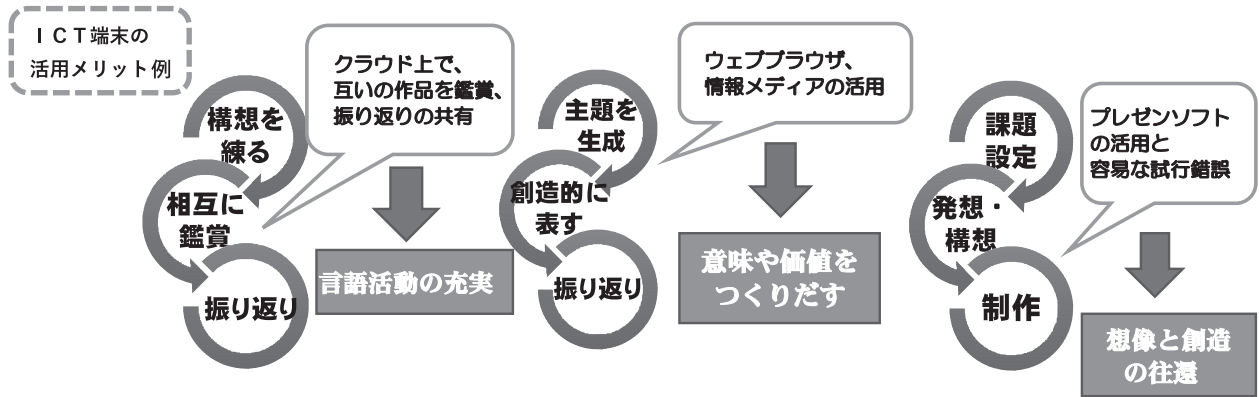
岡地先生（長岡東中）の授業では、自分らしい表現を追求させるために「自画像」の制作に取り組みます。その指導過程の導入に、美術作家の自画像の鑑賞を位置付けます。作家の心情や制作意図、表現の工夫などを読み取らせませす。作者の作品に込めた様々な思いや主題を深く考えさせることは、生徒が自己の内面を見つめ直し主題を生み出すきっかけや、自分の表したいものを強化したりすることにつながります。



深い学びを支える「効果的なICTの活用」

長岡市中教研では、ICT(ク롬ブック)を道具として、学習のねらいに応じた効果的な活用について研修を進めている。ICTの活用

により、目(視覚)と手(触覚)と頭(思考)との一体化を図ることを通して、生徒自身の基点を実感し、友人とのつながりも拡張します。



見方や感じ方を深める 対話型鑑賞

美術科の学習の特性として、意図的に仕組まれたものではなく、活動に付随した偶発的な学び(セレンディピティ)が生まれます。これは、他教科にはない美術科ならではの楽しさでもあります。

杉崎先生(村上東中)の授業で注目したいのは、作品を感じ取ったことや考えたことを第三者(友人)にも理解できるように言葉で表現したり、造形の要素にかかわる知識を活用したりしながら交流をさせます。授業者が生徒の言葉を繋ぐことにより、気付かなかった新たな視点や概念などを獲得し、作品に対する新たな価値をつくり出していきます。

村上・岩船中教研では、県立近代美術館の学芸員を講師とした研修や授業研究を通して、研鑽を積んでいます。また、感受したことを自分の言葉で語り、感じ方の違いや価値観の多様性を共感的に理解できる生徒を育てています。



「森」を見る視点
(実物大の作品を座視)



「木」を見る視点
(細部を拡大し見る)

美術 重点目標

「美術を通して、豊かな生き方やコミュニケーションができる生徒の育成」
○形や色彩など造形的な美しさを表現したり、鑑賞したりする授業を通して、お互いを見方や感じ方を認め合う生徒を育てる。

美術 <中越地区・長岡市中教研>

「自画像」

研究主題：ICTを利用した主体的な表現活動の工夫

開催日：11月10日（木）

会場校：長岡市立東中学校

公開：1学級

授業者：3年 岡地 大輔

指導者：阿賀町立阿賀津川中学校 校長 稲生 一徳 様

新潟県教育庁義務教育課

副参事・指導第二係長 清水 康一 様



研究推進責任者
長岡市立大島中学校

竹田 祉薫



会場校教科担当者
長岡市立東中学校

岡地 大輔

こんな深い学びの姿を目指します

- 題材について、自分なりの意味や価値を探しながら、自分の思いを確かに行っている姿。
- 自分で決めた主題に対し、構想を練り上げ、創り出す喜びを感じながら、試行・探求し続ける姿。
- 自他の作品からよさや美しさを感じ取り、互いの感性や表現の多様性を認め合いながら、考えを深める姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 学習意欲を掻き立てる

ジャムボードの付箋機能を使用し、班員と共有しながら意見を打ち込むことで、正解を気にせず主体的に取り組めます。

ポイント2 豊かな構想を引き出す

オクリンク*のカード機能を活用して作品の構想を練りまです。文字だけでなく画像も取り入れ、視覚情報として自分の頭の中にある考えを整理し、カードを組み替えながら、より明確にイメージし易くなります。

ポイント3

共感的態度の育成

ムーブノート*を使用して、効率良く意見を集約します。自他の考え方や感じ方の違いを捉え、新たな自分の見方や考え方を広げます。

伝える力の育成

意見交流しながら鑑賞することで、色や形などがもつ特徴や、イメージを生かして表現することの価値を話し合うことで、自分が制作する自画像への思いや考えをまとめ、深めていきます。

授業前後のアンケートで確認

題材の様々な場面で、意識して取り入れたICTの利用が、深い学びに繋がっているのかを確認します。授業前後にFormsでアンケートを実施し、効果や改善点を検討します。

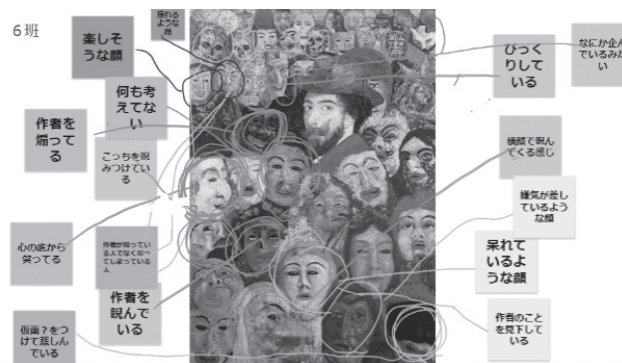
*学習用ソフト（ミライシード内の機能） ムーブノート…協働学習支援アプリ、オクリンク…授業支援アプリ

題材の様子

ポイント1

自画像鑑賞「アンソール」

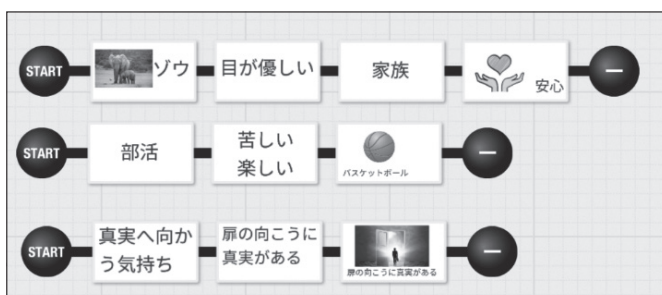
タブレットを使って「仮面に囲まれた自画像」を班で鑑賞します。描かれている一つ一つの顔を拡大しながら、読み取れた表情や想像した感情などを打ち込み、顔で囲まれた主人公はどんな気持ちなのかを想像します。



ポイント2

構想を練る

オクリンクで自分がイメージするキーワードをカードにし、そこから連想した言葉を繋げてイメージマップを作成します。インターネットから画像を引用し、視覚情報として分かりやすくまとめます。一旦できあがったイメージマップをスライド形式で仲間と共有して客観視します。その後、再び個人活動に戻り、カードを追加したり入れ替えたりしながら、自己表現を追求するために構想を深めます。



研究会

ポイント3

題材の中にICTを効果的に取り入れることで、生徒が主体的に取り組みながら自己表現でき、より深い学びに繋がるだろうと研究を進めてきました。

研究会当日は2部構成で開催します。第1部は、有名作家の自画像を導入部分で鑑賞する公開授業を予定しています。時代の違う作品や描かれた年代によって表現が違う作品を鑑賞することで、自画像とは自分の気持ちや考え、人生そのものを絵で表現しているという本質を知り、生徒一人一人が自分にとって自画像を描く意味を考えていきます。

第2部は、研究推進委員6名、それぞれが様々な題材におけるタブレットの活用場面を、プレゼンテーションボードを使って発表します。長岡市中教研美術部員へのアンケートでは、クロムブックを使用した何らかの効果が感じられているものの、まだどの学校も授業実践が少ないため、使い方や活用方法が分からない、環境が整っていないなどの言葉が寄せられています。私たちが実践し研究してきた内容が、これからの授業づくりのヒントになればと思います。



授業の様子・学びの姿の紹介

■ 本時 ■

① 同じ作者の作品を点でつなぐ

「16枚の心の自画像」 造形的な視点で鑑賞し、作品の良さや魅力を感じ取ろう

★造形的な視点
視線 表情 服装 ポーズ 背景 色の 大きさ

●同じ作者だと思う作品を線でつなげてみよう。

ワークシートの8名の作者の16作品を、同じ作者だと思う作品を線でつなげペアにする。その際に、視線、表情、ポーズ、など、造形的な視点に注目し、作品のどこを見て同じ作者であると判断したのかを確認する。

② 2枚の作品の共通点と相違点を見つける

共通点・相違点

○共通点：
●相違点：

共通点：顔が正面を向いている・あまり絵の具を使っていない・ほぼ、鉛筆のようなもので書かれている

相違点：顔の形が大きく変わっている・右の絵だけが塗られている

○共通点：顔のパーツの形、背景に一定の様相がある
同じアクセサリを付けている、どのところでも無地はない

●相違点：色がついていないか、パーツにはっきりとした輪郭がない
全体的に落ち着いた印象の絵になった

8名の作者から1名を選び、制作時期の異なる2作品の共通点や相違点を見付け、「ムーブノート」のカードに記入する。タブレット内で、全員の見解を共有し、様々な見方や考え方があることを確認する。

③ グループで作者や作品の考察をまとめ発表

1935年 37歳

1946年 48歳

M・C・エッシャー

瞳の奥に映っているが、骨は未来の自分

余白→余白の黒さ

人間から骨→その快感

同じ作者を選んだ生徒同士でグループを作る。2つの作品で選んだ作者が表現しようとしていることは何か考え、絵のどこを見て判断したのか付箋に記入し、ボードに貼りながら伝え合う。グループの代表がまとめた内容を全体に発表する。

その後、ワークシートに自分が自画像を描く意味などを記述する。※右ページ参照



成果

1 「なぜ自画像を描くのか」本時ワークシートの生徒の記述より

前時

本時

- ・記録に残すため
- ・自分を客観視するため

- ・言葉では伝えられない心の苦しみや叫びを表現するため。
- ・自分の気付かなかった内面や本当に大切なものを再確認するため。
- ・今の気持ちを素直に表すことで初めて本当の意味での自画像になる。

→自分なりの言葉で深く考察していることが確認できた。

① 鑑賞前とくらべて、自画像を描くことについて気持ちに変化はありましたか。※理由も書こう。

自分の顔を見ることが好きだったけれど、見た作品の中で様々な個性を認めた。興味ももった。

① 鑑賞前とくらべて、自画像を描くことについて気持ちに変化はありましたか。※理由も書こう。

改めて聞いてみたという思いが強くなりました。自分を絵で表現したいです。

① 鑑賞前とくらべて、自画像を描くことについて気持ちに変化はありましたか。※理由も書こう。

見たままの自分を描くのではなく、自分の描きたい自分を描くのは楽しそうだなと思いました。

② あなたはこれから描く自画像をどんな作品にしたいですか。 ※造形的な視点で。

自分の気持ちと照らし合わせて、アールや色を染めていきたいです。

② あなたはこれから描く自画像をどんな作品にしたいですか。 ※造形的な視点で。

表情だけで思いを伝えるだけでなく、周りのモノを使って、色でも思いを伝えたい。

② あなたはこれから描く自画像をどんな作品にしたいですか。 ※造形的な視点で。

自分の絵を見る人が何を現しているのかわかりたい絵

③ 自分が自画像を描くことにどんな意味があると思いますか。

客観的に見た自分の姿ではなく、今の気持ちを素直に絵で表すことで初めて本当の自分「自画像」になり自画像の意味をはたしているのだと感じました。

③ 自分が自画像を描くことにどんな意味があると思いますか。

誰にも言葉では伝えられない心の苦しみや叫びを絵で表現するため。

③ 自分が自画像を描くことにどんな意味があると思いますか。

人から見た客観的の自分ではなく、見た目で自分がない、内面の部を表現することで、自分を知らせてあげたい。自分の心の整理も

2 公開授業後の教職員アンケートの記述より

- ・同じ作家の2枚の自画像から心情を考える学習活動では、時代背景や心のもちように言及するなど、深く考え、多様な意見を出せていたことに感心した。
- ・ワークシートの記述の内容から、最初は自画像に苦手意識をもっていた生徒も、授業後に自分なりの自画像を描く意味を見いだしていることが分かった。
- ・語彙豊かに伝え合えた今回の鑑賞は、なぜ自画像を描くのか、どう自画像に描くのかといったモチベーションの高まりに、大いに効果的であったと感じた。

1と2から、自画像の題材の導入時にタブレットを活用した鑑賞は、生徒の主体性に一定の高まりが見られ、深い学びに至る手だとして有効であると判断した。

課題

- ・生徒のタブレット入力に時間がかかったため、指示を簡潔にして入力項目を検討する必要がある。
- ・提示した16作品を精査し、生徒が作品の考察に時間をかける余裕ができるよう改善したい。

美術 <下越地区・村上市岩船郡中教研>

「鑑賞」

研究主題：主体的に美術と関わり、美術作品の自分なりの見方や感じ方を深める指導の工夫
～対話型鑑賞の実践を通して～

開催日：11月11日（金）

会場校：村上市立村上東中学校

公開：2年2組

授業者：2年 杉崎 浩子

指導者：下越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 磯部 睦 様
胎内市立中条中学校 校長 丹後 直子 様



研究推進責任者
村上市立村上第一中学校
野原 千絵



会場校教科担当者
村上市立村上東中学校
杉崎 浩子

こんな深い学びの姿を目指します

- 対象を形、色彩、筆勢といった造形の要素や構図など、複数の観点から観察し、想像力や感性を働かせながら、そこから受ける印象を自分の言葉で表現し、対話を通して、他者の視点や考え方、感じ方に気づき、対象を新たな見方で捉える姿。
- 対話型鑑賞の活動を通して、作者の表現意図と、表現方法や視覚効果との関わり等に気づき、他の作品の鑑賞や、自分の作品制作にも生かしていける抽象的な概念を獲得する姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 自己との対話

形や色彩などの造形の要素をもとに考えさせることで、作品が訴えてくるものをじっくり読み解きます。そして自分の言葉で考え整理します。

ポイント3 深める問い

自分なりの解釈を深める問いを提示します。そうすることが、他の作品を鑑賞する際にも汎用する抽象的な概念の獲得になると考えます。

ポイント2 対話型鑑賞

対話型鑑賞は、作品を見る人同士の対話を通して作品の理解を深め、鑑賞者が作品のよさや美しさ等を実感し、価値を作り出す鑑賞です。

対話型鑑賞を通して他者と解釈の交流をすることにより、自分とは違う見方や感じ方と出会うことで自分一人では気付かなかった価値などに気づき、視野が広がります。また、他者を受け入れるとともに自分を受け入れてもらうことで自己有用感も高まります。さらに、想像力の育成につながることを期待されます。最終的には自分の見方、感じ方に自信をもって人に何を言われても「これだ!」と表現できる生徒の姿が期待できます。

単元(題材)の様子

ポイント1

自己との対話

これまでのプレ授業では『最後の晩餐』『記憶の固執』『イギリスの見納め』など、様々な作品を教材にして鑑賞の授業をし、作品の見方を学習してきました。

当日は①造形の要素(形・色・筆勢など)を意識的に捉えて見る②絵の中に入り込んで五感を働かせて見る③「この作品で、どんな出来事が起きていると思う？」(自分なりの想像)⇔「作品のどこからそう思いましたか？」(根拠)という見方を提示します。それに沿って個人で絵を見て自分の考えを書いていきます。



ポイント2

対話型鑑賞

グループになり、それぞれが考えたことや感じたことを順番に伝え合い、聞き合います。生活経験は人それぞれで、出てくる解釈も多様です。

出された解釈に対して、ファシリテーターが「どこからそう思う？」と問い、解釈を深めていきます。このとき他者の解釈を否定せずに聞くことが大切です。最後にファシリテーターとライターが中心になり、出てきた解釈を分類し、提示された問いに向かって集約していきます。



研究会

ポイント3

深める問い

今年度の研究会では、昨年度の課題として、①対話が弾み、深まるような作品選び②臨場感のある作品提示③効果的なICTの使い方④対話型鑑賞の展開⑤振り返り、まとめの仕方⑥発言や語り合いの交流活動の経験の6点があげられ、議論と実践を重ねてきました。

その中でも特に、④の「深める問い」とは、どのような問いなのかが課題となりました。本時では岡本太郎の『森の掟』を鑑賞します。様々な視点から様々な解釈が出てくると予想されますが、この鑑賞活動を通して「絵の印象はどこで決まると思うか」という問いを投げかけます。この問いを考え対話することで、他の作品を見る際や、自分自身の作品制作にも生かしていける抽象的な概念を獲得できると考えます。



授業の様子・学びの姿の紹介

■ 本時 ■

自己との対話



① 実物大の作品との出会い
生徒はここで絵の迫力や実物に近い色の印象を感じ取りました。



② 絵の見方のおさらい
「絵の中に入りこんで見る」ことを確認しました。

<付せんの書き方2> ①と②に分けて書く。
① どんな出来事が起きていて...
↓
そこからどんな想像する?
② 絵のどこから、①のように考えた?

③ 課題
「一枚の付箋につき、一つの意見を書きます。透明付箋に書いたことがすべて絵の解釈になるので、できるだけたくさんの方のことを書きましょう。」生徒たちは手元の絵をじっくり見ながら付箋を書いていました。



対話型鑑賞



④ 課題に対する意見の共有
絵のどの部分からそう思ったのか分かるように、透明の付箋を絵に貼りながら意見を発表しました。ファシリテーターが指さし確認、言い換え確認をし、発言をつないでいきました。生徒は自分とは違う視点に興味を持って他の人の意見に耳を傾け、聞きながらどんどん新たな発見をしていました。

深める問い①



全体共有

⑤「この絵にはどのような思いが込められていると思うか。なぜそう思うか。」付箋に書いた意見をもとに話し合い。

ファシリテーターの指示に従い、生徒は自分の解釈を伝え、他の人の解釈を聞いて似ている解釈をまとめて統合していきました。まとまらなかったら無理にまとめなくても良いという指示は出したものの、採用されなかった解釈の行方について、気になることはありませんでした。



⑥深める問い1の意見の共有

班でまとめた解釈を全体に発表し共有しました。7つの班が発表し、生徒は自分とは違う解釈にも「なるほど」と頷き、認め合って拍手を送り合いました。

深める問い②

⑦深める問い2「絵の印象は何で決まると思うか。なぜそう思うのか。」自分の意見をタブレットに打ち込む。

これまでの授業で鑑賞した絵も提示し、生徒はそれも見て総合的に考えました。「インパクトの強さ」「色使い」等、それぞれの意見が出ました。



成果

対話型鑑賞という手法で作品鑑賞することについて、生徒アンケートからまずは鑑賞を楽しんでいると感じ、鑑賞への抵抗がなくなった生徒が多数いることが大きな成果と言える。生徒は個人で根拠を持ち意見を付箋に書いて貼ったり、主体的にクラスメイトと関わりながら活動したりした。人それぞれ感じ方や考え方が違っていいということが分かり、他者の見方を知ることで多面的・多角的に作品を捉える目を養うことができた。

また、自分の意見を述べることや交流することの重要性を学ぶ貴重な機会にもなった。

課題

課題は、見方や感じ方を「深める」ことにおいて、自分の考えと他者の考えをもっと批評し合って、最終的に自分の考えに自信をもったり、見直したりするところまで導きたい。今後この対話型鑑賞を繰り返していくことを通して、生徒がスムーズに話し合い、美意識を高め、見方や感じ方を深めていくことを目指したい。

技術・家庭

生活を工夫し，創造しようとする生徒の育成 ～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～

新潟県の技術・家庭科では数年間文科省調査官から指導をいただく機会を得て，主体的・対話的で深い学びについて研究を進めてきました。その視点は「主体的な学びとは過去から未来への時間軸の学び，対話的な学びとは現在の空間で学ぶ平面軸での学び，その相互作用で生まれるのが深い学びである。」というシンプルなものです。生活や社会の問題をもとに，他との交流を通して実現可能な最適解を探り，生活を改善する実践力を育てます。



県中教研 技術・家庭部 全県部長
南魚沼市立大和中学校

校長 青木 新一

現状の問題点から未来の社会を構想し，プログラミングや構想図・具体物での試行錯誤を通して深い学びを創出する 技術分野

土屋先生（新津第五中：技術分野）の「情報に関する技術」の実践では，スマート農業という2年時の栽培分野の学習で見いだした課題に関連させながら，これからの農業と情報社会のつながりを考えるという時間軸での学びの中で現在の課題を考える。平面軸の学びでは，他との交流を通して論理的に思考し実際にプログラミングして問題解決を図る。ポイントは失敗を意図的に仕組み，Try and Errorを繰り返してプログラミングを進めることである。技術分野においてはプログラムや構想図・アイデアスケッチなども言語であり，これらを生活に関わる見方考え方を生かして意見交換しながらイメージを共有し作り上げていく。思考力・判断力・表現力をフル活用し学びを深める。

前澤先生（鏡が沖中：技術分野）の「情報に関する技術」の実践では，技術分野の生物育成にかかわりの深いSDGsである「あらゆる年齢の人が住み続けられる社会」の観点から過去から現代への問題点を確認し，持続可能な社会の担い手という技術分野の目標実現にむけて，未来について計測制御を利用して解決できる問題を考える。

プロトタイプを作りそれをもとに検討して改良していく。計測・制御によって課題を解決する方法を挙げ，グループで議論しよりよく改善していく。プロトタイプやモデルを改造するという手法はものの仕組みを考え技術を検証するという技術分野では有効である。視点を明らかにし思考力をフル活用して深く追求する学習である。

社会や生活の中から問題を焦点化し、他や地域との対話を通して、将来への実践につながる深い学びを創出する 家庭分野

長谷川先生（鏡が沖中：家庭分野）の「衣・食・住の生活」と関連させて考える「家族・家庭生活」についての実践では、高齢者の身体的な衰えを学んだ総合の時間との関連をもとに、将来の高齢者とのかかわりの視点を生活の中に生かす時間軸の流れを作っている。その中で、地域に支えられている自分に気づき、支えられる側から支える側に成長しようという実践力につながるためにリフォームについて学ぶ。新潟工科大学との交流をはじめ柏崎市の教育財産を活用しての理想と現実の比較や、他のグループとのリフォーム案の比較検討などの交流を通して、広範囲での経験や価値観に触れる平面的な交流を実現している。現実に向かい合う部分に重点を置き、実践力につながる深い学びを創出している。

赤塚先生（山の下中：家庭分野）の「衣生活・住生活の自立」の実践では、防災教育で総合に取り組んだ内容や他教科の学習内容と関連

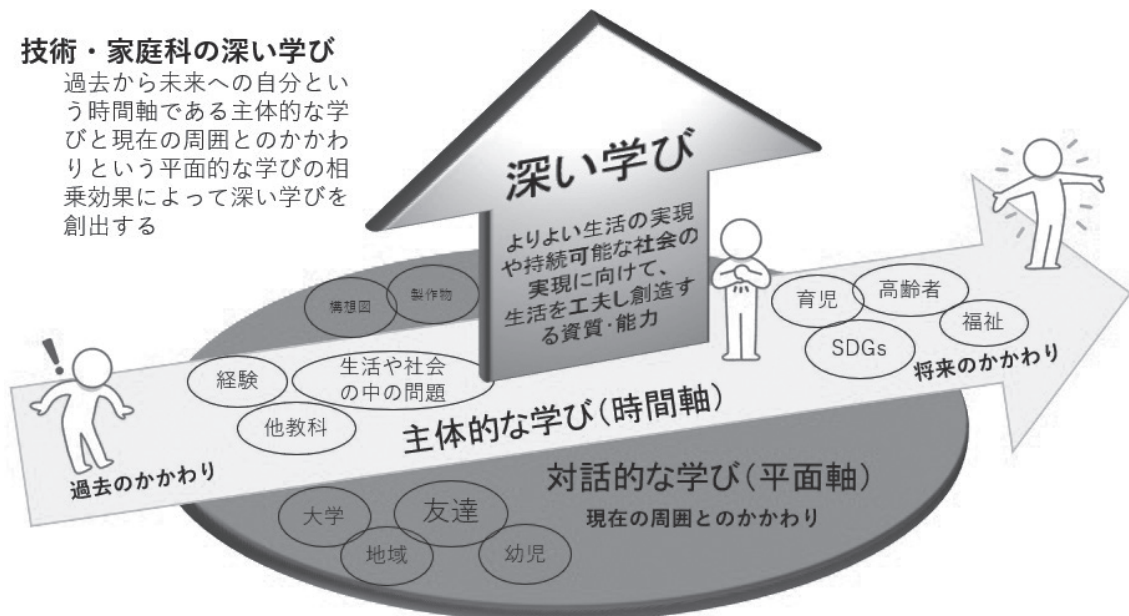
させ、住空間での家族の安全対策を家庭で実践するという時間軸の流れを作っている。また地域の消防士や救急隊員などから災害の実際について学ぶ場を設定する。より具体的で現実的な住環境の改善を考えるために、モデル家族を設定し、高齢者や幼児・けが人を存在させ考える。自ら考えた安全な住空間のシミュレーションを発表する。さらにその防災対策が可能かどうか区長や防災士からの点検を受ける。過去・現在・未来という時間軸に生徒と地域の方との交流という平面軸での広がり深い学びを創出する。

地域との交流で現実と正対し追求を深める



技術・家庭科の深い学び

過去から未来への自分という時間軸である主体的な学びと現在の周囲とのかかわりという平面的な学びの相乗効果によって深い学びを創出する

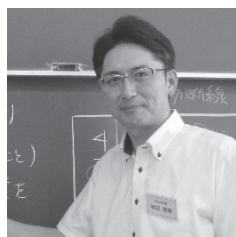


技術・家庭 重点目標

- 実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。
- 生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。
 - 学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。

技術・家庭 <上越地区・柏崎市刈羽郡中教研>

「家庭分野／A 家族・家庭生活（４）
リフォームで家族が安心して住める住空間をゲットしよう！
技術分野／D 情報の技術（３）
誰もが快適に暮らせる『スマートホーム』を考えよう」



(左から) 研究推進責任者(技術分野)



研究推進責任者(家庭分野)



刈羽村立刈羽中学校



梅田 茂明

会場校教科担当者(技術分野)

柏崎市立第二中学校

青木 久美江

会場校教科担当者(家庭分野)

柏崎市立鏡が沖中学校

前澤 侑

柏崎市立鏡が沖中学校

長谷川 智美

研究主題：持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒の育成
～よりよい生活の実現に向かう力を高める学習指導の工夫～

開催日：11月18日（金）

会場校：柏崎市立鏡が沖中学校

公開：2年1組，2年2組

授業者：2年 長谷川 智美（家庭分野） 2年 前澤 侑（技術分野）

指導者：上越教育大学 教授 東原 貴志 様

柏崎市教育委員会 指導主事 樋口 雅樹 様

こんな深い学びの姿を目指します

「あらゆる年齢の人々が住み続けられる社会」の観点から、自分たちの生活を見つめ直し、課題を見つけ仲間と共に解決する方法を探ります。「総合的な学習の時間」で取り組んだ高齢者疑似体験を基に、家庭分野では、高齢者を含んだ家族全員が安心して暮らせる住宅のリフォーム案を考えます。さらに技術分野では、誰もが快適に暮らすため、計測・制御のプログラミングを利用して解決できる課題の最適解を使用者のニーズを踏まえて導き出していきます。このように家庭分野と技術分野での学びを関連させ考えを深め、持続可能な社会の実現を目指そうとする実践力を育みます。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 (総合的な学習の時間)

全体を貫く 学習課題の把握

「総合的な学習の時間」と連携して学習をすすめます。生徒が生活の中にある問題を発見できるよう、高齢者疑似体験の場を設けます。教科の学習では、この体験を基に問題の解決方法を提案していきます。

ポイント2 (家庭分野)

地域人材と協働し、検証する場の設定

住宅や高齢者介護の専門家など、地域の人的資源を活用し、生徒の提案を検証する場面を設定します。学校外の方との交流により問題解決の視点が広がり、さらに熟考することにつながります。

ポイント3 (技術分野)

課題解決のために試行錯誤する場面の確保

教科の「見方・考え方」を働かせ、課題解決のための方法を試行錯誤する場を設けます。課題解決に向けた活動を繰り返しながら、最適な方法を提案できるようにします。

総合的な学習の時間の学習の様子

ポイント1

SDGsを基本理念とし、本研究では「持続可能な社会」を「あらゆる年齢の人々が住み続けられる社会」と定義しました。2年生の総合的な学習の時間を使って、「誰かのために何かができる大人になろう」という全体を貫く大きな学習のテーマを全員で共有します。今回は特に、「誰か」にあたる部分を「高齢者」とし、高齢者疑似体験を行い、実際に身体的衰えを実感した上で、自分に何ができるのか考えるきっかけとします。



家庭分野の学習の様子

少子高齢化が進む柏崎に対し、生徒が将来への不安を述べる場合があります。「地元を愛し、地元で暮らす生徒を増やしたい」と、地域の大学、介護事業所、社会福祉協議会の人々と協力しながら「オール柏崎」を合言葉に指導の構想を練り上げてきました。

① 高齢者が家庭内で、どのような暮らしにくさがあるか、また、解決するためにはどうしたらよいか確認します。

② 娘夫婦との同居を機に自宅リフォームをどうすべきか考えます。比較的容易な事例Ⅰで、リフォームの要点を押さえます。



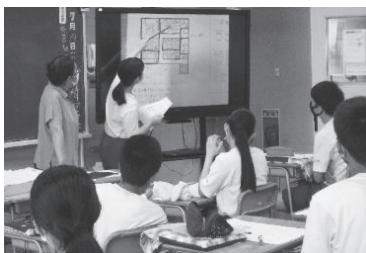
研究会

ポイント2

③ ②と同じ条件

で、間取りが異なる事例Ⅱについてリフォーム案を考えます。事例Ⅰと違い、難易度が上がり、理想の家造りに向けた話し合いが進みます。各班の発表を終えた段階で、「その道の達人」から講評をいただきます。どう評価されるのか、緊張が高まります。こうして「あらゆる人々が安心して暮らせる社会」の見方、考え方に視点が向けられるようにします。

以上の学習を踏まえ、技術分野の内容に更に課題が引き継がれます。



技術分野の学習の様子

①② コンピュータによる処理の基礎的・基本的な仕組みを理解します。また、その処理の流れをフローチャートで表現したり、micro:bitエディタを使ってプログラムしたりすることを学びます。

③④ 身の回りにある計測・制御を使った電化製品やシステムなどを調べ、処理の流れをフローチャートを使って表現する。その中で出てくる様々なセンサーの働きを理解し、それらを使ったプログラムを作成します。

⑤～⑫ 既習の総合的な学習の時間や家庭分野の内容を踏まえ、誰もが快適に暮らすために計測・制御を用いて解決できる課題を設定します。課題のフローチャートやプログラムを作成し、実際にmicro:bitや汎用キットを使ってプロトタイプを作成します。技術の『見方・考え方』を働かせ、課題を整理し試行錯誤して解決策を考えます。

ポイント3

研究会

⑬ 制作した課題を解決するためのシステムのプロトタイプをプレゼンテーションします。

プレゼンを聞く生徒は、制作者の立場、使用者の立場から、技術の『見方・考え方』の視点からアドバイスを送ります。

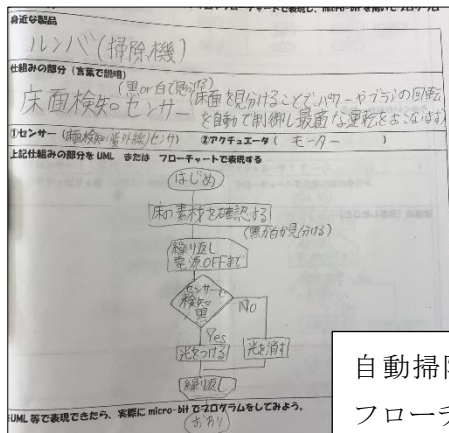
もらったアドバイスからより良い製品にするための解決策を考えます。



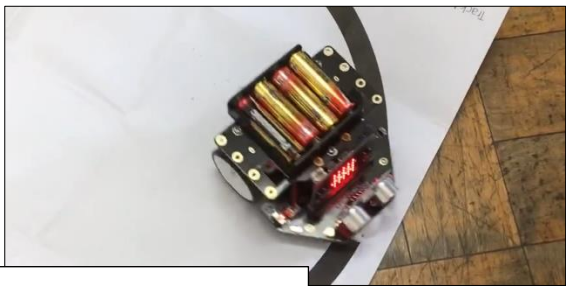
授業の様子・学びの姿の紹介

■本時まで■

身の回りの計測・制御



自動掃除ロボットのフローチャート



赤外線センサーの働き

身の回りにある計測・制御が用いられている例について、そのフローチャートやプログラムを考えたり、micro:bit (イギリスで開発された教育用マイコンボード、多種類のセンサ、アクチュエータを搭載している)を用いてその処理の流れを実際に動かしてみたりしました。

その際に、センサやアクチュエータのmicro:bitへの接続の仕方やプログラムの作成方法などを上越教育大学の院生の方から生徒へ直接アドバイスをしてもらったり、センサの動かし方のマニュアルを作成してもらったりしました。そのため、生徒たちにとってセンサやアクチュエータの働きや動かし方を理解しやすい環境となり、その後の学習にスムーズに入ることができました。**ポイント2**

問題を発見し、課題を設定する

- 段差につまずくとけがをする恐れがある
- 耳が強いと言われたことがわからなくて困る、話しかけられてことに気づけない
- 歩くのが遅れると長い距離を歩けなくて行きたいところがあっても諦めないといけない
- やった事を忘れると同じものを食べてお金がかかるかもしれない

総合的な学習の時間での高齢者疑似体験や、家庭分野での高齢者を含んだ家族全員が安心して暮らせる住宅のリフォーム案の作成した授業を踏まえ、高齢者や高齢者と共に暮らすその家族の困ることは何なのか、【問題】を発見しました。

問題の明確化

【何が】…ゴミ出しが

【どのように】…重たくて、持ち運びができない

【誰にとって】…脚腰が不自由なお年寄り

【どのような場面】…ゴミ出しの場面

課題の設定

部屋のゴミ箱にゴミが溜まってきたら、ロボットが回収にきて、ゴミ出しの日にゴミステーションに出しに行く

また、その【問題】を計測・制御のプログラムを利用して誰もが快適に安心して暮らせるシステムを考え解決する【課題】を設定しました。この全体を貫く学習課題の把握がその後の生徒の学習意欲の向上につながりました。**ポイント1**

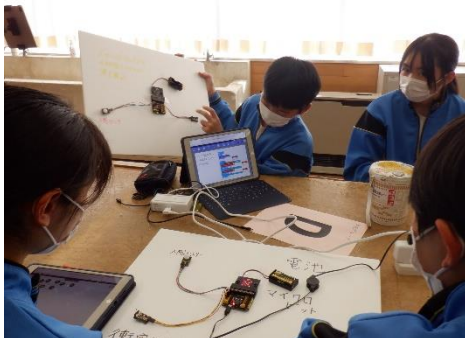
プロトタイプ制作



micro:bit は、トライ&エラーを繰り返して自分たちの課題に辿り着くにはとても適している教材であり、子どもたちは何度も失敗しながらもプロトタイプを制作することができました。 **ポイント3**

■本時■

プロトタイプの発表、改善策



本時では、プロトタイプのプレゼンをして、プレゼンされる側からアドバイスをもらった上で、そのプロトタイプをより良いものにしていくための改善策を考え、改良することを課題としました。

生徒たちが考えた課題が明確であったことやプレゼンをしっかり準備してあったおかげで、プレゼンされた側（買い手・客）は、より具体的な質問やアドバイスができました。また、「技術の見方・考え方」の3つの視点「家族の願い」「安全性」「経済性」を与えたことで、改善策を考えやすくなりました。 **ポイント3**

アドバイスは意見共有アプリケーションソフトを使用しました。ペアごとに改善策を考えるときに手元にアドバイスがあったので、どのように改善すべきなのかイメージしやすくなりました。

アドバイスを送る、改善策を検討する視点

家族の願い

必要な機能？ 問題は解決している？
使いやすい？ 本当に便利？ リスクは？

安全性

使用時に危険は伴わないか？ 精度は？
事故には繋がらない？ 想定外では？

経済性

本当に実現できる？
コストは？

成果

総合、家庭分野、技術分野を貫く学習課題の設定があったことで、生徒たちはぶれずに意欲的に問題解決に取り組むことができました。また、上教大の院生に micro:bit 使用のマニュアルを作成していただいたり、授業に入って子どもたちに直接アドバイスをいただいたりすることでスムーズに学習を進めることができました。

課題

今回の計測・制御の学習では、micro:bit 本体の他に拡張キットを使用しました。それらを授業で使用するには、事前の準備等が必要であり他の技術科教師が一般的に使用するにはまだ課題があります。micro:bit にセンサやアクチュエータを接続して使用するには回路の知識がないと学習を進めていくのに困難さが生じます。エネルギー変換の技術や理科の電気の知識も既習事項として重要であると感じました。

授業の様子・学びの姿の紹介

■本時まで■

高齢者疑似体験



「誰かのために何かができる大人になろう」という全体を貫く学習テーマのもと、「総合的な学習の時間」と連携し、学習を進めました。「総合的な学習の時間」では、生徒2人組で、様々な生活動作について高齢者疑似体験を行いました。県介護福祉士会より体験セット20組借用し、一人一人に十分に体験させたことにより、問題意識を引き出すことができました。

ポイント1

家庭内事故について考える

教科書（東京書籍）P172・173の図を用い、住まいにおける危険を生活班で検討しました。そして、高齢者疑似体験での経験を基に、高齢者の身体的特徴と安全に暮らすための要件を全員で確認しました。

「間取りⅠ」の検討

ポイント3



娘夫婦と小5の孫娘が同居することになった高齢者夫婦の自宅を、どのようにリフォームすればよいか、考えました。まず個人で考え、次に5人班で検討しました。その際、高齢者夫婦、娘夫婦、孫娘の役割を決め、それぞれの立場で意見を述べ合いました。初めは戸惑の様子がみえますが、「間取りⅠ」は比較的容易に検討でき、課題解決の面白さに生徒がのめり込みました。全ての班の発表を終えた後で、再度、自分たちの考えたプランがリフォームの要件を満たしていたか評価しました。

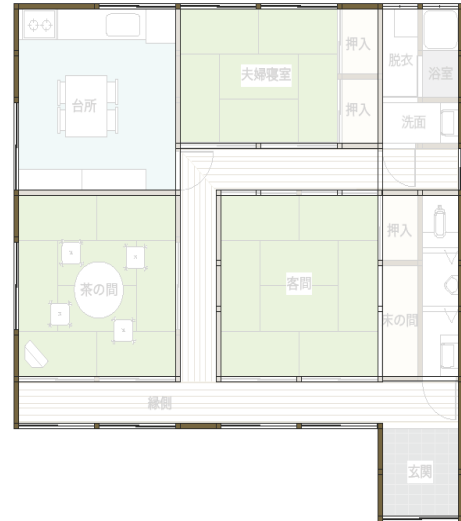


■本時■

「間取りⅡ」の検討

ポイント3

より実生活に即した「間取りⅡ」のリフォーム案を考えました。前時同様、まず個人で考え、次に家族の役割になりきって班で検討しました。「間取りⅡ」では、試行錯誤しながら活発に話し合いがなされ、より深い学びが実現しました。



リフォーム案の発表



班のリフォーム案を発表し合いました。高齢者を含めた家族全員が安心して暮らせるリフォーム案が、根拠をもって次々に披露され、全員が図面に見入りました。

外部指導者からの講評

ポイント2



授業に参加した地域人材（建築学科准教授、介護福祉士、建築士、地域の高齢者）からリフォーム案を肯定的評価していただきました。その評価に喜ぶ生徒たちの姿は、学習前に比べて、確実に成長した生徒たちの姿でもあります。

成果

地域人材を積極的に活用したことによって、生徒の意欲を引き出すことができ、試行錯誤しながら課題に取り組む、深い学びにつなげることができました。また、専門的な見地から住宅の間取りを提示いただき、適切に教材化することができました。多くの先生方から追試いただけるとありがたいです。技術分野と連携し、カリキュラム・デザインすることができました。

課題

本題材は、高齢者を支え、安心して暮らせる住空間を考えることを通し、よりよい家族関係を築き、自ら暮らしを創造する大人へ成長したという気持ちを醸成することをねらいました。リフォーム案の作成で終始せず、家族の在り様に生徒の思考が向くためには、さらに工夫が必要と感じました。

技術・家庭 <新潟地区・新潟市中教研>

「計測制御のシステムを栽培に生かそう（技術分野）
住居の機能と安全な住まいを考えよう（家庭分野）」



(左から)	研究推進責任者(技術分野)	新潟市立山潟中学校	寺田 敬史
	研究推進副責任者(家庭分野)	新潟市立内野中学校	芳賀 志津子
	会場校教科担当者(技術分野)	新潟市立新津第五中学校	土屋 稜太
	会場校教科担当者(家庭分野)	新潟市立山の下中学校	赤塚 仁美

研究主題：生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成
～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～

開催日：11月10日（木）

会場校：(技術分野) 新潟市立新津第五中学校 (家庭分野) 新潟市立山の下中学校

公開：(技術分野) 3年4組 (家庭分野) 3年2組

授業者：(技術分野) 3年 土屋 稜太 (家庭分野) 3年 赤塚 仁美

指導者：(技術分野) 新潟市立総合教育センター 指導主事 上野 一志 様
(家庭分野) 新潟市立総合教育センター 指導主事 尾形 美穂 様

こんな深い学びの姿を目指します

体験してきた既習事項の中から、これからの生活や未来に向けての課題を見いだします。その課題に対して、思考ツールなどを活用しながらの他者との関わりを通して解決方法を導き出します。導き出した解決方法に対して、タブレットなどのICT機器を使い試行錯誤をする中で論理的な思考を深めたり、解決方法をすりあわせたりすることで最適解を見つけ出し、自己の実践方法を見いだす姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

既習事項からこれからの生活や未来への課題を見つけて出す

技術分野では「生物育成の技術」、家庭分野では「総合的な学習の時間」で学んだことから生じた課題や、これから生じるであろう問題に目を向けます。自分が体感した課題や社会的にも話題になっている問題であることから、生徒の関心も高く、意欲的に取り組む姿が期待できます。

ポイント2

関わり合いながら、解決方法を考える

見いだした課題に対して、他者との関わりの中から多様な意見、考え方を取り入れ、取捨選択をしながら課題解決の方法を導き出していきます。

ポイント3

試行錯誤をしながら、解決方法を見つける

実証実験やタブレットによるシミュレーションを繰り返す中で、課題の解決のための試行錯誤を繰り返しながら、自己の実践方法を導き出していきます。

技術分野の題材の様子

①② 技術分野は「計測・制御に関するプログラミングによる問題解決」を題材とし、micro:bitの仕組みと操作技能を学習します。

③④ micro:bitのセンサーの学習をしながら、前年度に「生物育成の技術」の学習内で実践したサニーレタスの栽培やスマート農業と関連させ課題を発見させます。サニーレタスを栽培する際に自分たちが感じた苦勞が、センサーを用いて軽減できることをグループの話し合いで気付かせます。今回は、水やりの苦勞に目を向け、自動灌水装置のためのプログラミングを課題とします。

⑤⑥ 自動灌水装置のプログラムのために、しきい値をどのように決めていくか考えさせます。グループで考えた方法で実証実験を行い、しきい値を決定し、プログラムを完成させます。



⑦ プログラムと装置を完成させ、実際に運用してみます。また、運用結果から修正を加え、より良いものにします。



⑧ 自分たちが実践した活動を振り返り、スマート農業で取り入れられている技術に気づき、自分たちの工夫次第で未来に起こるであろう問題の解決をすることが可能であることに気付かせます。

家庭分野の題材の様子

① 家庭分野では「住生活と自立」の題材での実践を行います。家族の生活と住空間との関わりについて理解を深め、見通しを持たせます。

③④ 住居の基本的な機能の理解の上、「総合的な学習の時間」で実施した防災学習での体験や防災士や消防士からの情報を踏まえながら、他者と関わりながら家族の安全を考えた住環境を設定します。関わり合いでは、シンキングツールを用いて考えを深まらせます。



⑤ 自然災害(地震・水害)を想定しながら、タブレットを用いて仮想モデル内でのシミュレーションをしていきます。災害時に家族の安全面が達成できているか、家族構成への配慮があるかなど、他者と意見交換をしながら試行錯誤を繰り返します。



⑥ 自作したシミュレーションの発表を行います。発表後は、防災士や地域の方からも意見をもらい、実用的なプランにします。

⑦ 前時の発表をもとに、自分の考えた解決策を振り返ります。自分たちの工夫は、災害に備え、どの世代も安全でより良い住環境が作り出せていることに気付かせます。

授業の様子・学びの姿の紹介

■本時までの過程■

既習事項から課題を見出す



2年時に学習したリーフレタスの栽培についての振り返り用ワークシートをタブレット内に残しておき、見直ししながら、どのような点で苦労したかを話し合う。また、スマート農業の実例を参考にしながら「micro:bit」を利用して栽培の苦労を改善できないかを考える。

■本時までの過程■

関わり合いの中で課題の解決方法を考える



「micro:bit」を活用し、水やりの苦労を軽減することに焦点を当てた。自動灌水装置のプログラミングをするにあたり、どのようなプログラムを組むと良いかフローチャートで図示することで自分の考えを整理するとともに、プログラムを作る際の助けとした。

■本時■

課題の解決のためのポイントに関わり合いの中で整理する



グループの中でお互いのフローチャートを見せ合いながら、同じところ、違うところを話し合うことを通して、同じ目的のためにプログラムを組んでも様々なアプローチがあることを知り、自分のプログラムが適切かを考えることができた。

課題解決のために何が必要かを話し合う



話し合った内容を発表し合う。その結果、プログラムを決定するために「しきい値」を決定する必要性に気づかせる。「水を与える時間」、「土の水分量の状況」のための「しきい値」を決定する必要があるという結論に至った。

課題解決に必要な情報を実証実験で見つけ出す



様々な土壌の水分量の条件で電圧を測定、さらに、設定時間によってどれぐらい水が供給されるかの実証実験を行い、目的を達成するための「しきい値」を決定し、プログラムを完成させる。

■次時■

見出した解決方法で実践する



決定した「しきい値」をもとにプログラムを組み、自動灌水装置を設置した状態で再度、リーフレタスの栽培を行う。リーフレタスの成長を観察することで成果を確認する。

成 果

前年度の学習での体験をもとに課題を設定することで、課題解決に向けて意欲的に取り組む姿が見られた。また、タブレットの活用により、試行錯誤がしやすくなり粘り強く活動する様子を感じられた。

課 題

タブレットの操作の説明や実験の説明などに時間がかかってしまい、教師が話す時間が多くなってしまった。また、学習課題を生徒から引き出すことができるように手だてを講じるべきであった。

授業の様子・学びの姿の紹介

■本時までの過程■

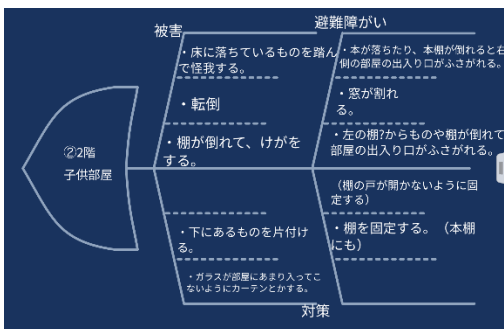
既習事項と関連させ、問題意識を高める



修学旅行や総合的な学習の時間で実施した防災学習の内容、さらに、防災士や消防士からの情報をもとに、「家族の安全を考えた住環境」を学習課題に設定し、身近な生活の中で自分たちが実践できることは何かを考える意欲付けができた。

■本時までの過程■

シンキングツールを用いて自分の考えを整理する



課題解決に向けて、まずは自分の考えを確認することから始めた。シンキングツールを用いることで、共通の課題のもと様々な視点から物事を考えることができ、自分の中にあるアイデアを視覚的に分かりやすく整理させることができた。今回はフィッシュボーンを用いた。

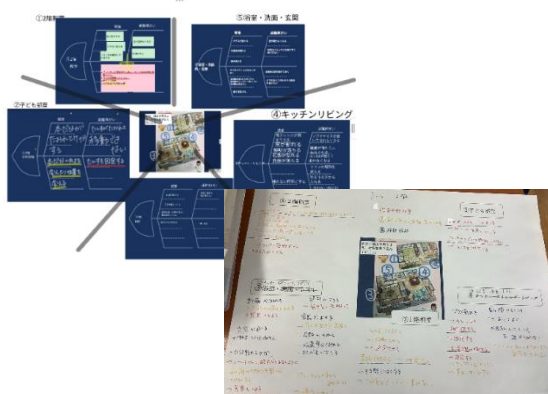
シンキングツールを用いて他者との関わり、解決方法を考える



個々に考えたシンキングツールをもとにグループで意見交換を行った。シンキングツールは、他者に考える伝える際にも有効に働き、様々な考えを誰もが収集することができた。

■ 本時 ■

同じ課題のグループで解決方法を見つけ出す



前時までに見つけ出した課題に対して、ジグソー法によってグルーピングすることで、同じ課題の下での活動ができ、活発な意見交換にすることができた。グループ内ではタブレットでのまとめと紙面でのまとめかを選べるようにした。

得られた解決方法の中から実践できるものを選ぶ



グループでの話し合いで得られたアイデアを参考にし、間取りを示した画像を用いて、より現実的な対策を考えることができた。

自分の立てた計画に加筆した計画を持ち帰り、家庭で実践可能かを話し合うことで、現実的なものにすることができた。

■ 次時 ■

個々に考えた解決策を発表し合う



最終の計画の発表会を行った。各グループで話し合ったことをさらに広げ、「家族の安全を考えた住環境」に対しての意識を高めることができた。

成果

学校の立地条件や修学旅行なども生かすことができ、自分事として意欲的に課題に取り組んでいた。また、シンキングツールやジグソー法などの活用により、活発な意見交換がなされ、考えを深めさせることができた。

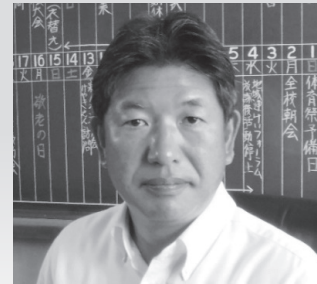
課題

防災士の講演から授業を展開したが、講演の前に対策を考えるともっと生徒の探求心を育てることができたかもしれない。既習事項を活用しながら、教科としての学びのねらいをしっかりと押さえて授業を展開していく必要がある。

特別活動

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ集団や自己の課題を解決する

特別活動では、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組みます。「自分達の課題は自分達で解決する!」のように、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の課題解決に取り組むことをとおして、資質・能力の育成を目指します。



県中教研 特別活動部 全県部長
長岡市立江陽中学校

校長 佐藤 裕之

特別活動で育む資質・能力と三つの視点

特別活動では、学んだことを人生や社会での在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を意識して身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになることが重要です。指導に当たっては、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、以下の資質・能力を育成します。

「知識及び技能」

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

「思考力、判断力、表現力等」

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

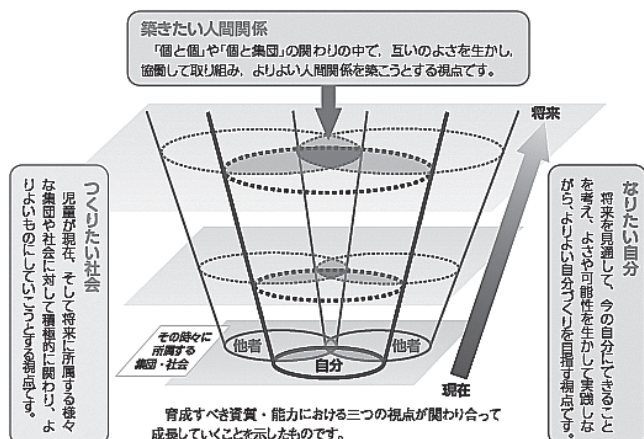
「学びに向かう力、人間性等」

自主的、実践的な集団活動を通して身につけたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

また、資質・能力を育成するための視点として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つが示されました。これらの「視点」は、「資質・能力の育成における重要な要素であり、資質・能力を育成する学習過程においても重要な意味をもつ」とされています。この三つの視点を常に意識し、学級や学校で実施される特別活動の様々な集団活動等を検討・吟味することが求められています。下図は、「三つの視点」をイメージ化したものです。

特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成	社会参画	自己実現
違いを認め合い、みんなと 共に生きていく力を育てます。	よりよい集団や社会をつく ろうとする力を育てます。	なりたい自分に向けてがん ばる力を育てます。



深い学びにいたる題材・学習過程の工夫

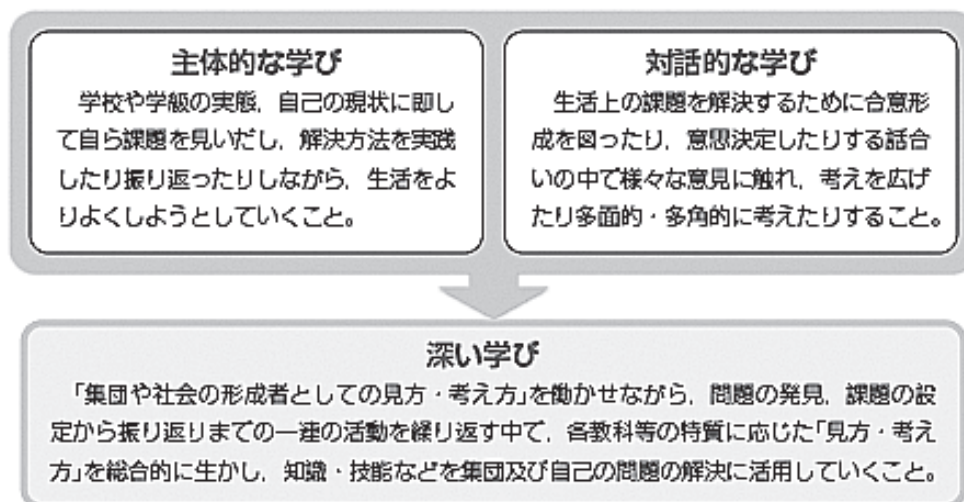
特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現とは、学級活動や生徒会活動、学校行事等の学習過程をとおして、生徒が資質・能力を身に付け、中学校卒業後も能動的に学び続けることができるようにすることです。そのためには、授業や指導の工夫・改善を行い、一連の活動過程の中で質の高い学びを実現することが求められます。

上越市立牧中学校では、1～3年生の3年間を通して「タイムカプセルを作る」という共通のテーマを掲げ、キャリア教育に取り組んでいます。将来の自分の姿を考え、そのために今の自分について振り返ったり仲間との対話をとおして他の考えを知ったりする活動、また、地域を支えている様々な方々の思いや実践を知る、職業体験で学ぶ等の活動を行います。各学年での実践、その時々自身の考え、思いや振り返りをポートフォリオとしてタイムカプセルに詰めようというものです。この取組では、生徒は「10年後になり

たい(なっていたい)自分」について考え、なりたい自分になるために、今、そして今後の自分がどう行動するかを考え、自身の進路選択につなげることができることを目標としています。

新潟市立宮浦中学校では、生徒により生徒会で「自校の課題」として取り上げられた事柄の解決に向け、生徒が「自分たちの課題は自分たちで解決する」ことに挑戦する取組を行っています。それを支えるものとして、「共に学ぶ、友に学ぶ」をキーワードに、学級活動・道徳・生徒会活動等が連携した実践を行っています。また、話し合い活動を年間をとおして計画的・継続的に行い、生徒が課題解決に向けて話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりするなど、よりよい人間関係を育む学級経営・授業経営の基盤を構築します。これらの取組により、生徒が「自校の課題」を自分ごととして受け止め、解決を図ろうとする姿を期待しています。

特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善



<引用・参考文献>

国立教育政策研究所 (H30) 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】」教師用パンフレット
文部科学省 (H29) 「中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説特別活動編」
名古屋学芸大学教養・学際編・研究紀要第16号 (R 2) 「特別活動の指導法における『三つの視点』と学級活動」

特別活動 重点目標

望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。

○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。

○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。

特別活動 <上越地区・上越市中教研>

「牧中タイムカプセル」

研究主題：個々の生徒の自己実現に向けた主体的な実践活動

開催日：10月21日（金）

会場校：上越市立牧中学校

公開：1学級

授業者：2年 山本 明子

指導者：上越教育大学 教授 阿部 隆幸 様

上越市教育委員会 指導主事 小山 明 様



研究推進責任者
上越市立清里中学校

白川 大輔



会場校領域担当者
上越市立牧中学校

山本 明子

こんな深い学びの姿を目指します

生徒一人一人が、自分の将来の生き方や生活、地域の将来について興味・関心を持ち、「どんな自分になりたいか」を考え、イメージをもつとともに、自ら課題を見出して、自分のこと、学ぶこと、働くこと、他人と関わること、そして生きることについて考え、見通しと目標をもって生きていこうとする姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

地域に学ぶ、地域を 考える取組の 推進

「牧を熱くしたい」という思いをもった地域のゲストティーチャーを招き、彼らの生き方に触れることで、中学生が主体的に地域や自分の将来について考えることができるように取り組んでいます。

また、まちづくりワークショップで、地域の方と一緒に牧の将来について考えることや、地域の方の思いに触れることで、主体的に実践する意欲につなげたいと考えました。

ポイント2

学校全体で特別活動と 総合的な学習が連携した キャリア教育

生徒たちは「10年後の牧と自分」について考え、自分たちの考えや成長の足跡を残すためにタイムカプセルの作成を進めています。地域について調べ、考え、発信することは、総合的な学習の時間で行っています。特別活動では、自分を見つめ、目指すべき自己の将来像を描くことを目標にしています。それらを連携させることによって、様々な角度からキャリア教育を進めたいと考えています。この取組を貫くテーマは「なりたい自分になる」です。

単元(題材)の様子

①まちづくりワークショップ

ポイント1

「10年後の牧を考える」をテーマに、学校運営協議会の方々をお迎えしてまちづくりワークショップを行いました。牧のよいところ、課題を全校生徒がそれぞれ出し合い、それをもとに、各学年の総合的な学習の時間のテーマに関わる課題を設定し、その解決策を学年ごとに考え発表しました。



②ようこそ先輩ミニ講演会 (R3年度6回, R4年度5回実施の予定)

牧中学校にゆかりのある「先輩」や地域で活躍されている方をお招きし、中学生に向けて様々な経験談やメッセージをお話していただくことを通して、さまざまな生き方や考え方があることを知り、夢に向かって自己を高める意欲をもち、地域に誇りをもてるようにと実施しています。



③1年次の取組

ポイント2

特別活動におけるキャリア教育の実践において、将来の自分について考える活動や現在の自分たちについて振り返ったり、話し合ったりする活動を継続して実践するため、「タイムカプセルを作ろう」をテーマに、ポートフォリオの側面も期待してスタートしました。授業公開では、10年後にタイムカプセルを開けたときの気持ちや、どんなものを残していきたいかを話し合いました。

④プレ授業公開(令和4年6月17日)

職場体験学習を通して自分自身が身に付けたいことや成長した姿を具体的に考えることで、見通しと目標をもってより主体的にキャリア教育としての職場体験に取り組み、「なりたい自分」を考えるステップとしました。



タブレットで意見を共有



思考ツールを使って

⑤職場体験学習

牧地区内の事業所に依頼し、職場体験学習を実施しました。事前学習では、職業調べのほか、マナー講座など対人スキルについて学ぶ機会をもちました。



(令和4年10月21日)

⑥「10年後の自分を考える」

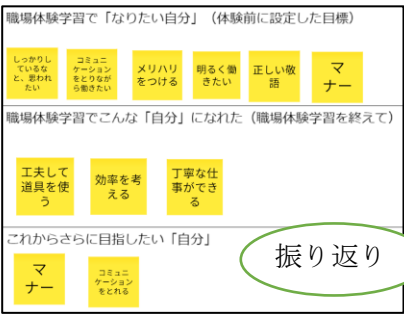
牧の10年後を考える取組や、これまでに学んだことをふまえ、「10年後になりたい自分」を考えます。そして今、どんなことをどうやって頑張っていくのか考える授業を予定しています。子どもたち一人一人が自分を見つめ、それぞれがファシリテーターの気持ちになって動き、盛んに意見を交流し、考えを深める場面をつくりたいと考えています。



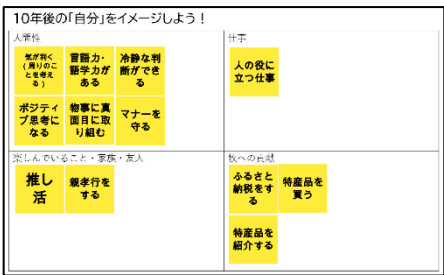
授業の様子・学びの姿の紹介

■本時までの流れ■

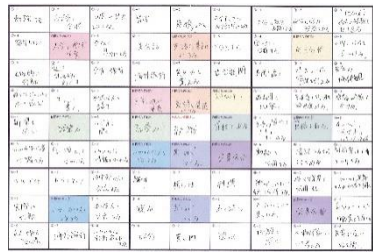
職場体験学習を通してなりたい自分→10年後になりたい自分



職場体験学習を終え、体験前に考えた「なりたい自分」に近づけたか振り返りを行いました。また、体験を生かして「これからさらに目指したい自分」も考えました。その後、10年後になりたい自分のイメージを各自でまとめました。「なりたい自分」になるために何をどう頑張ればいいのかを考える活動につなげるため、目標達成シートを使って考える活動も行いました。



Jamboard の背景に必要な枠の画像を入れ、1人1ページを割り当てて同時に作業を進めた。他の人のページを参考にすることや、発表が容易である。



↑ある生徒の Jamboard のページ

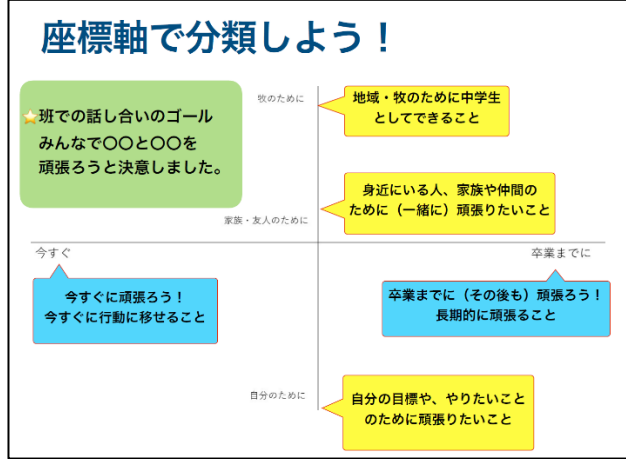
↑目標達成シート

■本時■

10年後に「なりたい自分」になるために「今、頑張ること」を考えよう



○前の時間に作った10年後のイメージを班で発表し合った後、その「なりたい自分」になるために「今、頑張ること」を考えました。個人で考えてから、班での話し合いを行い、話し合いのゴールを「みんなで〇〇を頑張ろうと決意する」と提示しました。
○意見を書き込むワークシートと Jamboard の背景には、左図のようなマトリクス図を用意してあり、横軸には時間的なスパンを、縦軸には自分自身から地域に向かうコミュニティの広がりという意味付けし、説明してから思考に入りました。「話し合う必然性のある目標設定」を意識しました。



ファシリテーションの育成と ICT・思考ツールの活用



○役割が固定しがちであったため、話し合いをする度にくじでファシリテーター、記録者、発表者を決め、誰でもファシリテーションできることを目指してきました。自分の役割を意識すると同時に、全員がファシリテーターのつもりで話し合いに積極的にかかわろうとしていました。



○これまで様々な場面で Jamboard を話し合いに用いてきたので、生徒が自分の考えを出し、共有してまとめる作業がスムーズに進みました。思考ツールとして用いたマトリクス図によって、いろいろな方向から意見を出しやすくなり、共有する際には整理しやすく、効果的でした。

深い学びの姿「見通しと目標をもって生きていこうとする姿」

○これまでの取組をもとに、将来を見据えて今できること、頑張れることを考え、共有することで深めることができました。自分を見つめ直し、スキルアップや他者とのかかわり方を意識した生徒が多く、地域にも気持ちを向けることができました。

成 果

- ・「ようこそ先輩ミニ講演会」を定例として実施することで、自分の生き方を考える機会をもち、個々の将来に対する考えを深められた。また、職場体験学習の前後で「なりたい自分」について考える機会をもったことで個々の将来像や職業観を深めることができた。
- ・話し合いを深める手立てとして、タブレットのアプリケーション(Jamboard)や思考ツールを繰り返し使い、ファシリテーションを誰もが意識して務めることで、どの生徒も話し合いスキルの向上が見られた。

課 題

- ・話し合う際にタブレットを活用したが、画面を見る時間が長くなり、話し合いの口数が減るなどのデメリットもある。話し合う必然性のある課題設定がポイントとなる。
- ・「個」→「社会」の課題意識をもたせることが課題であった。地域とのかかわりや、他の人とのかかわりを大事にすることを意識してきたが、地域への思いを醸成することは、難しい部分があった。コロナ禍が落ち着き、地域行事やボランティア等の活動を再開できることに期待している。

特別活動 <新潟地区・新潟市中教研>

「合意形成に向けた話し合いスキル」

研究主題：よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫
～他との関わりを必要とする活動を中心として～

開催日：11月24日（木）

会場校：新潟市立宮浦中学校

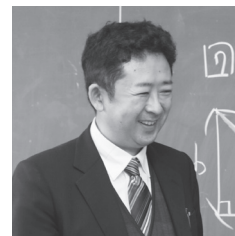
公開：1学級

授業者：2年 中村 匡宏

指導者：新潟市教育委員会 学校支援課 課長補佐 三條 貴之 様



研究推進責任者
新潟市立内野中学校
松山 綾子



会場校領域担当者
新潟市立宮浦中学校
中村 匡宏

こんな深い学びの姿を目指します

「自分たちの課題を自分たちで解決する」というところから、「共に学ぶ、友に学ぶ」というキーワードを立てて、よりよい人間関係を育む学級経営・授業経営の基盤を構築します。小学校で培った話し合いのスキルをレベルアップし、年間を通して話し合い活動を継続的に行うことで生徒自身が集団生活や人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い合意形成を図ったり意思決定したりする姿を目指します。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 目的に応じた話し合いを設定する

班単位、クラス単位で合意形成に向けて話し合いを行う際に視点を明確にすることで、合意形成に向けた話し合いを全員で行います。小学校での話し合いのやり方を基に、互いの意見を尊重しながら他者と関わる姿を育成します。また、思考ツールを用いてメンバーの意見を可視化します。

ポイント2 年間を通して話し合い活動を設定する

年間を通して行事ごとに話し合い活動を全校体制で設定することで誰とでも話し合い、自分事として捉えることで話し合い活動に積極的に参加するように促します。（4月…学級目標、6月…理想のリーダー像、7月9月…運動会、クラス合唱に向けたスローガンの作成、11月…学級での思いやり宣言の作成）

ポイント3 全校朝会や道徳で、「自分事として捉える」ように支援する


12月の思いやり集会に向けて、「イジリ見逃し0」という視点で各クラスの実態を振り返るという活動を生徒会が主体となって行います。道徳で心情面を育て、生徒から呼びかけを行うことで自分事として捉えることができるようにします。

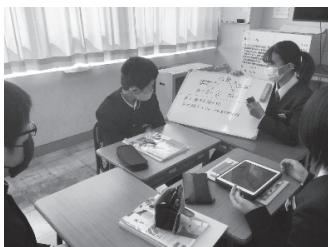
単元(題材)の様子

ポイント2

ポイント1

小学校で培ってきた話し合いのスキルを育成し、「共に学ぶ・友に学ぶ」姿での話し合いを構築します。

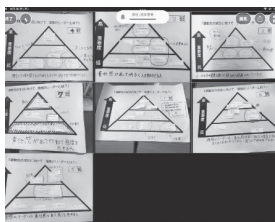
時	重点	○学習活動
1 ・ 2	主	学級目標の設定
3	思・判・表	理想のリーダー像を考える
4	知・技	運動会学級スローガンの設定
5	知・技	合唱学級スローガンの設定
6	主	集団や他者との関わり方に関する道徳
7	思・判・表	学級でのイジリ等の実態を振り返る
8 (本時)	思・判・表	 研究会
		学級での思いやり宣言を考える
9	主	思いやり集会



学級目標を自分事として捉えられるような問いかけをします。「〇〇ができるとどんな学級になるだろうか」「〇〇という姿になるためには何を頑張ればよいだろうか」

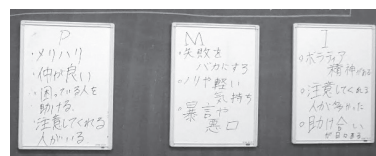
ポイント1

理想のリーダー像を各クラスで考え、それに基づいて各リーダーを選出します。その後運動会やクラス合唱でのクラス目標を生徒たちの話し合いで設定します。



ポイント3

イジリやいじめに関わる教材について全員で考え、学級でのイジリの実態を共有します。

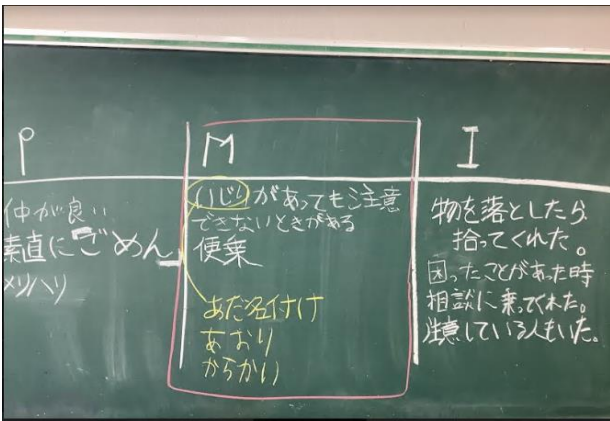


生徒会からの提案を受けて、学級でイジリやいじめをなくすためにはどうすればよいか考え、スローガン(思いやり宣言)を作成します。

授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

学級の実態を考える



生徒会からのテーマを受けて、「あおり・無関心」に関するイラストを見せて、それぞれの立場がどんな気持ちか考える道徳を実施します。自分自身や学級にもある姿だと気づかせて自分事として捉えた後に、学級の PMI シートを個人で記入します。個人で記入したものをまとめて、学級の PMI シートとして本時につなげます。

■本時■

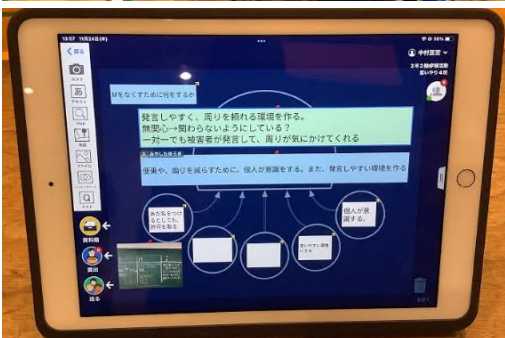
学級から M (マイナス) をなくすにはどうするか考える



生徒が司会をし、ロイロノートの共有ノート機能を用いて各班で M をなくすためにはどうするかということをお話します。

クラゲチャートの中に全員がカードを作成します。班長が意見を整理してクラゲの頭にまとめます。ここでは「注意する」「いい雰囲気にする」などの表面的なものが出されました。

そこで担任から「いい雰囲気づくりをするためには、何をすればいいのか」ということを投げかけ、もう一度班で話し合っ、意見を出し合います。前時のことを思い出しながら「平等な関係を築く」「注意しやすくなるように男女関係なく話す」などの意見が出されました。



Mをなくすためのスローガン「思いやり宣言」を決定する



各班から出された意見を回答共有し、それぞれの班で思いやり宣言を作成します。他の班の意見も参考にしながら大事だと思った意見をクラゲの足に書き、思いやり宣言をクラゲの頭にまとめます。班長が意見を集約していく中で「日頃から頼り合える関係を築く」「いい雰囲気を作るように言いたいことを言えるようにする」などの意見が出されました。学級目標である「信頼尊重」からつながる意見が多く出されました。各班から出された意見をまとめると「対等」「信頼」という言葉多かつたため、それを取り入れた思いやり宣言にまとめました。

■次時■

思いやり宣言に向かうための各自の行動を考えます。



本時で考えた思いやり宣言に向けて、自分は何ができるのかを個人で考えます。ピラミッドチャートの下段にクラスのM、上段に思いやり宣言を書き、中段にカードを作成しました。「たくさんの人と喋り、信頼し合える関係を築く」などができました。

成 果

年間を通した話し合い活動をする中でQ-Uや学校評価アンケートの結果から見ると、支持的風土の醸成がなされていた。またイジリなどについても生徒会から発信し、道徳とも連携しながら自分事として捉えることで、思考ツールを活用しながら具体的な方策を一人一人が考えることができた。

課 題

ICTを活用すると、対話が生まれにくくなる場面があった。1年次はワークシートと併用したことで生徒があわただしく動く場面があったため、指導計画を改善し時間的な余裕があるようにすればよかった。

総合的な学習の時間

内発的な動機を呼び覚ますプロジェクト型学習（PBL）から育む資質・能力

社会の課題に気付き、解決策を試行錯誤し、自分で考え行動する力や協働する力を育むためには、学びたい、追究したいという内発的な動機が重要です。切実感のある状況や世の中を変えようと努力している人との出会い等、生徒の心に課題意識の火を灯し、地域に貢献しようとする探究的な学習のポイントを紹介します。



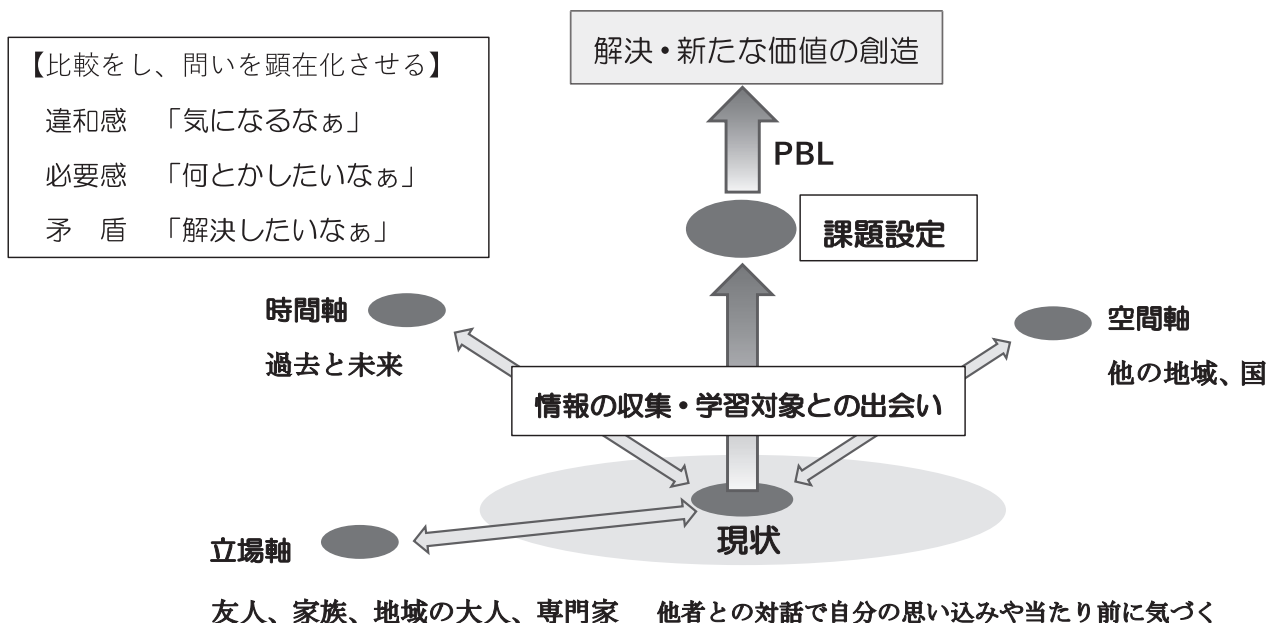
県中教研 総合的な学習の時間部 全県部長
新潟市立内野中学校

校長 佐藤 靖子

主体的で協働的に学び、新たな価値を創り出すための課題との出合わせ方

「なぜ、それを追究するのか？（目的）」知的好奇心や自己実現の欲求等、学びたい意欲へ誘うための人、社会、自然等の学習対象の関わり方や出合わせ方が、最初のポイントです。これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」から、このことを何とか解決したい、貢献したいと

いう切実感が生まれるよう『自分ごと』として捉え、探究する価値のある学習課題を設定していくことが大切です。生徒の内発的な動機が、主体的で協働的に学ぼうとする意欲を持続させ、プロジェクト型学習(PBL)として、課題解決や新たな価値を創造するなど、学びを深めていくことができます。



考えるためのスキルと、アウトプットし合える学びの土壌づくり

探究活動では、考えるためのスキルを活用させると学びが深まります。「整理・分析」の過程は思考力、判断力、表現力等を育てます。そして考えるためのスキルを用いて、情報を整理・分析したものをタブレットやホワイトボード等にアウトプットすることによって、生徒間で共有し、評価し合うことができます。また、協働学習で欠かせないことは、学びの土壌が整っていることです。学びの土壌とは、挑戦や失敗が応援される「安心安全

の土壌」、違いを受け入れ活かそうとする「多様性の土壌」、日常的に問いが行き交う「対話の土壌」、地域にアクセスできる「開かれた土壌」です。課題に対し合意形成を図り最適解を導き、世の中をよりよくしようとする行動や、well-beingを向上させるために、教師は教える側のみでなく、生徒と共に学び合い、教師も自分ごととして一緒に探究しようとする大人の存在が生徒によりよい影響を与えます。

考えるための スキル	順序づける	比較する	分類する	関連づける	多面的・多角的に見る
	理由づける	見通す	具体化する	一般化する	構造化する

教職員全員で組み立てる「総合的な学習の時間」カリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間について、校務分掌担当者や学年担当者が少数で計画、運営をしていないでしょうか？総合的な学習の時間は、生徒の資質・能力を最大限に育成できる領域です。教育目標と各校で育みたい生徒像、教育ビジョンに照らし合わせ、教科横断型の軸となるよう見通しとストーリー性やテーマ(柱)を教職員全員参加型のFT等で確認しながら、プロジェクト型学習(PBL)となるようカリキュラム構成を行う検討過程が重要です。そのために検討できる時間、場面の確保をします。

修学旅行についても、総合的な学習の時間と連動させ、今までの学習を活かし、課題追究するために、何の視点をもって、何を確かめたいのか？生徒にどのような出会いをさせたら、追究課題に迫れるのか？等、担当学年のみで計画するのではなく、総合的な学習の時間のカリキュラム構成を行う際に全教職員

と一緒に計画をすると修学旅行のねらいや見通し、つけたい力が明確になります。



また、その学校独自の継続した追究学習を行うことで、先輩から後輩へ学習のバトンが渡り、経年変化調査等、長期に渡る追究活動を地域へ提供することにより、地域課題解決へより一層近づけ、地域貢献にも役立つ可能性もあります。

防災・減災学習や職場体験活動、地域の魅力紹介ビデオや成果物等、地域も学校からのアプローチを期待していますので、生徒の実態や時代のニーズのあった活動を精査し、持続可能な学習を継続することも大切です。

総合的な学習の時間 重点目標

- 学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。
- 学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。
 - 「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。

総合的な学習の時間・防災教育 <中越地区・三条市中教研>

「学習問題を『自分事』としてとらえる ことのできる防災教育」

研究主題：学習問題を「自分事」としてとらえることのできる防災教育 ～自己の生き方に生かすための学習課程の工夫～

開催日：11月25日（金）

会場校：三条市立本成寺中学校

公開：全校

授業者：相馬 宏司+全学年部職員

指導者：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 赤塚 雅之 様
三条市教育委員会 指導主事 荒川 高明 様



研究推進責任者
三条市立下田中学校
比護 一幸



会場校領域担当者
三条市立本成寺中学校
相馬 宏司

こんな深い学びの姿を目指します

- 防災教育を「知る」「考える」「行動する」の3つの段階に分け、課題を「自分事」として捉えることで、様々な場面で培った「見方・考え方」を働かせながら主体的に問題を探究する姿。
- 発表場面等で、互いに意見交流をする姿。
- 振り返りから、新たな課題を見つけていく「探究サイクル」を繰り返す姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント1 小中9か年の学習課程の工夫

中学校区で防災学習ブック「災害と向き合う」を防災学習の教材として採用し、新潟県防災学習プログラムと併用した学習課程を編成する。

（メリット）

- ① 小中9か年の防災教育を体系的・計画的に推進することができる。
- ② 共通の基準での防災教育を行うことができる。

ポイント2

「体験的活動」を取り入れた単元構成の工夫

単元の学習過程に、内容に関わる体験的活動を取り入れる。

（メリット）

- ① 「体験的活動」を行うことで、課題を「自分事」として捉えることができる。
- ② 「課題」を自らの関心に基づいて条件設定することができる。

ポイント3

情報発信（発表会など）、他者からの情報収集（意見交流など）の設定

発表会などの情報発信だけで終わるのではなく、他者からも意見をもらう情報収集の場を設定する。

（メリット）

- ① 発表により既存の知識と新しい知識をつなぎ、「新たな学び」へと変容させることができる。
- ② 意見交流により得た情報から、新たな課題へとつなげ、探究のサイクルが繰り返される。

単元(題材)の様子

① 中学校区で防災学習ブック「災害と向き合う」を防災学習の教材として採用することで、防災に関する共通の指導事項を実践し、正しい知識や考え方を獲得することができます。

ポイント1



② 中学1年生では、洪水防災に関わる講話、防災マップ作りを通して、自分たちの住む地域の特徴や危険個所をまとめ、校内発表をしました。

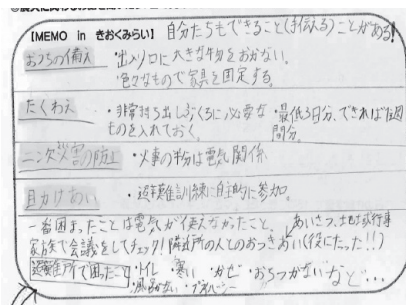
③ 中学2年生では、地震防災に関する講話、中越地震の被災地やアーカイブセンター見学、避難所運営講話やゲームなどの体験的活動を通して、それらを「自分事」として生活にどのように反映させていくかという実践的な態度を培う土台にしていきます。

④ また、それらの体験学習を次への学習に生かすため、ワークシートに毎回まとめ、ポートフォリオとして記録を残していきます。

ポイント2



⑤ 防災学習ブックやいくつかの体験学習を通して学んだ知識を生かし、自分の住む地域で災害状況を設定し、理想の避難をシミュレーションしながら、同地区の班員でまとめます。

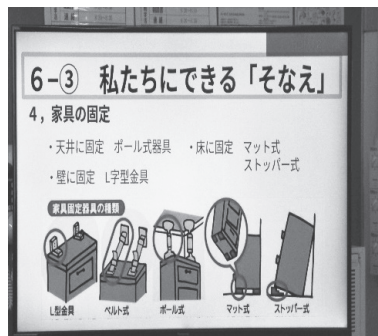


研究会

⑥ 災害から、自分自身や家族、地域を守るために何が必要で、何ができるのか「住んでいる地域の理想の避難」をまとめ、発表します。

また、意見交流する活動を通して、新たな課題へとつなげ、探究のサイクルが繰り返されるようにしていきます。

ポイント3



⑦ 中学3年生は、小学生への出前授業を行い、防災に関する学習を通して得た知識を、今後に必要なこととして練り上げ、発信します。この活動を通して、生徒は主体的に課題解決に向けて思考する姿勢を養っていきます。また、小学生は、中学校での防災学習をイメージし、これからの見通しをもつことができます。

授業の様子・学びの姿の紹介

■ポイント1 小中9か年の学習課程の工夫■

防災学習ブックを活用した学習課程の編成



防災学習ブックを活用し、防災知識の定着について小中9か年のつながりを意識した学習課程を編成しました。防災学習ブックというテキストとワークシートをもとに学習することで、活発な意見のやりとりが行われ、児童、生徒の理解や興味関心が以前より高まっている姿が見られました。また教師もテキストがあることで、学年で統一した内容で高い水準の指導を行うことができました。

■ポイント2 「自分事」と実感するための「体験的活動」を取り入れた単元構成■

きおくみらい・おらたる訪問



長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」や、やまこし復興交流館「おらたる」を訪問したり、中越地震発生当時の様子を聞いたりしました。

HUG（避難所運営ゲーム）



HUG（避難所運営ゲーム）では実際の避難所運営の大変さを体験することができました。ゲームを通して、「自分に手伝えることはないか」という共助の視点や「避難所は大変だから、在宅避難ができるように備えよう」という自助の視点で問題意識をもつことができました。

避難所設営体験



避難所設営体験では、段ボール間仕切りを実際に組み立てる活動を行いました。避難所で生活することになった場合や、その際に配慮しなければならないことを話し合うなど、「避難所」を「自分事」として考える姿が多くみられました。

■ ポイント 3 新たな価値をつくり出すための情報発信（発表会など）、他者からの情報収集（意見交換など）の設定 ■

理想の避難を考え、発表する（中2）【本時】



本時の授業では、自分自身や家族、地域を守るために何が必要で、何ができるのかを考える「自分たちの住んでいる地域の理想の避難」をテーマに学習してきたことを発表しました。意見交流場面では、避難時に考えられる様々な場面を想定した質問のやり取りが行われました。また、受けた質問から、自分の考えを改めて問い直す姿も多くみられました。

みずほ学園 防災ワークショップ （小6と中3との合同授業）



みずほ学園防災ワークショップでは、中学校区内の小学校6年生に向けて、中学校3年生が自分たちの学びを発信しました。このことは6年生にとって、一緒に活動することを通して防災を「自分事」として考える有意義な時間となりました。

成 果

体験的活動から、自分たちの地域に置き換えて課題を追究しようとする姿や、体験による気づきから自ら問いを見いだしたりする姿など、防災を「自分事」と捉えて探究的な学習へとつなげる姿が多くみられました。

発表会の意見交流場面では、質問のやり取りから、自分の考え再考する姿や、新たな課題へとつなげる探究のサイクルを繰り返す姿が見られました。また、中学校3年生が小学校6年生へ発表する場を設けることで、小学生が中学校での防災学習で目指すゴールの姿をイメージすることができました。

課 題

今回の学習課程では、地域とのつながりが少なかったことが課題として挙げられます。また、学習した内容を地域へどのように発信するかということや、地域を巻き込んだ活動を取り入れた学習過程を編成していくことが今後の課題です。小中での防災学習ブックの活用法も含め、学習課程が持続可能なものになるよう今後も検討を続けていきたいと思えます。

総合的な学習の時間 <下越地区・佐渡市中教研>

「佐渡の魅力をより多くの人に伝えよう！」

研究主題：探究的な見方・考え方を働かせ、地域の課題の解決を目指す総合的な学習

開催日：11月8日（火）

会場校：佐渡市立金井中学校

公開：3年A組

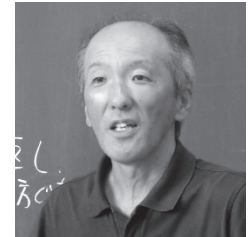
授業者：3年 中川 一貴

指導者：佐渡市教育委員会 総合教育センター 所長 加藤 雄一郎 様



研究推進責任者
佐渡市立両津中学校

堀田 直也



会場校領域担当者
佐渡市立金井中学校

大木戸 雅人

こんな深い学びの姿を目指します

- 生まれ育った佐渡の魅力に気づき、その魅力をより多くの人に伝えるための探究的な学習に主体的・協働的に取り組む姿。
- 互いのよさを生かしながら、積極的に地域に貢献しようとする姿。
- 佐渡の魅力を多くの人へ伝えるために、互いに意見を出し合いながらストーリーや撮影素材を選択し、説明を効果的に加えてYouTube動画を制作しようとする姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント1

佐渡の魅力を認識し、その広報の方法を考える

この単元の根幹である「『佐渡の魅力をより多くの人に知ってもらいたい』という意欲」を高めるためには、まず生徒が佐渡の魅力を深く知ることが肝要です。そのために、佐渡の魅力をよく知る方々を招いて講話をいただきます。次に、「どうしたら佐渡の魅力を多くの人に知ってもらえるか？」を話し合わせます。生徒が提案した案は「YouTubeに動画を掲載して佐渡の魅力を広く発信する」です。

ポイント2

動画の訴求力を高めるためのシナリオ作成や取材・編集を工夫して行う

YouTube視聴者の興味・関心を引く動画制作には「魅力的に伝えるための番組構成力」が必要です。ここで、連続する様々な課題を解決していきます。

ポイント3

制作した動画を多角的に分析する

自己満足ではなく、視聴者に佐渡の魅力がよく伝わる動画にするために、協働的な学びを進め、他班と相互に動画の改善案を出し合います。

単元(題材)の様子

① まず、佐渡へのUターンや移住者など様々な立場の島民の講話を聞いたり、佐渡のことを調べたりして、佐渡の魅力を発見していきます。



② そのようにして佐渡の魅力を認識した上で、「佐渡の魅力をより多くの人に知ってもらう方法」について話し合います。ここで挙げた様々な候補から「佐渡の魅力をPRする動画を制作し、YouTubeに掲載する」活動を選択します。そして、地域の良さをPRするものをはじめとして多くのYouTube掲載動画を調べ、比較することによって、訴求力の高い動画の特長を知り、自分たちの制作する動画の方向性を考えていきます。

ポイント1



③ YouTube視聴者の興味・関心を引く約2分間の動画を制作するために、「ストーリー性の考案」「現地での撮影・取材」「PCソフトを使用しての編集作業」を班で行っていきます。

ポイント2

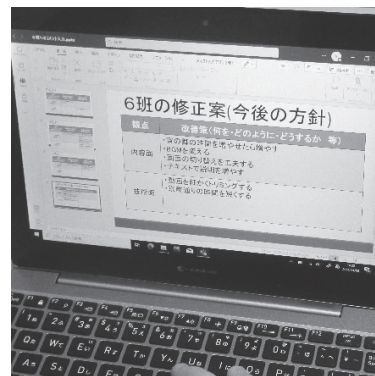
④ 編集作業を進めていくと「ストーリーに合う動画がもっと欲しい」などの新たな要望が出てきます。その解決のために2回目の現地での撮影・取材活動を行い、再び編集作業を続けます。

研究会

⑤ 《前半》制作途中の他班のPR動画を視聴し、その班の伝えたい魅力が上手に表現されている効果的な箇所と、改善した方がよい箇所を修正案を添えて班内で出し合い、他班に伝えていきます。

《後半》そして他班からのコメントを参考にして、自分たちが伝えたい佐渡の魅力をさらにより良く伝えるための改善策を、班内で考えていきます。

ポイント3



⑥ さらに2時間をかけて、動画の完成に向けての最終的な編集活動を行います。出来上がった各班の作品は、3年生全員によるコンテストを行った上で、優秀作品とされた数点をYouTubeにアップします。このコンテストにおいても互いの作品を批評し合うことによって、さらに多角的な見方を高めていきます。

授業の様子・学びの姿の紹介

■ 前時まで ■

シナリオと取材計画の作成

②シナリオ作成 (実際に動画作品が完成している状態をイメージして作ろう!)

題	内 容	時間・手段
①	北沢河遊遊亭の撮影 字幕と音楽を入れる (10分)	色がこぼれてほしい (5の所) 色んな角度から撮影 ア・エ・オ・カ (動画・写真)
②	春行所 字幕と音楽を入れる (10分)	(外行人・内側) 色んな角度から撮影 エ・バ・フ・ロ (動画・写真)
③	舟渡のはこ岩 字幕と音楽を入れる (10分)	(若・海) 色んな角度から撮影 エ・バ・フ・ロ (動画・写真)
④	金銀山 字幕と音楽を入れる (10分)	遊遊亭の裏 エ・バ・フ・ロ 中の様子 (動画・写真)

佐渡金山を中心とする相川地区の探訪により、生徒はよさに気づき、その魅力をYouTube 動画で発信したいという思いを強めました。そしてシナリオを作り(左写真)、取材計画を立てて再度取材を行った上で、前時まで編集作業を進めてきましたが、魅力が伝わる動画になったと言えるかどうか自信がない状態で本時を迎えました。

■ 本時 ■

課題提示、活動の留意点の説明

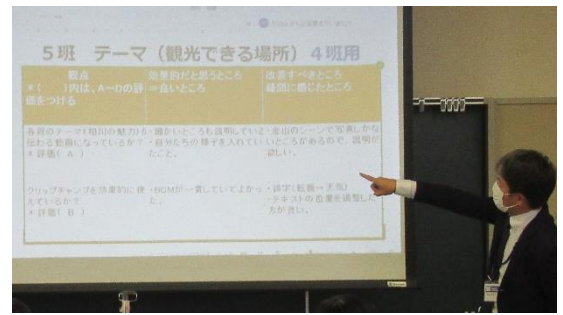


本時の導入で「魅力が伝わるよりよい動画にするために互いの動画を視聴し合い、自班の修正案を考える。」という学習課題を確認し、内容面と技術面についてそれぞれ4段階評価を付け、効果的と思う箇所と改善した方がよいと思う箇所を班内で挙げ、可能な限り修正案を添えてタブレットで入力するよう指示しました。

他班の作品の修正案を考える



他班の動画を視聴し、効果的な箇所や改善すべき箇所を挙げ、具体的な修正案も入力していきます。「テーマに沿うために歴史的建造物をもっと多くした方がよい」「○○の画像にもっと詳しい説明があった方がよい」などのアドバイスが多く挙がりました。



また、修正コメントに困っていた班があったことから、途中で一つの班の意見を例に、修正コメントの書き方についての指導を行いました。これにより、各班のコメント入力もスムーズになっていきました。

自班の修正案を検討する



他班から受けた改善案をもとに、修正案を班で検討しました。「字幕の切り替えを遅くし、説明を詳しくすることで魅力がより伝わるようにする。」「オープニングを工夫して最初の注目度を高める。」など、修正の方向性を決めていきました。

■次時以降■

全体発表会(兼代表作品選考会)



本時で他班から受けたアドバイスをもとに、その後2時間かけて修正して動画を最終完成させました。そして完成した全14作品(2クラス分)の動画は全体発表会を行い、生徒間の投票により代表作品6本を選考しました。この選考会においても、互いの作品を批評し合うことによって、多角的な見方を高めていきました。

選出された6作品は、金井中学校のホームページを通じてYouTubeやInstagram、Facebookなどに掲載する予定です。

成 果

佐渡の魅力を伝えるために佐渡のことを事前に調べたり直接取材したりし、さらによりよい動画作品にしようと編集していくなかで、多くの生徒が「佐渡の魅力を一人でも多くの人に知ってもらいたい」という気持ちを高めていった。また、自班の作品を他班から批評してもらうことで、物事を多角的に見つめる力も高めていくことができた。

課 題

本単元では佐渡の魅力を伝える手段として、生徒全員が、制作した動画をYouTube等のSNSで発信することとした。しかし、PR方法はSNS以外にもポスターやパンフレット等もあり、それらの中から生徒自身に選択させれば、活動に対する主体性や創意工夫を凝らそうとする意欲がより高まったのではないかと考えられる。